# 御雇外国人教師ウェスト資料集

総集・発行　滝 沢 正 順

１９９８年3月

# 御雇外国人教師ウエスト資料集

## 目　次


ﾍﾟｰｼﾞ

目　次 ---------- 1

ウエスト略年表 ---------- 4

1．解 説 篇 ---------- 5

1-1．御雇外国人教師ウエストについて -- 滝沢正順 ---------- 7

1．はじめに ---------- 7

2．国 籍 ---------- 9

3．ウエストの父母と弟妹 ---------- 10

4．来日まで ---------- 16

5．御雇外国人教師ウエスト ---------- 19

6．著述と地震学 ---------- 29

7．俸給と叙勲 ---------- 33

8．住居と一時帰国 ---------- 36

9．ヨット ---------- 39

10．所属した学協会 ---------- 45

11．ウエスト周辺の外国人 ---------- 49

12．死亡と葬儀 ---------- 56

13．ウエスト文庫と旧蔵ノート ---------- 60

14．ウエスト胸像 ---------- 65

15．ウエスト記念資金とウエスト記念奨学資金 ---------- 70

16．二十五回忌 ---------- 76

17．参考文献 ---------- 78

2．目 録 篇 ---------- 85
2-1．ウエスト文庫目録（単行本） ---------- 87
2-2．ウエスト文庫目録（製本雑誌） ---------- 138
2-3．ウエスト旧蔵ノート目録 ---------- 145

3．資 料 篇 ---------- 151
3-1．ウエスト肖像 ---------- 153
（明治38年7月東京帝国大学機械工学科卒業記念写真帖）
3-2．ウエスト肖像（『機械学会誌』明治41年2月） ---------- 154
3-3．ウエスト胸像、沼田一雅作（東京大学工学部構内） ---------- 155
3-4．ウエスト墓（正面・背面）（東京都立青山霊園外人墓地） ---------- 156
3-5．ウエスト撮影「帝国大学三崎臨海実験所」（『動物学雑誌』） ---------- 158
3-6．ウエスト文庫蔵書票 ---------- 159
3-7．C.D.West『Amsler's integrator applied to some calculations in naval architecture』、1885年、工部大学校刊 ---------- 160
3-8．C.D.West『Theoretical indicator diagrams for compound engines』、1885年、工部大学校刊 ---------- 186
3-9．C.D.West「Suggestions for a new type of seismograph」 ---------- 211
（日本地震学会英文報告、1883年）
3-10．J.A.Ewing「On certain methods of astatic suspension」 ---------- 215
（日本地震学会英文報告、1883年）
3-11．T.Alexander「Notes on the ball and cup seismograph」 ---------- 218
（日本地震学会英文報告、1883年）
3-12．J.Milne「Seismic experiments (Intensity of movement)」 ---------- 219
（日本地震学会英文報告、1885年）
3-13．井口在屋「故チャールス・ヂッキンソン・ウエスト先生の伝」 ---------- 224
（『機械学会誌』）
3-14．「履歴書」（外務省外交史料館所蔵） ---------- 227
3-15．海軍大学校「帝国大学雇教師英国人ウエストニ教程取調嘱託ノ件」
（防衛庁防衛研究所図書館所蔵） ---------- 230

3-16. ウェスト死亡広告（『東京朝日新聞』明治41年1月13日） ------- 233
3-17. ウェスト勲４等叙勲文書（国立公文書館所蔵） ---------- 234
3-18. ウェスト勲３等叙勲文書（国立公文書館所蔵） ---------- 239
3-19. ウェスト勲２等叙勲文書（国立公文書館所蔵） ---------- 245

# ウェスト略年表

| 年 | 年齢 | 事　歴 | 叙勲・等 |
|---|---|---|---|
| 1847 | 0才 | 1月7日ダブリンに生まれる | |
| 1865 | 18才 | トリニティカレッジ（ダブリン大学）入学 | |
| 1869 | 22才 | ダブリン大学卒業 | |
| 1882（明治15） | 35才 | 英国機械学会会員<br>8月、横浜着、工部大学校教授 | |
| 1885（明治18） | 38才 | 冊子２点発行（工部大学校より） | |
| 1886（明治19） | 39才 | 帝国大学工科大学教師 | |
| 1888（明治21） | 41才 | 工科大学が虎の門から本郷に移転 | |
| 1894（明治27） | 47才 | | 9月、勲四等 |
| 1895（明治28） | 48才 | | 10月、勅任待遇 |
| 1897（明治30） | 50才 | 帝国大学が東京帝国大学に改称 | |
| 1898（明治31） | 51才 | 一時帰国 | 4月、勲三等 |
| 1908（明治41） | 61才 | 1月10日東京帝大病院で死去(肺炎)<br>1月14日葬儀、東京・青山墓地に埋葬 | 1月、勲二等 |
| 没　後 | | | |
| 1908（明治41） | | 12月、ウェスト記念奨学資金 東京帝大に寄贈（ウェストの妹 Mrs.Dowden より） | |
| 1910（明治43） | | 3月19日、ウェスト胸像除幕式(東京帝大工科大学前庭) | |
| 1914（大正3） | | 7月、J.コンドルより寄贈のウェスト旧蔵書 東京帝大に登録 | |
| 1933（昭和8） | | 1月10日、(25回忌)故ウェスト教師記念会（学士会館） | |

## 1．解 説 篇


ﾍﾟｰｼﾞ

1-1．御雇外国人教師ウエストについて -- 滝沢正順 ---------- 7

1．はじめに ---------- 7

2．国 籍 ---------- 9

3．ウエストの父母と弟妹 ---------- 10

4．来日まで ---------- 16

5．御雇外国人教師ウエスト ---------- 19

6．著述と地震学 ---------- 29

7．俸給と叙勲 ---------- 33

8．住居と一時帰国 ---------- 36

9．ヨット ---------- 39

10．所属した学協会 ---------- 45

11．ウエスト周辺の外国人 ---------- 49

12．死亡と葬儀 ---------- 56

13．ウエスト文庫と旧蔵ノート ---------- 60

14．ウエスト胸像 ---------- 65

15．ウエスト記念資金とウエスト記念奨学資金 ---------- 70

16．二十五回忌 ---------- 76

17．参考文献 ---------- 78

## 1-1．御雇外国人教師ウェストについて

滝沢正順

1.はじめに　2.国籍　3.ウェストの父母と弟妹　4.来日まで
5.御雇外国人教師ウェスト　6.著述と地震学　7.俸給と叙勲
8.住居と一時帰国　9.ヨット　10.所属した学協会
11.ウェスト周辺の外国人　12.死亡と葬儀
13.ウェスト文庫と旧蔵ノート　14.ウェスト胸像
15.ウェスト記念資金とウェスト記念奨学資金　16.二十五回忌
17.参考文献

### 1．はじめに

明治時代のいわゆる御雇外国人のひとりにC.D.ウェストという人物がいる。

工部大学校と（東京）帝国大学の御雇外国人教師だったひとで、明治時代の機械工学と造船学の教育の上で欠くことのできない人物であり、御雇外国人のリストや事典などにも掲載されることが多いひとである。このウェストについて資料の紹介もふくめて以下に述べることにしてみたい。

工部大学校は現在の東京大学工学部の前身のひとつであるが、その工部大学校の教育の基礎をつくった英国人ヘンリー・ダイヤーは、工部大学校の「都検」（教頭）として大学校の整備運営にあたった。その点で彼は日本の工学教育の父ともいうべきひとであるが、学課の教師として機械工学と土木工学を教えてもいた。ダイヤーは明治15年に帰国するが、彼の離日後に機械工学の後任としてイギリスから来日したのがウェスト（Charles Dickinson West 1847—1908）である。

ウェストは明治15年に来日して工部大学校の機械科の教授となり、同年創設の造船科でも教えた。そして明治41年に日本で死亡するまで、工部大学校とその後身の（東京）帝国大学工科大学でおよそ25年にわたって機械工学と造船学を教え続けた。つまり明治期の工学・工業の指導的人物を多数教育したわけで、その点でウェストの存在はきわめて大きな意味をもっている。

なお、ウェストについては、従来しばしば依拠する基本資料となってきた井口在屋「故チャールス・ヂッキンソン・ウエスト先生の伝」[1]をはじめとして文献資料がいくつかあるので、本稿の最後に参考文献としてまとめることにする。

また、ウェスト旧蔵書がウェスト死後に東京帝大に寄贈され、ウェスト旧蔵のノートとともに東大機械工学科（のち機械系三学科）に保存されている。旧蔵書のほうはウェスト文庫と呼称され、１冊づつにＷ１、Ｗ２、と番号がつけられて保存されている。

注（１）『機械学会誌』第10巻18号、明治41年2月、45ー47頁。この号の巻頭にウェストの肖像とサインの写真がある。また、この文は次に再掲載されている。
日本科学史学会編『日本科学技術史大系　第18巻』（機械技術）、第一法規出版、1966年、69ー70頁。

## 2．国 籍

ウエストは国籍としては「英国人」（連合王国国民）であるが、アイルランド人である。

アイルランド島は現在は、北アイルランドが英国（連合王国）で、ダブリンなど他の部分は1949年（昭和24）に独立してアイルランド共和国になっている。しかしウエストの生きていた時代はアイルランド島すべてが英国（連合王国）の一部だった。

明治時代の文学に、自由民権運動などとの関わりから書かれた政治小説というジャンルがあるが、その代表作のひとつに東海散士「佳人の奇遇」(1)がある。「佳人の奇遇」は初篇の刊行が明治18年で、冒頭はウエスト来日と同年の明治15年にはじまっているが、この小説の主要人物にはアイルランド独立運動家の女性がおり実在の独立運動家パーネルもでてくる。

アイルランドがイングランドとの関係で、苛酷な歴史をもつ国であることは「佳人の奇遇」を考えあわせるまでもなく、ひろく知られるとおりである。四季派の詩人の丸山薫は、昭和初期に詩「汽車にのつて」(2)のなかで「ひとびとが祭の日傘をくるくるまは」す「あいるらんどのやうな田舎」などと書いたが、残念ながらアイルランド島がのどかな場所とばかりはいえないことはいうまでもない。「英国人」ウエストは「国」に関して心理的には複雑な立場にいたこともあったのではないかとも思われる。

注（1）『明治文学全集　第６巻』（明治政治小説集２）所収、筑摩書房、昭和42年。

（2）昭和10年刊の詩集『幼年』所収。
『現代日本文学大系　第93巻』（現代詩集）、筑摩書房、昭和48年、125頁。

## 3．ウェストの父母と弟妹

ウェスト（Charles Dickinson West）は聖職者の家庭の出身である。

ウェストの父はダブリンのセントパトリック大聖堂(St. Patrick's Cathedral)の首席司祭（dean）を1864年から1886年までつとめたひとで、John West博士といった。父の生年は1806年、亡くなったのは1890（明治23）年7月5日である[1]。このセントパトリック大聖堂は、「ガリヴァー旅行記」の作者として日本でもなじみ深いJ.スウィフトが、やはり首席司祭を30年以上にわたってつとめていたところでもある。

アイルランドは宗教的にはいうまでもなくカトリックが多数をしめるている。しかしウェスト家は「上流階級」に多いとされる英国国教会（日本などでは聖公会）だったようであり、C.D.ウェストの日本での葬儀も日本聖公会の教会でおこなわれている。

ウェストは1847年1月7日にダブリンで生まれている。母は Elizabeth Margaret West（旧姓 Dickinson）といい[2]、母の父は Meath の主教（bishop）をつとめたひとで、Charles Dickinson博士（1792—1842）[3]といった。つまりウェストの名はこの祖父の姓名からとられているわけである。主教 Charles Dickinson には著書がいくつかあるが、1845年に彼の遺稿集が出版されたときダブリンの St. Ann 教区の教区司祭（vicar）をしていたウェストの父 John West はこの遺稿集に岳父の伝記を書いている[4]。またウェスト文庫のW199の本にはこの母方の血縁者によると思われる「Dickinson／Oct. 1843.」と「James A Dickinson／October 1849」という２つの書き込みが記されている。

井口在屋は、ウェストが長男で、彼の下には弟１人妹２人がいて、ウェストの亡くなった明治41年（1908）にも３人の弟妹は健在だったとしている[5]。ウェストが長男だったのは確かと思われるが、このほかに男の兄弟が２人いるので、３人の弟妹というのはウェスト死亡時に存命だった弟妹だけの数である。

妹の１人は Elizabeth Dickinson West といった。彼女は結婚してダウデン夫人（Mrs. Dowden）となり、1910年頃にはダブリンに住んでいた[6]。母方の祖父 Charles Dickinson は1820年に Elizabeth という女性と結婚している[7]。つま

りウェストやダウデン夫人の祖母のわけであるが、ダウデン夫人の名はこの祖母 Elizabeth Dickinson の姓名からとられているわけである。

ダウデン夫人の夫エドワード・ダウデン（Edward Dowden 1843—1913）は1867年以降ダブリンのトリニティ・カレッジの英文学の教授をつとめているが、批評家・英文学者・詩人として知られ[8]、シェークスピアの研究書やシェリーの伝記など非常に多数の著書等がある[9]。

ダウデン夫人も詩の創作をしており、ウェスト姓での彼女の詩を収載した詩集があり[10]、ウェスト姓でのイニシャルだけの著者名 E.D.W. で単行の詩集も刊行している[11]。またダウデン姓でゲーテの戯曲の英訳と詩集の英訳を出版しているほか、夫の死後に出版された夫の詩集と書簡集の編者でもある[12]。書簡集のひとつは夫エドワードが彼女に宛てた手紙を二十数年間にわたってあつめたものである。

この妻に宛てた書簡集[13]の中には、ダウデン夫人の姉妹の1888年の婚約[14]、C.D.ウェストが教えた機械工場の労働者たちのうたった歌の歌詞[15]、絵画を描いている兄弟 R.W.West[16]、1885年8月17日に亡くなった兄弟 John Russell West[17]、それに H.H.West の著作「Edgiana」[18]などのことが出ている。またエドワード・ダウデンの肖像とともに、ダウデン夫人の肖像[19]と John Russell Westの肖像[20]も収録されている。

ウェストは生涯独身だったが、彼の死後ダウデン夫人は東京帝大機械工学科のために奨学金を寄付している。

またウェストは明治41（1908）年1月の死去のさい勲２等に叙勲されているが、その翌年の明治42年6月に文部省は、本人死亡のため勲２等の勲記を遺族へ回送してほしいと外務省へ依頼している。この件についての文部省と外務省の文書には、回送先の遺族としてダウデン夫人の名と住所が記されている[21]。

なお、ダウデン夫人の結婚は晩婚である。エドワード・ダウデンは1866年にダブリンの女子校 Alexandra College の教授になっているが、Elizabeth Dickinson West はこのときの学生だった。しかしエドワードはこの年に別の女性と結婚し、この最初の妻は３人の子供をもうけて1892年に亡くなった。その３年後の1895年（明治28）に Elizabeth Dickinson West はエドワードと結婚して２度目の妻となり、エドワードの死までの十数年間をダウデン夫人としてすごしている[2

[2]。上記の二十数年間の書簡集は、1895年の結婚以前に彼女にあてた書簡を集めたものである。

書簡集に1888年の婚約が記されている姉妹は、ダウデン夫人の妹で、Caroline Amy West といった。彼女は1888（明治21）年12月21日に、当時 Eton College の教員をしていた Edward Lyttelton（1855—1942）[23]と結婚した。彼女は娘２人をもうけ1919年に亡くなっている。彼女の夫も姉の夫と同じく知名の人物である。彼は Lyttelton卿の七男で、パブリックスクールの校長をしており（Eton College と Haileybury College）、中等教育に関する英国政府の委員会の委員をつとめてもいる。Edward Lyttelton は司祭であるとともにスポーツでも活躍し、クリケットの選手やキャプテンなどをしている。彼には学校教育やクリケット、キリスト教関係などかなりの数の著書等がある[24]。

弟たちのうち、次男の Richard Whately West（1848—1905）[25]は風景画家で詩の創作もしている。絵は1878年から1888年までの間に７点がロイヤル・アカデミーに入選しており、またロンドンのビクトリア・アンド・アルバート美術館に複数の作品が所蔵されているという。名前はダブリンの大主教（archbishop）で神学や論理学などの著作で知られる Richard Whately（1787—1863）[26]の姓名からとられたものである。父の John West はこの有名な大主教の秘書等を長くつとめている。大主教 Richard Whately には、Meath の主教 Charles Dickinson との共著をふくめ、きわめて多数の著書等がある[27]。

別の弟 John Russell West（1850?—1885）は、文筆をしているとともに医師でもあった[28]。

またウェスト死亡時にも健在だった弟 Hercules Henry West は、1910年頃イギリスのワイト島に住んでいて、東京帝大機械科の助教授内丸最一郎は明治44年から大正2年にかけて欧米旅行したさいに、ロンドンからワイト島まで訪ねにいっている[29]。この弟 H.H.West はウェスト家の庭師の老人 Edward Edge の言葉を集めた「Edgiana」を刊行しているほか、ロンドンの出版社から編集・翻訳した本を出版している[30]。H.H.West はウェストの没後25年たった昭和8年（1933）にもまだイギリスで健在だった[31]。

なお、実際に弟だったのかどうか確認できていないが、明治27（1894）年7月

15日に神奈川県にある帝国大学理科大学付属の三崎臨海実験所をウエストと一緒にウエストの弟が訪問したという記録があるので[32]、事実ならウエストの弟が日本に来たことがあったことになる。

注（1）F.Boase『Modern English biography』Vol.3、London：Frank Cass & Co. Ltd.、1965年（1st edition 1901）、1278頁。
K.G.Saur社の『World biographical archive』（マイクロフィッシュ）にも収録されている。

（2）K.G.Saur社の『World biographical archive』（マイクロフィッシュ）に収録の Richard Whately West についての記述。

（3）K.G.Saur社の『World biographical archive』（マイクロフィッシュ）および次のもの。
George Smith &c.『The Dictionary of National biography』Vol.5、Lonodn：Oxford University Press、1917年、937―938頁。

（4）注(3)の文献および次のもの。
『The British Library general catalogue of printed books to 1975』、London：K.G.Saur、Vol.82、1981年、467頁。およびVol.348、1986年、390頁。

（5）『機械学会誌』第10巻第18号、明治41年2月、45頁。

（6）後述するウエスト奨学学生に選ばれた学生の礼状による。

（7）注(3)と同じ。

（8）エドワード・ダウデンについては、あとの注(22)の文献のほか、たとえば次のものを参照。
斎藤勇監修、西川正身ほか編『研究社英米文学辞典』第３版、研究社、1985年、349頁。
Robert Welch, ed.『The Oxford companion to Irish literature』、Oxford：Clarendon Press、1996年、152―153頁。
ジョージ・サンプソン著『ケンブリッジ版イギリス文学史 ３』、R.C.チャーチル補筆、平井正穂監訳、研究社、1977年、284―285頁。

(9) 『The British Library general catalogue of printed books to 1975』Vol.86、London：K.G.Saur、1981年、355—358頁。

(10) K.G.Saur社の『World biographical archive』（マイクロフィッシュ）による。

(11) 『The British Library general catalogue of printed books to 1975』、London：K.G.Saur、Vol.342、1986年、435頁。および、Vol.348、1986年、379頁。

(12) 『The British Library general catalogue of printed books to 1975』Vol.86、London：K.G.Saur、1981年、358頁。

(13) Elizabeth Dickinson Dowden, ed.『Fragments from old letters E.D. to E.D.W. 1869—1892』Vol.1 & 2、London：J.M.Dent & Sons.、1914年。

(14) Vol.2、170頁。

(15) Vol.2、62頁。

(16) 兄弟であることは、Vol.1、163頁。

(17) 兄弟であることは、Vol.1、113頁。死亡年は、Vol.1、164・178頁、Vol.2、148—149頁。。

(18) Vol.1、199頁。

(19) Vol.2、150—151頁の間。

(20) Vol.2、156—157頁の間。

(21) 外務省外交史料館所蔵「外国人叙勲雑件・英国人之部」、ウェスト勲２等叙勲関係文書。

(22) Kathryn R. Ludwigson『Edward Dowden』、New York：Twayne Publishers、1973年、11·12·19·46頁。

(23) K.G.Saur社の『World biographical archive』（マイクロフィッシュ）、および次のもの。

L. G. Wickham Legg & c., ed.『The Dictionary of National biography 1941-1950』、Lonodn：Oxford University Press、1959年、545—546頁。

『Who was who』Vol.4 (1941—1950) 、London：Adam & Charles

Black、1952年、712頁。

(24) 『The British Library general catalogue of printed books to 1975』Vol.204、London：K.G.Saur、1983年、12—13頁。

(25) K.G.Saur社の『World biographical archive』（マイクロフィッシュ）による。

(26) 同上。および次のもの。
George Smith &c.『The Dictionary of National biography』Vol.20、Lonodn：Oxford University Press、1917年、1334—1340頁。

(27) 『The British Library general catalogue of printed books to 1975』Vol.349、London：K.G.Saur、1986年、172—179頁。

(28) K.G.Saur社の『World biographical archive』（マイクロフィッシュ）による。

(29) 内丸最一郎「欧米旅行談」、『機械学会雑纂』第9号、大正3年7月、28頁。

(30) 注(13)の書簡集Vol.1、199頁。
『The British Library general catalogue of printed books to 1975』、London：K.G.Saur、Vol.348、1986年、386頁。およびVol.91、1981年、408頁。Vol.214、1983年、241頁。

(31) 『学士会月報』第539号、昭和8年2月、2頁。

(32) 『動物学雑誌』第6巻70号、明治27年8月、314頁。

## 4．来日まで

ウェストはダブリンの名門大学トリニティ・カレッジの卒業生である。トリニティ・カレッジ（Trinity College）は多数の有名な人物の出身校でもあるアイルランドの有名校である。同校にはウェストの父や妹の夫エドワード・ダウデンも学んだほか、「ガリバー旅行記」のJ.スウィフトや「サロメ」「ドリアン・グレイの肖像」のオスカー・ワイルド、「ゴドーを待ながら」のサミュエル・ベケットなど日本でもなじみ深い人物が何人か学んでいる[1]。カレッジという名称だが複数の学部をもつ総合大学で、ダブリン大学（University of Dublin または Dublin University）ともいう。明治時代に日本で書かれたウェストについての文献などではダブリン大学と書かれていることが多い。ウェストは同校で賞を受けるなど優秀な成績であったといい[2]、またダブリン大学には26人中首席という工学部での1866年の成績記録も残っているという[3]。

工部大学校の御雇外国人教師では、土木科教授のアレキサンダーもこの大学の卒業生で、日本から帰国後にながく教授をつとめてもいる。

また工部大学校で２年間数学の教授をし、横浜で英字新聞『Japan Mail』を発行していたブリンクリーも卒業生である。

トリニティ・カレッジには1865年に入学し、1869年に卒業、その後、ウェストは３つの職歴を重ねる。しかし病気になったため無職（おそらく）の期間２年間を経たのち、日本へ御雇外国人教師としてやってくる。

大学卒業後のウェストは、井口在屋によれば、イギリスのバルケンヘッド造船所の設計技師長として在職中に日本からの招きに応じて工部大学校の教授になったとされている。亡くなったときの新聞の死亡記事にも、ベルケンヘッド造船所で働いたことがでている。しかし他の資料によれば職歴はもうすこし豊富で、イギリスの３つの職場を経験している。

ウェストの３つの職場については、資料ごとに書き方をならべてみることにする。（同内容は一部省略して記す）。

資料Ａ[4]

１．「ベルケンヘット」製鉄場「レアルド・ブロゾルス・シツプビルダル・エンド・エンヂエール」社に５年間（見習生３年、雇員２年）

2．「グレーフス・ラッド」の「ブラウンス」社

3．組合「ヌニートン」（1877年から健康上の理由で仕事をやめるまで）

資料B[5]

1．五ケ年間ベルケンヘッド製鉄場ノ見習生トナリ又雇トナル

2．グレーブスラツドニ於テ鋳鉄業并普通工学上ノ実地経験ヲ得タリ

3．ヌニートンニ於テ機械工学士及顧問工学士ノ職務ヲ以テ蒸汽機関其他諸機械ノ製造ニ従事セリ

資料C[6]

1．Messrs. Laird Brothers, of Birkenhead Iron Works.
(apprenticeship 3年、draughtsman 2年)

2．Messrs. J. J. Browne and Co., of Gravesend. (1年)

3．Abbey Engine Works, Nuneaton. (1873(?)年6月から1880年6月まで)

ウエスト旧蔵のノートでNo.1の番号のついたものには、「Sept 1874. Birkenhead」と書かれていて、1番目の職場時代のものと思われるが、製図技師としての仕事の一端を知ることのできる彩色された図が何枚も収録されている。

また、3番目の職場でウエストは、ウィリアム・シルバー・ホールという人物と一緒に働いたとAの資料に書かれている。これについてはCの資料にも partnership with Mr. W. Silver Hall と書かれている。このW.S.ホールは英国機械学会の会員だったが、亡くなったとき英国機械学会紀要に載った略伝では、partner in the firm of Hall, West and Co., Abbey Works, Nuneaton と書かれている[7]。

このホールという人物についてはあとで述べるが、そこで紹介するジェームス・ワットの眼鏡の来歴では、眼鏡を贈られた1875年の時点でホールは Abbey Engine Works, Nuneaton で foreman であると記されている[8]。

英国機械学会の毎年の会員名簿におけるホールの勤務先、および、ホールは英国土木学会会員でもあったので、そちらの紀要に載った死亡会員の略伝[9]も参照して整理すると、

・1873年に Nuneaton の Abbey Works でまずホールが働きはじめ、

・その後1877年から、ホールとウエストとの共同の「firm of Hall, West and

Co.」を Abbey Works で運営しはじめるが、

・ウエストの病気により1880年6月にこの会社は廃業、

というのが Nuneaton におけるホールとウエストとの経過のようである。

注（1）定松正ほか『イギリス文学地名事典』、研究社出版、1992年、125頁。

司馬遼太郎『愛蘭土紀行 2』（街道をゆく 31）、朝日新聞社（朝日文芸文庫）、1993年、243－245頁。

（2）このあとの注（3）～（5）ほか。

（3）北政巳『国際日本を拓いた人々』、同文舘、昭和59年、230・235頁。

（4）「英国人チャールス・ヂッキンスン・ウエスト」、稿本『傭外国人教師・講師履歴書』ゼロックス版、東京帝国大学事務部、昭和初期、（東京大学総合図書館参考室所蔵）。

（5）「履歴書」、外務省外交史料館所蔵「外国人叙勲雑件・英国人之部」自明治27年至同29年（第４巻）所収のウエスト勲４等叙勲資料中の文書。

（6）『Proceedings. The Institution of Mechanical Engineers』1908年2月、231頁。

なおこの Proceedings のことを本文中では英国機械学会紀要と記すことにする。

（7）『Proceedings. The Institution of Mechanical Engineers』1906年7月、637頁。

（8）『Proceedings. The Institution of Mechanical Engineers』1883年11月、630頁。

瀬尾政夫『故事片々』、著者発行、昭和52年、4頁。

（9）『Minutes of Proceedings of the Institution of Civil Engineers』Vol.168、1907年、343－344頁。

## 5．御雇外国人教師ウェスト

日本でのウェストの事績としては、

1．工部大学校と（東京）帝国大学工科大学の御雇外国人教師

2．地震学

3．ヨット

という３つがとくに述べられるべきことと思われる。

ウェストの工部大学校での雇用期間は明治15（1882）年8月16日からであるが、日本に到着したのはその前日の15日であると思われる。

横浜で発行されていた英字新聞には外国から来航した船の乗客名簿が載っているが、これをしらべてみると、この15日に「Sunda」というイギリスの汽船で香港から横浜に到着した乗客のなかに姓のみの「West」という名が見いだせる[1]。この前後数ヶ月にC.D.ウェストに該当しそうな名はほかに見られない。

またウェスト旧蔵ノートでNo.5という番号のつけられたノートは、工部大学校の英語名が印刷された大学ノートであるが、これには「Tokio. Aug 15／82」という地名と日付が書かれている。

おそらくこの8月15日に横浜につき、その日のうちに汽車で東京にむかって工部大学校にはいり、校名の印刷されたあたらしい大学ノートをもらって地名と日付を書き込んだのではないかと思われる。そして翌16日からが正式に教授なわけである。

またウェスト文庫のW137の本には表紙の裏に「Chas. D. West／with best wishes from W. Silver Hall／June 26, 1882」という書き込みがある。W.S.Hallはウェストの３番目の職場Nuneatonでウェストと一緒に仕事をしていた人物であり、この書き込みは日本へ向かうさいに記されたものと考えられる。（W.S.Hallについてはあとで紹介する。）

ウェストが日本に来たのは35才のときだったが、明治41年に日本で亡くなったときには61才になっていた。「先生日本に留ること二十五年有半、（日本に）始め来りしとき尚ほ壮年、後鬢髪殆んど白し」であったという[2]。

ウェストは温厚な人柄の人物だったようである。人柄についての文を並べてみ

よう。

「先生は淡泊寧静を以て己を持す、徳を以て人を愛す、姑息を以て人を愛せず……辺幅を修飾せず、怒を面に表はさず、懇切丁寧を以て人に接し人を教ふ。以上は先生の自然の品性なり」(3)

「氏は謹厳温厚頗る慈愛心に富み奴婢に対するにも礼を失はず皆氏に悦服し居りしとか」(4)

「君資性純潔学殖豊富にして其職務に忠実励精なる其教導に懇切周到なる衆皆敬重する所真に師表とすべきなり」(5)

「孜孜として学生に授業し汲汲として学生を指導し講義の周到懇切にして製図計画の精緻巧妙なる学生敬仰の高き挙て泰斗視し舟楫視せし所なり……学生より未だ嘗て一たびも君に対して不平を訴へしことなし然れども道を履む厳正にして毫末も私意を挾まず権利を主張し義務を遂行し剛柔相待ち寛猛相済ふは寔に英国紳士の態度を固持するものにして所謂君子の風は君に於て之を視る」(6)

「学生ヲ教導スルコト懇篤周到」(7)

「エンジン　イズ　マイ　ワイフといっておられたほどエンジンを愛し、温厚で親しみやすく、学生に親切であった」(8)

「We all remember him as a perfect gentleman and a most devoted teacher loving both his students and his profession equally well.」(9)

「I was struck by the gentleness, the courtesy, the transparent honesty and sincerity of the man. As one looked into his kindly eyes, the though t that at once sprung to one's mind was "verily here is a man in whom th ere is no guile. "As the father of English poets has said, he was indeed "a very gentle perfect knight."」(10)

ウェストの趣味はヨットと写真撮影であったという。ヨットについては非常に熱心だったようで、これに関しては後に述べる。

写真については、真野文二によると、「写真を好み海上に（撮影を）専らにせしものを陸上に転じ行処に撮影を試み」ていたという(11)。

またヨットと別にボートにも関心をもっていた。明治21年機械工学科卒業の朝永正三によれば次のようであったという。

「先生財ニ廉ニ受クル所ノ俸書ヲ買フニ非ズバボート又ハヨツトヲ造リ余ス所ハ之ヲ積ミテ慈善的公共的用途ニ待ツ。而シテ其ノボートノ如キ必ズシモ自己ノ娯楽ニ供スルニハアラズ寧ロ学生ニ体育ヲ奨励スルノ一手段タリシガ如シ。蓋シ明治十六七年頃迄ノ教育ハ専ラ智的方面ニ重キヲ置キ体育ヲ顧ルモノ少カリキ。当時先生尚旧工部大学校ニアリ常ニ之ヲ慨シ私財ヲ抛チテボートヲ購入シ休日ニハシバシバ吾人学生ヲ誘引シテ水上ニ遊漕シ身自ラ櫂ヲ打チ舵ヲ操リ熱心ニ鼓舞奨励セラレ又学生ノミニテ出漕セントスルコトアルトキハ喜ビテ之ヲ貸附セラレタリ。是ニ於テ学生間ニ漸次同好者ヲ増殖シ遂ニ一ノボート部ヲ組織スルニ至レリ。是今日我国一般学生間水上運動ノ盛大ナル気運ヲ馴致シタルハ先生ノ力輿ツテ大ナルモノアルヲ知ルベシ」(12)

ウェストは日本語を話すこともきいて理解することも終生できなかった。しかしそのことで日本で大きな不便は感じなかったのではないかと思われる。

工部大学校では授業はすべて英語でおこなわれていた。現在残っている工部大学校の卒業論文はすべて英文であるし、（東京）帝国大学機械科の明治時代の卒業論文もすべて英文である。ウェストのいた時期の工部大学校の『Calendar』(13)には学課の試験問題と入学試験の問題が掲載されているが、これらも（入学試験問題の一部を別にすれば）すべて英文である。日本語ができないことで大きな不便のある環境にはウェストはいなかったのである。

もっともウェストの周囲の方は必ずしもそうでないばあいもあったかもしれない。ウェストの講義の英語がわかりにくかったいう学生の回想が残されていたりもする(14)。なお、ウェストと英語に関しては、明治35年ヘンリー・ダイヤーに東京帝国大学名誉教師の称号を授与するさいの事務文書のひとつには、欄外に、英文をウェストにみてもらうべしという文が記されている(15)。

御雇外国人教師は雇用契約のきれる数年ごとに雇用の継続手続きをするが、ウェストの場合も２～３年おきに更新されたようである。確認できる雇用期間は次の通りである(16)。

１．明治15年 8月16日より

２．明治18年 8月16日より（「解雇ハ其六ヶ月前ニ報知ノ約」）

３．明治20年11月14日より

４．明治23年11月14日より26年11月13日まで

５．明治26年11月14日より29年11月13日まで

６．明治29年11月14日より32年 7月31日まで

７．明治32年 8月 1日より35年 7月31日まで

８．明治35年 8月 1日より38年 7月31日まで

９．明治38年 8月 1日より41年 7月31日まで（明治41年 1月10日死亡）

日本でのウェストの授業の負担は、たとえば工部大学校の明治16年度でのばあい次のようである[17]。（一部簡略化し、学科も省略して示す）

三年生に金曜11時ー12時、（4ー6月、10ー3月），

Steam Engines & Mechanism

月曜ー金曜、午前、（4ー6月）

Drawing Office and Works in vicinity

四年生に月曜11時ー12時（4ー6月），月曜8時ー9時半（10ー3月）

Mechanical Eng.

月曜ー金曜、午前、（10ー3月）

Drawing Office

工部大学校と（東京）帝国大学では各年度の報告書である「年報」をつくっていた。このなかに各教官の授業報告である「申報」がふくまれている。これによって授業内容を日本語で読むことができるが、ウェストの申報としては現在次の年報に収載の６点を読むことができる[18]。

| | （申報の期間） |
|---|---|
| 工部大学校第２年報 | 明治16年4月～17年3月 |
| 帝国大学第１年報（工科大学年報） | 明治18年4月～19年3月 |
| 第２年報（　〃　） | 明治19年9月～20年7月 |
| 第３年報（　〃　） | 明治20年9月～21年7月 |
| 第４年報（　〃　） | 明治21年9月～22年7月 |

第５年報（　　〃　　）　明治22年9月～23年7月

たとえば『工部大学校第２年報』の「機械工学兼造船学教授ウエスト申報」の一部を引用すると[19]、

「土木学鉱山学及ヒ造船学第三年生徒ニ授ケシ所ノ蒸気学講義ハ余ト真野（文二）氏ト共ニ之ヲ担任シ其科目ハ蒸気機関歴史一班、機関構造諸部ノ解説、蒸気性質ノ説明及ヒ之ニ関スル法式、蒸気膨張動作ノ算法、平均圧ノ算法……」

「余ハ復タ機械工学第四年生徒ニ機械ノ力学ヲ授ケタリ其科目ハ惰力論理、動力論理、及ヒ衝動ニ関スル定義、デイレンバー氏ノ原理、搖動及ヒ衝突ノ中心、回転体ノ勢力、運動機械ノ蓄積勢力、機械速度ノ浮沈、飛輪論理、等ニシテ……」

「又造船学第四年生徒ニ授ケシハ水靜力学ノ定義数箇、単一幾何的ノ形状ヲ有スル浮体ノ擬中点ノ　ニ関スル安危、靜力学及動力学ニ係ル船体安危ノ総論、排水積ニ関シ必要ナル実地計算法、擬中点ノ測定法、……」

ウエストについての学生の回想として、たとえば明治20年卒業の広田理太郎（機械工学科）は工部大学校と帝国大学工科大学とに在籍したわけであるが、

「私は卒業論文には私は river boat の都鳥丸の機関で船体は平戸さんが設計した。先生は Professor West でこの方が審査せられた。……昔は本を多くやりノートは少かつた。大学が合併してから（帝国大学工科大学になってから）West先生がノートをとらせたものがあつた。」

と昭和5年に回想している[20]。

明治21年機械工学科卒業の朝永正三は、

「先生ノ吾人学生ニ接スルヤ靄乎タル温容恰モ慈母ノ如ク如何ナル複雑ナル学理ニテモ如何ナル浅薄ナル質問ニテモ媚々説明シ諄々訓示シテ反復丁寧毫モ倦怠ノ色ナク時ニ諧謔ヲサヘ交ヘテ一種ノ感興ヲ与ヘ難解ノ問題ヲ容易ニ理会セシメラレタルコト少カラズ。加之先生休日ニハ吾人ヲ拉シテ野外ニ散策シ又ハ水上ニ浮遊シ逍遙行楽ノ中事ニ觸レ物ニ接シテ或ハ学理ノ応用ヲ説キ或ハ時世ノ通弊ヲ慨シ以テ吾人ヲ啓発訓誡セラレタルコト枚挙ニ暇アラサリキ。先生元来行ニ敏ニシテ言ニ訥ナルノ人故ニ其ノ教場ニ臨マルヽヤ豫メ其ノ教エントスル所ヲ劄記セラレ之ヲ朗誦シツヽ或ハ之ヲ黒板ニ或ハ之ヲ紙面ニ記載セラル。而シテ其ノ書風字

形ニハ一種ノ特長雅致アリテ初見ノモノハ稍ヤ読ミ難キヲ免レサリシモ其ノ見慣ルヽニ及ビテハ却テ吾人ノ印象ヲ深クシ暁解ヲ易カラシムルノ益アリキ。而シテ其ノ教案ハ元来明確ナル頭脳ヲ以テ解決セラレタル学理周到ナル注意ヲ以テ観察セラレタル事実ヲ謹厳ナル文章ニ綴ラレタルモノナレバ吾人之ヲ書取リテ再読スレバ議論正確意義明瞭ニシテ毫モ晦渋ナル所ナシ。斯ノ如クシテ筆記簿謄ヲ重ネ一科目ヲ了ルノ後更ニ更ニ之ヲ通読スレバ秩序整然首尾貫徹自ラ一大著書ノ観ヲナセリ。斯ノ如クナリシカバ偶マ日課ニ倦厭ノ心生ジタル時モ先生ノ講義ノミハ吾人ノ歎迎シテ措カサル所ナリキ」

と明治43年に述べている[21]。

またウェストの製図の指導について明治35年機械工学科卒業の内丸最一郎は、「二年生の製図は蒸気機関や往復ポンプの設計をやるのに雑誌の広告に載せてある外観写真図を切り抜き、その主要データ（気筒の内径、ピストンの行程、毎分の回転数及び出力）などを教師が与え、それから見本図などを参考してボツボツ設計に取りかかつた。英人教師ウエスト先生が毎日二年生の製図室に巡視に来て学生各自の設計に対し略図を鉛筆で画きながら指導して呉れた。」

と昭和34年に回想している[22]。内丸最一郎は昭和43年にも同内容の回想をしている[23]。

明治41年卒業でウェスト最晩年の学生である朝倉希一（機械工学科）は、「機械の先生にアイルランド人、ウエスト先生がおられて、一年の熱力学と二年の製図を担当された。……アイルランド人であることも原因しているかと思うが、英語がとてもわかりにくいし、文字も読みにくい。先生自身そのことを認めておるので、われわれは二人ずつ組んで順番に官舎に行って先生から講義を聞き、先生は講義しながら紙に書かれたので、その紙をもらって筆記したのと対照して原稿を作り、コンニャク版刷りしてわれわれに配布した。時間表にある講義のときは、先生が講義しながら黒板へ書かれた。かくてこの講義にはだいぶ手間がかかったが、十年一日のように講義されたことは、ピストンエンジンの熱力学であった。もっとわかりやすい英語で広い意味の熱力学の講義を聞きたかった。」

と昭和51年に出版した著書のなかで回想している[24]。

授業のほかに大学運営にかかわる委員等を教官がつとめることがあるが、『帝

国大学一覧』の明治24／25年から27／28年までには「構内給水工事委員」のひとりとしてウエストの名が記されている。

また来日後に設計・製作したものとして次のものがあるという。

実験用小型蒸汽機関（ウエスト指導設計、進経太製図。東京帝国大学工科大学実験室）[25]

材料試験用ねじり試験機（ウエストと井口在屋の考案設計。東京帝国大学工科大学実験所）[26]

東京高等商船学校練習船大成丸機関部（ウエストと加茂正雄の設計）[27]

さらに学外での仕事として、ウエストは海軍大学校から依頼されて同校にしばらく通っている。東大事務部に残る文書[28]では「蒸汽機関ノ理論ニ関スル教授嘱託」を明治34年3月1日から「機関科学生ノ為メ」にとなっているが、曜日や日にちを決めず「便宜来校」してとなっていてすこし不思議な感じがする。

しかしこの件について防衛庁の防衛研究所図書館所蔵の海軍大学校側の文書[29]では、「ウエストニ教授嘱託」となっているのを、「授」の字をけして「程取調」と書きなおしている。

また海軍大学校側の別の文書[30]にも「当校機関科学生ノ為メ蒸汽機関ニ関スル理論ノ教程（「ショーンチカル、インヂートル、ダイヤグラム」及「インヂケートル」）ヲ編纂致度候処帝国大学御雇教師英人ウエスト氏ハ最モ右編纂ニ適任ト認メ候條其取調ヲ嘱託シ」となっている。これなら「便宜来校」でも可能であるから、こちらの方がおそらく正しいのだろう。この仕事がおわったとき海軍大学校では謝礼として二百五十円を贈るつもりだった。しかし「本人ハ金銭ノ報酬ヲ欲セザル由」ということで、ウエストへの辞令から謝礼についての文言は削るようになったようである。

注（1）『The Japan Weekly Mail』1882年8月19日、Vol.6 No.33、1036—1037頁。

『The Japan Gazzette』1882年8月26日、Vol.30 No.4、111頁。

（2）『機械学会誌』第10巻18号、明治41年2月、47頁。

（3）『機械学会誌』第10巻18号、明治41年2月、45頁。

(4) 『万朝報』明治41年1月12日。

(5) 『東洋学芸雑誌』第25巻316号、明治41年1月、33頁。

(6) 『東洋学芸雑誌』第25巻316号、明治41年1月、34頁。

(7) 梅溪昇編『明治期外国人叙勲史料集成』第3巻、思文閣出版、1991年、329頁。

(8) 朝倉希一『人生を考えよう』開発社、昭和51年、55頁。

(9) 『学士会月報』第539号、昭和8年2月、2頁。

(10) 『学士会月報』第539号、昭和8年2月、2頁。また、『醵金計算報告、銅像建設報告』、および『The Japan Weekly Mail』1910年3月26日、Vol.53 No.13、515頁。

(11) 『東洋学芸雑誌』第25巻316号、明治41年1月、34頁。

(12) 『醵金計算報告、銅像建設報告』中の「工学博士朝永正三君の式辞」。句点を補った。

(13) 『The Calendar of the Imperial College of Engineering (Kobu-dai-gakko) ,Tokei』。

この『Calendar』の所蔵機関については次のいずれかを参照されたい。

滝沢正順「工部大学校書房の研究(1)」、『図書館界』第40巻1号、1988年5月、9頁の注の13。

滝沢正順「工部大学校の書房と蔵書」、東京大学編・発行『学問のアルケオロジー(東京大学創立百二十周年記念東京大学展、学問の過去・現在・未来、第1部)』、1997年、235ー236頁の注の13。

(14) 朝倉希一『人生を考えよう』、開発社、昭和51年、54頁。

(15) マイクロフィルム版『東京大学事務部所蔵・御雇外国人関係書類』所収の「元工部大学校教師都検兼教師ダイエルヘ本学名誉教師ノ名称授与伺」(『明治35年外国教師関係』所収)。

なおこのマイクロフィルム版『東京大学事務部所蔵・御雇外国人関係書類』は東京大学総合図書館とユネスコ東アジア文化研究センターが所蔵している。

このマイクロフィルムについての簡単な紹介として、滝沢正順「御雇外国人教師関係書類マイクロフィルム版について」、『図書館の窓』第33巻5号、1994年10月、68頁。

(16) 「工部省沿革報告」、大内兵衛・土屋喬雄編『明治前期財政経済史料集成』第17巻、明治文献資料刊行会、昭和39年、409頁。
旧工部大学校史料編纂会編『旧工部大学校史料』、虎之門会、昭和6年、（復刻版が青史社、1978年）、353頁。
マイクロフィルム版『東京大学事務部所蔵・御雇外国人関係書類』所収の文部省の雇(傭)外国人表。
「英国人チャールス・ヂッキンスン・ウエスト」、稿本『傭外国人教師・講師履歴書』ゼロックス版、東京帝国大学事務部、昭和初期、（東京大学総合図書館参考室所蔵）。
東京都公文書館所蔵文書「外務、陸軍、宮内、文部四省ノ雇外国人員照会之件」、『往復録・雇外国人関係・明治22年』所収、請求記号 617／C7／7。

(17) 『The Calendar of the Imperial College of Engineering (Kobu-dai-gakko) ,Tokei』1883年度、36ー39頁。

(18) 『工部大学校第２年報』、『明治初期教育関係基本資料・其之三』（近代日本学芸資料叢書第4集）、湖北社、1981年。
「工科大学年報」明治19～23年、東京大学史史料研究会編『東京大学年報』第５～６巻、東京大学出版会、1994年。

(19) 『工部大学校第２年報』、『明治初期教育関係基本資料・其之三』（近代日本学芸資料叢書第4集）、湖北社、1981年、82・84頁。

(20) 後藤単伝編『工科大学昔噺』（丁友会パンフレット第2号）、昭和5年、41頁。句点を一部補った。

(21) 『醵金計算報告、銅像建設報告』中の「工学博士朝永正三君の式辞」。句点を補った。

(22) 内丸最一郎「火打石から原子力まで」、『東大機械同窓会名簿』第7号、昭和34年11月現在、東大機械同窓会発行、昭和34年、25頁。

(23) 内丸最一郎「思い出話」、『日本機械学会誌』第71巻595号、昭和

43年8月、1035頁。

(24) 朝倉希一『人生を考えよう』、開発社、昭和51年、54ー55頁。

(25) 『機械学会誌』第10巻18号、明治41年2月、46頁。
『Proceedings. The Institution of Mechanical Engineers』
1908年2月、231頁。

(26) 『機械学会誌』第10巻18号、明治41年2月、46ー47頁。
『Proceedings. The Institution of Mechanical Engineers』
1908年2月、231頁。

(27) 『日本大百科全書 3』、小学館、1985年、10頁、のウエストの項（山崎俊雄執筆）。

(28) マイクロフィルム版『東京大学事務部所蔵・御雇外国人関係書類』所収の「海軍大学校長ヨリ本学教師ウェストニ教授嘱託ノ件ニ関スル照会」（『明治34年外国教師関係』所収）。

(29) 防衛庁防衛研究所図書館所蔵文書「帝国大学雇教師英国人ウエストニ教程取調嘱託ノ件」、『明治34年公文雑輯・巻25（外国人徴発1）』所収、請求番号 10／公雑／M34-25。

(30) 同上。

## 6．著述と地震学

日本でのウェストは、大学（校）の学生への教育者という側面がもっとも大きく、研究者等としての側面はあまり知られない。著述などもあまり知られない。

それでも現在次の３点を著述として確認することができる。

① 『Amsler's integrator applied to some calculations in naval architecture』
Tokyo : Printed at the College Press. 1885.
text: 24p.　plates: 7 sheets.　24cm.

② 『Theoretical indicator diagrams for compound engines』
Tokio : Printed at the College Press. 1885.
27p.　25cm.

③ 「Suggestions for a new type of seismograph」
『Transactions of the Seismological Society of Japan』Vol.6 (1883) P.22－24

①と②は工部大学校で印刷されたものだが、①には作成にあたっての真野文二の助力への謝辞が記されている。真野文二は明治14年に工部大学校機械科を卒業し（東京）帝大教授や九州帝大の初代総長をつとめた。

工部大学校の御雇外国人教師のなかには、ウェストの①と②以外にも、自分の専門に関する著述等を在任中に工部大学校で印刷・刊行したひとがいる[1]。現物で確認できる範囲でだが、たとえば、土木科のアレキサンダーは３点[2]、鉱山科のミルンは２点[3]、それぞれ工部大学校で印刷・刊行している。ウェストの①と②もそうしたもののわけである。

ちなみに、アレキサンダーはこの３点以外に、工部大学校在任期間中の1880年（明治13）に、イギリスの出版社からも本を出版しており[4]、そのタイトルページにはアレキサンダーの肩書として、東京の工部大学校土木科教授と印刷されている。また、ミルンはイギリスへの帰国後の1893年（明治26）に出版した本[5]の内容に、工部大学校で印刷・刊行した２点の内容を収録しており、その本の前書

きにもみずからそう記している[6]。

ウェストの場合にはそうした一般の出版社から出版した著書はないようだが、明治27年にウェストが勲４等に叙勲されるさいの議案文・上奏文には功績のひとつとして①と②を作成したことがあげられている[7]。

ウェストの著述の③は、ジョン・ミルンら在日外国人たちが中心となってつくった日本地震学会の英文報告に発表された地震計についての文である。この英文報告に発表された論文等のなかからいくつかをえらんで邦訳したものに『日本地震学会報告』全５冊があるが、ウェストのこの文は収録されていない。英文報告ではウェストの③の文に続いて東京大学理学部工学科教授ユーイングの文[8]と工部大学校土木科教授アレキサンダーの文[9]が掲載されているが、このどちらの文にもウェストの名が出ている。

また、地震動の加速度の大きさを計算するためのウェストの公式は、強震計が開発される以前において地震の被害調査のさいに、墓石など倒壊物を調べてウェストの公式によって加速度の大きさを計算したそうであるが[10]、このウェストの公式はC.D.ウェストによるもので、ジョン・ミルンが日本地震学会の1885年（明治18）の英文報告に発表した実験報告のなかに記されている[11]。

ジョン・ミルンは地震学の単行本として『地震学』『地震とその他の地球の運動』の２冊を出版しているが[12]、この２冊のなかにはウェストの③の文に書かれた内容やウェストの公式など、数ヶ所にウェスト関連のことが記されている。

現在の東京大学工学部の前身は、明治19年に工部大学校と東京大学工芸学部（工学科など理学部の一部を改組したもの）が合併した帝国大学工科大学であるが、明治10年代に東京大学理学部工学科で機械工学を教えたユーイングが、地震計や実測地震学の端緒をひらくことで地震学におおきく貢献したことはよく知られている。現在の東京大学工学部の前身である明治10年代の２つの大学（校）では、ユーイングとウェストというどちらも機械工学の御雇外国人教師が地震学で足跡を残しているわけである。

注（1）アレキサンダーとミルンについてのこの部分の内容は、東京大学編・発行『学問のアルケオロジー（東京大学創立百二十周年記念

東京大学展、学問の過去・現在・未来、第１部）』、1997年、の417―430頁、附属図書館編集「著作・記録に見る「お雇い外国人」の足跡」の内容と重複しているが、工学部関係の５人の御雇外国人教師に関する部分はおおむね滝沢が担当・執筆した部分である。

（2）『Analytical theory of bending moments produced by travelling load systems』、1879年。

『Analysis and comparative advantages of the Fink, Bollman and Warren systems of trussing, after the French of Dr. Maurice Levy』、1880年。

『Graphical statics for plane sets of forces』、1882年。

（3）『Phenomena connected with mineral deposits』、1878年。

『Notes on the ventilation of mines』、1879年。

（4）『Elementary applied mechanics』、London：Macmillan and Co.

（5）『The miner's handbook』、London：Crosby Lockwood and Son.

（6）石山洋「ジョン・ミルン（明治科学の恩人達１）」、『科学技術文献サービス』第23号、1968年、54―55頁。

（7）梅渓昇編『明治期外国人叙勲史料集成』第3巻、思文閣出版、1991年、76―77頁。

（8）J. A. Ewing「On certain methods of astatic suspension」、『Transactions of the Seismological Society of Japan』Vol.6、1883年、25頁。

（9）T. Alexander「Note on the ball and cup seismograph」、『Transactions of the Seismological Society of Japan』Vol.6、1883年、30頁。

（10）大崎順彦『地震と建築』、岩波書店（岩波新書）、1983年、66―69頁。

（11）藤井陽一郎『日本の地震学』、紀伊国屋書店（紀伊国屋新書）、1967年、92―94頁。

John Milne「Seismic experiments」、『Transactions of the

Seismological Society of Japan』Vol.8、1885年、35—36頁。

(12) 『Seismology』、London：Kegan Paul, Trench, Trubner, & Co.、1898年。

『Earthquakes and other earth movements』、New York：D.appleton and Company、1886年。

## 7．俸給と叙勲

ウエストの日本での俸給は工部大学校では月給350円だった。帝国大学になってから金額は上がっているが、確認できる範囲でしるすと次のとおりである[1]。

（月給）

| | | |
|---|---|---|
| 350円 | 明治15年 8月16日より19年 | |
| 銀貨 350円 | 明治19年 | より21年12月31日（22年1月まで？） |
| 銀貨 370円 | 明治22年 1月 | より31年 5月31日まで |
| 金貨 462円50銭 | 明治31年 6月 1日より32年 7月31日まで | |
| 625円 | 明治32年 8月 1日より35年 7月31日まで | |
| 675円 | 明治35年 8月 1日より41年 7月31日まで | |
| | | （41年1月10日死亡） |

また月給と別に支給が保証されていた来日と帰国の旅費は、確認できるのは次のとおりである[2]。（「より」「まで」のついたもの以外は期限の開始と終了の年月日は確認できていない）

| | | |
|---|---|---|
| 来航 | 上等乗船切符１枚と英金貨60ポンド | |
| | | 明治24年12月31日 ～ 30年11月25日 |
| 帰国 | 上等乗船切符１枚と100円 | |
| | | 明治24年12月31日 ～ 26年10月15日 |
| 〃 | 銀貨 650円 | 明治30年11月25日 ～ 31年 5月31日まで |
| 〃 | 975円 | 明治31年 6月 1日より38年 5月31日 |
| | | （38年 7月31日まで？） |

工部大学校の御雇外国人教師で叙勲されたひとは何人もいるが、ウエストの場合、明治27年9月に勲４等旭日小綬賞、明治31年4月に勲３等瑞宝賞、明治41年1月に勲２等瑞宝賞に叙せられている。

このうち勲３等はヨーロッパへ帰国するに際しての勲位進級であり、勲２等は死去にさいして功労を表彰するためのものである。

ウエストの叙勲関係の資料としては国立公文書館所蔵文書[3]、東京大学事務部

所蔵文書[4]、外務省外交史料館所蔵文書[5]の３種類をみることができるが、東京大学事務部文書のなかの勲２等への上申のための文には、末尾に「四十、十二、二十八。ゐのくち ありや。」と記されているので[6]、明治40年12月28日に井口在屋が執筆したものであることがわかる。勲２等は実際には死去にさいして贈られたが、明治41年1月10日のウェストの死は突然のことで、その翌月の2月15日にはウェスト在職25周年の会が予定されていたので、この上申の文は２月の在職25周年の会にあわせて勲２等に叙すためのものだった可能性もあると思われる。

また前に記したように、外務省外交史料館所蔵のウェスト勲２等関係の文書のなかには、ウェストの死と勲２等叙勲の翌年の明治42年6月に、ウェスト本人死亡のため、勲２等の勲記を遺族へ回送してほしいという文部省から外務省への依頼の文書があり、回送先の遺族として文部省と外務省の文書には、ウェストの妹のダウデン夫人の名と住所が記されている。

注（1）「工部省沿革報告」、大内兵衛・土屋喬雄編『明治前期財政経済史料集成』第17巻、明治文献資料刊行会、昭和39年、409頁。
旧工部大学校史料編纂会編『旧工部大学校史料』、虎之門会、昭和6年、（復刻版が青史社、1978年）、353頁。
マイクロフィルム版『東京大学事務部所蔵・御雇外国人関係書類』所収の文部省の雇(備)外国人表。
「工科大学年報」明治19～23年、東京大学史史料研究会編『東京大学年報』第5～6巻、東京大学出版会、1994年。

（2）マイクロフィルム版『東京大学事務部所蔵・御雇外国人関係書類』所収の文書および文部省の雇(備)外国人表。

（3）梅渓昇編『明治期外国人叙勲史料集成』第3―4巻、思文閣出版、1991年、（国立公文書館所蔵文書の影印版、ただし内容重複の文書に不掲載のものがある）。

（4）マイクロフィルム版『東京大学事務部所蔵・御雇外国人関係書類』所収。

（5）外務省外交史料館所蔵「外国人叙勲雑件・英国人之部」。

（6）マイクロフィルム版『東京大学事務部所蔵・御雇外国人関係書類』

所収の「工科大学教師英国人勲三等チャールス、ヂッキンソン、ウエスト勲二等瑞宝賞贈与方上申ノ件」（『外国教師関係書類（自明治39年至同44年）』所収）。

## 8．住居と一時帰国

ウェストの日本での住まいは、工部大学校および虎の門時代の帝国大学工科大学（工部大学校のキャンパスをそのまま使用）では、構内の外国教師館だった。

工科大学が本郷に移転した明治21年以後も、やはり本郷キャンパス内の外国教師館に住んでいた。本郷キャンパス内の外国教師館には番号がつけられていたが明治21年から31年（または32年途中）までは五番館、32年以後は十三番館に住んでいた[1]。

ウェスト文庫のW84の本は1898年（明治31）発行であるが、この本には「1899」という数字と「13 Kaga Yashiki, Tokyo.」という住所との書き込みがあって、1899年（明治32）にウェストがこの本を購入したときには住居はもう五番館でなく十三番館であったことがわかる。

明治32年の東京帝大の事務文書綴『学内往復』には、「分科大学ヘ本学会計課ヲ旧五番教師館ヘ移スノ通知」という文書があって、これはウェストがそれまで住んでいた建物であろうと思われる。

明治32年に、幕末に欧米各国と結ばれたいわゆる不平等条約の改正条約の実施があって、日本在住の欧米国民にとっては治外法権がなくなったかわり、日本国内での旅行が自由になり、居住も居留地や学校内等に限定されなくなった。しかしウェストは引き続き亡くなるまで、大学構内に住んでいた。

本郷でのウェストの教師館の場所について、明治26年に帝大造家科を卒業し、教授や工学部長をつとめた塚本靖が、自分が学生だった時期を昭和５年に回想したなかに、「猶其頃は構内に外国人教師の官宅があつて、工科大学の教師ミルン氏は今のタンクの附近北の方に住し、之に隣して応用化学新館の北の方には同ウエスト氏の宅があり、･･･」[2]とある。また朝倉希一（明治41年機械工学科卒）の回想には「校庭内の一高寄りの処にある宿舎に住っておられた」[3]とある。

大森貝塚の発見や進化論の日本への紹介で知られるE.S.モースは東京大学の動物学教授であったが、明治10～12年の間、本郷キャンパスの五番教師館に住んでいた。モースの描いた五番館のスケッチとモースの写った五番館の写真がモースについての研究書に掲載されているが[4]、明治21年まで教師館の番号づけに変更がないとすれば、このスケッチと写真の建物はウェストの住んだ建物ということ

になると思われる。

ウェストは明治15年の来日から明治41年の日本での死までのあいだに、１回だけ帰国している[5]。

帰国したのは明治31年で、それまで勲４等であったウェストが、この一時期国する前に勲位進級して勲３等を叙勲してもらったということは前にしるした。

来日してからこの帰国までの間にウェストの父と弟１人が亡くなっており、妹２人の結婚もこの間である。

帰国の前の送別会の席上ウェストは次のようにのべたという。

「余は真に日本を愛す。故に此土に棲む久し。今故山に帰るも相逢ふもの兄弟親戚の外朋友数輩に過ぎず。浦島太郎は方に此の如きもの乎」[6]。

日本から出航したのは4月のようである。「今般帰国ニ際シ」て、勲４等から勲位進級して勲３等瑞宝賞を授賞することの上奏は外務大臣から4月1日付でなされ、内閣総理大臣伊藤博文は4月14日付で裁可を仰いでいる[7]。また、明治31年4月15日に横浜からカナダのバンクーバーへ向けて出航したイギリスの汽船「Empress of China」の乗客名簿のなかには「Mr. Chas D. West」という名を見いだすことができる[8]。

ウェスト旧蔵ノートには講義内容を記録したノートがあるが、この一時帰国中は当然ながら、講義記録はない。「Epitome of Lectures. 1895—1900」のノートには、1897／98年度（明治30／31）の 2nd Term の講義記録が、1898年（明治31）の3月14日（月曜）まで記され、次のページには一番上の部分に「Renew after nine months absence.」と記されたあと、1898／99年度（明治31／32）の 2nd Term の講義記録のための日付が、1899年（明治32）の1月9日（月曜）から記されている。

注（1）マイクロフィルム版『東京大学事務部所蔵・御雇外国人関係書類』所収の文部省の雇(備)外国人表。
東京都公文書館所蔵文書「外務、陸軍、宮内、文部四省ノ雇外国人員照会之件」、『往復録・雇外国人関係・明治22年』所収、請求記号 617／C7／7。

（2）塚本靖「学生生活の面影」、後藤単伝編『工科大学昔噺』（丁友会パンフレット第２号）、昭和5年、47頁。

（3）朝倉希一『人生を考えよう』、開発社、昭和51年、54頁。

（4）磯野直秀『モースその日その日』、有隣堂、昭和62年、163頁。ジョン・セイヤー、守屋毅、ほか『モースの贈り物』、小学館、1992年、160頁。

（5）『Engineering』Vol.85、1908年、125頁。『東洋学芸雑誌』第25巻316号、明治41年1月、34頁。

（6）『東洋学芸雑誌』第25巻316号、明治41年1月、34頁。句点を補った。

（7）梅渓昇編『明治期外国人叙勲史料集成』第3巻、思文閣出版、1991年、329―330頁。

（8）『The Japan Weekly Mail』1898年4月16日、Vol.29 No.16、409―410頁。

## 9．ヨット

横浜の貿易商で海洋生物の在野の研究者でもあったアラン・オーストンはウェストのヨット仲間であるが、ウェストのことをもっとも熱心なヨットマンだったと記している[1]。ウェストとヨットについてまとめてみることにしたい。

ウェストのヨットの趣味について井口在屋は、「先生は多大の趣味を以て巧みにヨット（yacht）を設計し人に謂て曰くこれ Poetry of naval architecture なりと、蓋し造船学に於て最も美妙なる着想考案を要するはヨットの設計なりとなり」と書いている[2]。

また明治21年機械工学科卒業の朝永正三は、前にも引用したが、「先生財ニ廉ニ、受クル所ノ俸、書ヲ買フニ非ズバボート又ハヨツトヲ造リ、余ス所ハ之ヲ積ミテ慈善的公共的用途ニ待ツ」と述べている[3]。

ウェストは「Daimyo（大名）」「Ronin（浪人）」という２隻のヨットを設計して建造させ、自分で操縦した。

２隻とも日本で製造されているが、「浪人」の方については、造船協会編『日本近世造船史・明治時代』（弘道舘、明治44年）[4]と工学会編・発行『明治工業史・造船篇』（大正14年）[5]の「快遊船」の項に、「浪人」の写真とともに、ウェストが東京石川島造船所ではじめて建造させたと記されている。

この２冊の「快遊船」の項によると、日本ではヨットは明治以後に外国人の間で流行するようになり、明治19年彼らは横浜にヨットクラブを設立し、「時々帆走競技会を開き、此の娯楽を奨励し」たという。この横浜のヨットクラブ（「横浜快遊艇倶楽部」）は明治末にもなお盛んであって、艇数40隻会員数百五十余人に達していたという。ただヨットを所有する日本人は明治末でもきわめてまれで、日本の漁船に間接に影響をあたえたにすぎないという。

（なお、明治19年に欧米人たちによって横浜で設立されたヨットクラブは横浜セーリングクラブで、明治30年に横浜ヨットクラブと改称されたという。）[6]

そしてヨットは当初外国から輸入されたが、のちに日本の国内でも製造されるようになったとして実例が数隻あげられている。ウェストが設計し建造させた「浪人」は日本での早い例としてだと思われるが、一番はじめにあげられている。

『石川島重工業株式会社108年史』（同社、昭和36年）は「浪人」を日本で最初に建造されたヨットであるとし、同社の造船番号78番、明治19年建造、木造ヨット、総トン数2.0であると記している(7)。

英字新聞『The Japan Weekly Mail』には、横浜で欧米人たちが楽しんだクリケットなどスポーツの記事があるが、週末等におこなわれたヨットレースについての記事もある。1889（明治22）年8月～11月掲載のものを例にとってみよう。

8月10・31日、9月14・21・28日、10月12・26日に記事のでている Yokohama Sailing Club のレースには「大名」が出場している。また11月16日に掲載の Yokohama Sailing Club の会合の記事ではウエストも出席していて、ウエストの発言のなかには「大名」の名もでている。

この会合の出席者は記事に名のでている21人はすべて欧米人のみだが、10月19日と11月9日にレースの記事のでている Imperial Model Yacht Club の方は、欧米人の名とともに日本人の名もでている。こちらのクラブの11月9日の記事ではヨットの所有者名があるが、「Keepsake」「Blaikie」「Tsuru」（「Dai-ichi Tsuru」）というウエスト所有のヨットが３隻も（いずれもカッター）同時に１つのレースに出場していて、ウエストは「Tsuru」で出場している。この３隻はたとえば翌年1890（明治23）年11月15日に記事のでている Imperial Model Yacht Club の天長節（天皇誕生日）のレースにも３隻とも出場している。この天長節のレースには出場者のなかにウエストとともにオーストンの名もみえる。３隻のヨットのうち「Blaikie」という名は後述の「浪人」の製造者の姓と同じである。

ウエスト文庫のW90の本はヨットの本であるが、この本には1889年（明治22）7月20日の Yokohama Sailing Club のヨットレースでウエストが優勝したさいの賞品であるという書き込みが記されている。『The Japan Weekly Mail』1889年7月27日号の83―84頁に掲載されているヨットレースの記事がこれに該当すると思われるが、記事によればＢクラス部門には「大名」が、Ｃクラス部門には「浪人」がそれぞれ出場していて、5隻出場のＢクラス部門で「大名」が優勝している。W90の本の書き込みは、

Yokohama Sailing Club／20th July 1889／B Class／Prize／won by／"Daimyo"／C.D.West

となっている。

また、趣味としてだけでなく、帝大造船科の授業ではヨットについて講義していたことが、『帝国大学年報（工科大学年報）』のなかの「ウエスト申報」の記述によって知ることができる。明治21年9月からの年度の第２学期の記述から引用してみると、「造船学科第二年生ニハ遊船(ヨット)ノ講義ヲ為セリ此級ノ学生ノ一人ナル寺野氏ハ當時余カ所有セル水線ノ長サ弐拾五呎ノ小型遊船ノ完全ナル計画ヲナセリ」[8]。そして第３学期にも２年生へのこの講義は継続したとなっている。引用文中に名の出ている学生の寺野は寺野精一で、（東京）帝大造船科の助教授・教授となり、明治30年創設の造船協会（現・日本造船学会）の創立者のひとりでもある。

ウェストとヨットについては白崎謙太郎『日本ヨット史・文久元年～昭和20年』（舵社、1988年）に１節をとるほか記載があるが、それによると「大名」の帆走図を載せた本がいくつかあるほか、「大名」は大正12年の関東大震災のときには横浜港で避難のため何人もの外国人をのせており[9]、また、第２次世界大戦後の1960年代にもオーストラリアで現役のヨットとして活躍していたとするヨット関係の本もあるそうである。

また磯野直秀『三崎臨海実験所を去来した人たち』（学会出版センター、1988年）にもウエストとヨットに関して記されており、それによると、ウエストと「大名」は、神奈川県にある帝国大学理科大学付属の三崎臨海実験所で、海洋生物採集に活躍したことが当時の『動物学雑誌』に記されているという。『動物学雑誌』の第５巻（明治26年）の巻頭にはウエスト撮影の三崎臨海実験所の写真が掲載されており、これは当時の三崎臨海実験所を撮影した唯一の鮮明な写真ということである。

同書によれば『動物学雑誌』の第２巻（明治23年）から第６巻（明治27年）までウエストの名が出ているとのことなので、しらべてみると次のとおりである。

| | | | （記事名・見出し名） |
|---|---|---|---|
| 第2巻22号 | 明治23年8月 | 360―361頁 | 「相州三崎帝国大学臨海実験所日誌抄録」 |
| 第2巻23号 | 明治23年9月 | 406頁 | 「電灯ヲ用イテ上曳ヲ試ム」 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第3巻35号 | 明治24年9月 | 378－379頁 | 「相州三崎帝国大学臨海実験所概況」 |
| 同 | 同 | 379－380頁 | 「ウエスト氏の厚情」 |
| 第5巻51号 | 明治26年1月 | 2頁 | 「相州三崎帝国大学臨海実験所」 |
| 第6巻70号 | 明治27年8月 | 314頁 | 「相州三崎帝国大学臨海実験所」 |

『動物学雑誌』にウエストの名がでている時期は、日本在住の欧米国民は旅行はまだ自由にできない時期だが、東京大学事務部所蔵文書には「工科大学教師ウエスト東京湾海岸房相地方等舩遊ニ付旅行免状請求ノ件」という文書があり(10)、これは明治26年（1893）7～9月の船遊びのために請求したもので、ヨットはウエスト所有の「大名」で「伊豆、相模、安房沿海ノ諸島嶼及大島巡回」となっている。この文書ではウエストは、地方の役場では（スポーツのための）ヨットと密漁船との区別ができないので、「大名」の外形を確認できるよう免状に「大名」の写真を貼付してほしいと依頼し、依頼どおり写真付きの証明書が発行されている。

ウエスト文庫にはヨット関係の本が何冊もあるが、そのなかに２冊、イギリスのロイド船級協会のヨットの船名録がある。W91の船名録は1883年5月から１年間の年度ものでW.R.Browneという人物の購入したもの。W92の船名録はウエストの購入したもので1900年5月から１年間の年度のものである。

世界中のヨットが掲載されているが、1883／84年度（明治16／17）のものには、ウエストの名も「大名」「浪人」もいっさい掲載されていない。また日本のヨットクラブの掲載もない。

それにたいし1900／01年度（明治33／34）のには「大名」「浪人」がでている。この船名録は予約購入制で、購入者リストが載っているが、そこにはYokohama Yacht Clubの名もみえる。またヨットの設計・製造者のリストでみると、ウエストはこの時点で「大名」「浪人」の２隻しか設計していないことがわかる。そして２隻ともこの年度における所有者はウエストになっていない。

ヨットについてのこの船名録のデータは正確なはずなので、参考までに記しておくことにする。ただし「浪人」についてのデータは『石川島重工業株式会社108年史』と相違している。

２隻とも木製のカッターで、「Ronin（浪人）」は1887（明治20）年東京で製造。

製造者は D.Blaikie 、長さ21フィート、４トン、所有者は H.Goldman と E.Mendelson の２人である。

東京石川島造船所で「浪人」をつくったといっても、じっさいの製造者は日本人ではないわけである。

「Daimyo（大名）」は1889（明治22）年横浜で製造。製造者は G.Whitfield 、長さ25,9フィート、６トン、所有者は Capt.J.J.Carst となっている。

製造者のG.ウィットフィールドは横浜で造船所を経営していて、横浜セーリングクラブの初代理事のひとりであるという。

さて、ウェスト文庫中のW124の本には1897年（明治30）6月22日の Yokohama Yacht Club の横浜でのレガッタのプログラムがはさまれていた。もっともいつからこの本にはさまれていたかはわからないが。

このプログラムでは出場者のほとんどは欧米人で、「大名」と「浪人」も出場しているが、ウェストは出場者ではなく、ウェストの名はこの日の officer として印刷されている。

この日のレガッタは Diamond Jubilee（ヴィクトリア女王在位60年記念祝典）の余興の一部であったと思われる。翌6月23日の『毎日新聞』をみると、22日のイギリスでの祝典の準備や、東京の英国公使館での祝賀会のもようとともに、「横浜に於ける祝賀会」として次の記事が載っている。

「英国女皇即位六十年祝典に付横浜在留同国人の発起にて昨日正十二時より同市共同公園に於て最も盛なる祝賀会を行ひたるに英国代理公使ラウザー氏以下公使舘員一同は午前八時横浜に赴き参会されしが同祝賀会の来客は殆んど一千名近くに及び式終りたる後ち種々の競技余興等ありしといふ」

横浜ヨットクラブのレガッタは、記事にいう式後の競技・余興のひとつであったようで、プログラムの表紙には Diamond Jubilee の文字やヴィクトリア女王の肖像が印刷されている。

注（1）『"Japan Gazette" Yokohama Semi-Centennial』、1909（明治42）年7月、19頁、（横浜開港資料館所蔵ブルーム・コレクション）。日本語訳された『市民グラフヨコハマ』No.41（開港記念日特集・全訳『ジャパン・ガゼット横浜50年史』）、横浜市発行、1982年

6月、23頁。

（2）『機械学会誌』第10巻18号、明治41年2月、46頁

（3）『醵金計算報告、銅像建設報告』中の「工学博士朝永正三君の式辞」。読点を補った。

（4）670―673頁。なお、復刻版が原書房、1973年。

（5）228―231頁。なお、復刻版が学術文献普及会、昭和43年。

（6）横浜における幕末・明治のヨットと造船所について概略をトピック的に知ることができるものとして次の文献を参照。

横浜開港資料館編『横浜もののはじめ考』、横浜開港資料普及協会発行、1988年、127―129頁。

『特別展・横浜の造船業』（展覧会図録、横浜市西区の横浜マリタイムミュージアムで開催、1991年）、横浜マリタイムミュージアム編・発行、1991年。

（7）239―241・867・902―903頁。

（8）「工科大学年報」明治22年報、東京大学史史料研究会編『東京大学年報』第６巻、東京大学出版会、1994年、390頁。

（9）O.M.プール『古き横浜の壊滅』、金井圓訳、有隣堂、昭和51年。

（10）マイクロフィルム版『東京大学事務部所蔵・御雇外国人関係書類』所収（『明治26年外国教師関係書類』所収）。

## １０．所属した学協会

ウエストは趣味のヨットでは Yokohama Sailing Club (Yokohama Yacht Club) と Imperial Model Yacht Club に所属していたと思われるが、学協会への所属等でわかるものとしては次のものがある。

- Institution of Mechanical Engineers (英国機械学会) 会員
  1882年(明治15)入会[1]
- Seismological Society of Japan (日本地震学会) 会員
  1883年 (明治16) 入会[2]
- Asiatic Society of Japan (日本アジア協会) 会員
  1883年 (明治16) 入会[3]
- British Association for the Advancement of Science会員
  1898年 (明治31) 入会[4]
- (日本) 機械学会名誉員　明治32年推薦決議[5]

英国機械学会は1847年に設立された学会。ウエストの入会した1882年 (明治15) は来日した年であるが、この年の英国機械学会紀要に掲載されたウエストの名の載った新会員名リスト[6]ではウエストの住所はすでに東京になっている。

なお、日本でウエストの「肩書」として記されている学位・称号としては

M.A.,C.E. (Dublin Univ.)

(Master of Arts, Civil Engineering)

M.I.Mech.E. (London)

(Member of Institution of Mechanical Engineers)

の２つが使われている。これらの日本文での書き方も１例を記しておくと、

愛国ダブリン大学校及第マストル、オフ、アーツ」シビル、インジニール」メムボル、オフ、インスチチユート、オフ、メカニカル、インジニール

となっている[7]。

明治時代に日本にいる英国機械学会会員の数は当然ながらきわめて少ない。英国機械学会の会員名簿についている地域別の会員名リストによって、1901年 (明治34) の場合で人数をみてみると、会員が16人、そのほかに準会員が5人いるだけ

である。会員と準会員をあわせた21人の内訳は、欧米人8人、日本人13人で、

| | | | |
|---|---|---|---|
| 長崎 | 1人（欧米人0、 | 日本人1） | |
| 神戸 | 2人（ | 2、 | 0） |
| 大阪 | 5人（ | 0、 | 5） |
| 横浜 | 1人（ | 1、 | 0） |
| 東京 | 12人（ | 5、 | 7） |

となっている。ウエストも後述するW.S.ホールも東京であるが、この頃には日本人にも（準）会員がふえて、欧米人よりも多いわけである。東京の会員には、東京帝大機械工学科の教授・助教授である真野文二と斯波忠三郎もふくまれている。

明治初期には日本に多数いた御雇外国人も、時間の経過とともにその数は少なくなってくる。もともと御雇外国人は日本人の人材がそろうまでの過渡的な存在であったし、彼らの高い給与が財政的に大きな負担だったためでもある。日本における人材という点からいえば、欧米人よりも日本人の英国機械学会の（準）会員数が多いのは、日本の工学・工業の順当な発展の一端をしめしているといえるように思われる。

なお、毎年の英国機械学会紀要の索引を調べてみると、紀要にウエストが出ているのは、会員になったことが記された1882年(明治15)と、亡くなったときの死亡会員の略伝の1908年（明治41）との２回だけである。会員だった期間が日本在住期間と重なっているためもあって、大会での発言や論文掲載等はない。

日本地震学会は現在も同名のものがあるが、ウエストが入会した日本地震学会は現在のものとは別で、ジョン・ミルンら在日外国人たちによって明治13年（1880）に設立されたが、会員の外国人たちが帰国等で減少し、明治25年に解散した学会である。ウエストの入会した明治16年は、前に記したウエストの地震計についての文が日本地震学会英文報告に発表された年である。

日本アジア協会は在日外国人たちが日本研究のために明治5年（1872）に設立した団体で[8]、現在も同じ名称で存続している。日本アジア協会紀要に掲載の毎年の会員リストをみるとウエストが来日した明治15年の時点で、コンドル・ミルン・ダイヴァースといった工部大学校の御雇外国人教師たちが会員になっている。ウエストの入会もそうした会員たちの勧誘によるものだろうと思われる。日本ア

ジア協会紀要に掲載の会の議事録をみてみると、たとえば1883（明治16）年6月25日に築地でひらかれた会の議事録にはウェストとミルンの名が出ている。ミルンやコンドルが日本アジア協会で講演発表していることはよく知られているが、日本アジア協会紀要にはウェストの発表文は掲載されていない。

日本機械学会は昭和13年に現在のように「日本」のついた名称に改称されたが、それまでは機械学会という名称だった。設立は明治30年である。

機械学会ではウェストとヘンリー・ダイヤーの二人を機械学会の名誉員（名誉会員）とするため、明治32年7月16日に第１回の正員会（のち臨時総会と改称）を開き、「機械学芸ニ関シ顕著ノ功績アルモノニ限ル」(9)名誉員とすることを決議した。ウェストとダイヤーは機械学会として最初の名誉員である。

なお、学協会ではないが、ヘンリー・ダイヤーやコンドル、ミルンらは東京帝国大学名誉教師の称号を東京帝大から受けている。この称号は、東京帝国大学（工部大学校など前身校をふくむ）のもと御雇外国人教師でまだ存命のひとにあたえられているので、現職のまま死亡したウェストはこの称号を受けることはなかった。

注（1）『Proceedings. The Institution of Mechanical Engineers』、1882年、255頁。

（2）入会年は『Transactions of the Seismological Society of Japan』収録の各年の会員名簿にウェストの名がはじめて出てくる年による。

（3）入会年は『Transactions of the Asiatic Society of Japan』収録の各年の会員名簿にウェストの名がはじめて出てくる年による。なおこの Transactions には復刻版がある(雄松堂書店、1964年)。

（4）ウェスト文庫W249の本のなかの list of members の99頁にウェストの入会年が記されている。
W249の本は『Report of the 68th Meeting of the British Association for the Advancement of Science, held at Bristol in September 1898.』、London: John Murray、1899年。

（5）『機械学会誌』第41巻253号、昭和13年4月、211・246頁。

『日本機械学会60年史』、日本機械学会、昭和33年、33・34・390頁。

日本機械学会編・発行『機械工学100年の歩み』、1997年、289・300・341頁

（6）『Proceedings. The Institution of Mechanical Engineers』、1882年、255頁。

（7）『工部大学校学課並諸規則』（明治17年4月改正）、8頁。

（8）日本アジア協会については、たとえば次の文献を参照。

斎藤多喜夫「初期の日本アジア協会とその周辺」、横浜市中央図書館開館記念誌編集委員会編『横浜の本と文化』、横浜市中央図書館発行、平成6年、442―449頁。

D.M.ケンリック『日本アジア協会100年史』、横浜市立大学経済研究所発行、1994年。

楠家重敏『日本アジア協会の研究』、日本図書刊行会発行、1997年。

（9）明治30年創立時の機械学会規則第4条、日本機械学会編・発行『機械工学100年の歩み』、1997年、268頁。

## １１．ウエスト周辺の外国人

ウエストと日本で関係のあったひとたちのうち、外国人のなかで次の４人はとくに関わりの深いひとたちのようである。本稿のほかの部分と一部重複するが、外国人ごとに簡単にまとめておくことにしたい。４人のうちコンドルとミルンは、工部大学校と帝国大学工科大学における同僚教員である。

コンドル。建築家のジョサイア・コンドルは工部大学校の造家科の教授として明治10年に来日、鹿鳴館などいくつもの洋風建築も設計している。ウエストの死後ウエストの旧蔵書がコンドルから東京帝国大学に寄贈され、この旧蔵書は大正3年7月31日に東京帝大に登録されている。また東大工学部構内に現在もあるウエストの胸像の「台石勾欄一般の設計構造は大学名誉教師コンドル氏厚意を以て之を担当せられたる」(1)というように、台座はコンドルの設計によるものである（台座の四周にあるパネルは胸像とともに沼田一雅の作）。このウエストの胸像の台座建設工事にさいしてはコンドルが「自ら其工事を督し極めて良好に完成せられた」(2)という。『コンドル博士遺作集』に掲載されたウエスト胸像台座の図面の説明文には「ウエストは嘗て（コンドル）博士と共に旧工部大学校に教鞭を執り、加ふるに意気相投合せるを以て、親交最も深かりき。」(3)とある。

ミルン。地震学者ジョン・ミルンは工部大学校の鉱山科の教授として明治９年に来日したが、日本で地震研究をはじめ、在日外国人たちとともに日本地震学会を創立した。すでに述べたようにウエストは明治16年にこの日本地震学会の会員になり、英文報告に地震計についての文を発表をした。また明治18年の同学会英文報告のミルンの実験報告には、ウエストの公式が記されている。ミルンは地震学の２冊の著書『地震学』『地震とその他の地球の運動』のなかでウエストについて記していることもすでに述べたとおりである。

オーストン。アラン・オーストンは横浜の貿易商で海洋生物の在野の研究者として知られる。彼はウエストのヨット仲間であり、ヨット競技を一緒にしたり、神奈川県にある帝国大学理科大学付属の三崎臨海実験所にヨットで一緒に行った

りしている。また、ウエスト死後に東京帝大構内に建設されたウエストの胸像の『醵金計算報告、銅像建設報告』のなかに、胸像の原型５作品を審査した１人として「ウエスト君に最も親交ありしアウストン氏」がいて、この「アウストン氏」はおそらくオーストンのことと思われる。オーストンはウエストの死の翌年明治42年に刊行された『ジャパンガゼット横浜50年史』のなかで、横浜における欧米人のヨットの歴史について記述しているが、そのなかでウエストについてもっとも熱心なヨットマンだったと記している(4)。

オーストンについては、ヨットのところで記した白崎謙太郎『日本ヨット史・文久元年～昭和20年』（舵社、1988年）と磯野直秀『三崎臨海実験所を去来した人たち』（学会出版センター、1988年）にウエストとともに記載がある。

W.S.ホール。今までの３人はよく知られたひとたちであるが、技術者であるこのホール（William Silver Hall）はこれまでとくに知られてはいないと思われる。しかしウエストとの関係はイギリス以来の深いものであり、すこしくわしく紹介することにしたい。

ホールは1844年生まれで、英国機械学会と英国土木学会の会員。英国機械学会会員には1871年になっている。彼は Brighton College を卒業し、マンチェスターで3年間見習い工として勤務したのち、いくつかの職場を経験した。

ウエストとはNuneaton の Abbey Engine Works で「firm of Hall, West and Co.」を一緒に運営していたが、ウエスト来日後7年（または8年）たった1889年8月（または1890年）にイギリスを去って妻子とともに日本に移住、東京の築地居留地に住んだ(5)。明治29年には子供のひとりの幼児を亡くして東京の青山墓地に葬る(6)という苦労もしているが、明治・大正時代の有名な貿易会社である高田商会につとめ、その後、東京の八重洲町の三菱ビルディング内に特許事務所を開いていた。亡くなったのは1906年（明治39）で、場所は軽井沢だった。墓は東京の青山霊園の外人墓地にあり（南１種イ４側）、墓誌には生没年が、

BORN IN ENGLAND JUNE 17 1844
AT REST JULY 26 1906

と刻まれている。

イギリスの外交官アーネスト・サトウは、明治28年から33年まで駐日英国公使

をしていたが、この時期のサトウの日記のなかに、ホールと工業所有権の法律案について話をしたという記述や、ホールの妻の来訪、子供が園遊会へ出席したという記述をみつけることができる(7)。

またホールは英国機械学会の大会にほぼ毎年出席している。これは、英国機械学会紀要の索引をしらべてみると、講演発表後の討議に1889年までほぼ毎年発言していることでわかる。

また、ホール自身の論文も１点、1878年の紀要に掲載されている(565ー589頁)。この論文は「Drilling machines used for boiler work」という題のもので、同年10月の大会で講演発表されたものである。この講演発表をしたのは Nuneaton の Abbey Engine Works で「firm of Hall, West and Co.」を運営していた時である。

大会での発言は、日本移住後の1890年からはなくなっており出席していないようだが、1901年（明治34）は一時帰国していたらしく発言が掲載されている。英国機械学会に関しては、1884年（明治17）に紀要の編集にたずさわったこともあるという。

ちなみに毎年の英国機械学会紀要の索引を調べてみると、ウェストが出てくるのは、会員になったことが記された1882年(明治15)と、亡くなったときの死亡会員の略伝の1908年（明治41）との２回だけであり、会員だった期間と日本在住期間が重なっているためもあって大会での発言や論文掲載等はないということは前に記したとおりである。

ホールの大会での発言は英国土木学会の大会にもあり、英国土木学会紀要の第97巻（1888ー89年）には3回の発言が載っている(8)。

さらにホールは、日本移住後の1901年（明治34）に『Manual of the Japanese laws and rules relating to patents, etc.』という著書を刊行しているという。

ホールはフリーメーソンの会員でもあり、イギリスでいくつかのグランドロッジの設立や会長をし、日本でも活動したという。

なお、前にも記したがウェスト旧蔵書であるウェスト文庫のW137の本には、表紙の裏に「Chas. D. West／with best wishes from W. Silver Hall／June 26, 1882」というウェスト来日直前の書き込みが記されている。

工部大学校でヘンリー・ダイヤー帰国にともない後任の人選をしたさい、実際

に就任したウエスト以外にも候補は何人かいた筈と思われるが、このホールもことによると候補のひとりだったのではないかという想像もできるかもしれない。

ホールについては、1906年（明治39）に亡くなったとき英国機械学会紀要と英国土木学会紀要に死亡会員として略伝の掲載があり、『The Japan Weekly Mail』とイギリスで発行の雑誌『The Engineer』にも死亡記事が出ている[9]。

また、ウエストが亡くなったあと、ウエストの胸像が東京帝大構内に建設され明治43年3月19日に除幕式がおこなわれたが、そのさい「（ウエスト）氏の親友たるホール夫人銅像を除幕し」[10]というように、実際に除幕する役をしたのはホール未亡人だった。

なお、ホールに関してふれておくべきことに、ジェームス・ワットの眼鏡のことがある。ホールは本格的な蒸気機関の発明者ジェームス・ワットが使っていた眼鏡を所有していた。ジェームス・ワットから数人の所有者をへて、ホールが所有することになったもので、次の文はこの眼鏡を紹介したものである[11]。この文に紹介されている眼鏡の来歴書には前にも記したように Nuneaton でのホールの仕事が foreman と記されている。また眼鏡と眼鏡入れの写真も掲載されている。

ジェームス・ワット氏の眼鏡

機械工学科に古くから伝わる James Watt 氏の眼鏡というのがある。これには次記の様な来歴が付いているが、1875年に William Silver Hall という人に伝えられてからどんな因縁で日本の工学の府に伝承されたのかは詳かでないとのことである。御存知の方から教えて頂けると幸いです。わが工学部にこの様なものがあるということだけでも何か得難いことと思う。

眼鏡の来歴

These

Spectacles

formerly worn by

1. James Watt：were given by him in 1818 to
2. William Murdock：afterwards passing into the posession to his son
3. John Murdock：Who died a bachelor and left them to his housekeeper
4. Mrs. Silk：Who in 1870 gave them to her son in law

5. William Biddlestone : from whom in 1871 they descended to his grandson

6. William Biddlestone : and in 1872 to his cousin

7. Robert MacLeish : formerly one of the Engineers on board the "Great Eastern" Steamship.
He gave them to his uncle

8. Robert MacLeish : by whom they were give in 1875 to their present possessor

8. William Silver Hall : for whom Robert MacLeish (the uncle) then worked as Foreman at the Abbey Engine Works, Nuneaton.

この文より時間的にはだいぶさかのぼるものだが、次に引用する文には眼鏡の来歴とともにホールの来日のことなども記されている。

大正12年5～6月に東京・お茶の水の東京博物館（東京・上野にある国立科学博物館の前身）で文部省主催による「動力利用展覧会」が開催された。この展覧会で、風力の利用、水力の利用、などとあるなかの、蒸気力の利用のところにワットの眼鏡が出品された。この展覧会の展示品の解説書である『能率増進・動力の利用』（東京博物館編、科学博物館事業後援会発行、大正12年）の42―43ページにあるのが次の文である（ホールの没年が明治35年となっているが、明治39年である）。

◎ゼームスワツトの眼鏡　　東京帝国大学工学部機械工学科教室

此眼鏡は蒸汽機関の発明者として知られたるゼームスワト氏（西紀1736（元文元）年出生、同1819（文政2）年没、年83歳）が親しく用ひたものである。氏は逝去の前年其高弟ウヰリアムマルドツク氏に與へ、其息ジヨンマルドツクに伝はつた。

ジヨンマルドツク氏独身の儘死して宿の主人シルク夫人の手に渡つたが、1870（明治3）年夫人は其甥ウヰリアムビツドルストン氏に譲り、其孫の手を経て孫の従弟ロバートマクレイシユ氏に伝はつた。マツクレイシユ氏は当時有名なる巨船グレートイースタン号（長さ680呎我東洋汽船天洋丸より130呎長し）の機関士であつた。同氏は更に之れを同姓の叔父に譲つたが、更に転じて1875（明治8）年ウ

ヰリアムシルバーホール氏に贈られた。ホール氏は明治23年の交来朝、当市高田商会に在勤し明治35年没す。其後同未亡人より当教室に寄贈になり其保管を依嘱されて今日に至つたものである。

以上の文とともに、展示ケースに入った眼鏡と眼鏡入れの写真が掲載されている。

大正12年の『東京朝日新聞』をみると、5月12日、24日、6月11日、20日の４回、動力利用展覧会の記事がでている。入場者が多く好評だったようで開催期間が延長されたりしているが、5月12日の開催を知らせる記事には、見出しに「ワツトの眼鏡も列べて」とあり、本文中にも「ヂエームスワツトのかけてゐた鼈甲縁の眼鏡迄あり」と、この眼鏡のことが紹介されている。

また1883（明治16）年11月に開催された英国機械学会の大会で、英国機械学会の前会長がジェームス・ワットの発明についての講演発表をしている。この講演発表のあとの討議のときホールは発言をおこなっているが、そのなかで自分はワットの眼鏡を所有していると述べている。英国機械学会紀要に掲載されたこの大会の記録では、ホールの発言のこの部分に注がついていて[12]、ワットからホールにいたる来歴が記されている(眼鏡についているという英文の来歴と同一内容）。

注（1）『東洋学芸雑誌』第27巻343号、明治43年4月、207頁。

（2）『醵金計算報告、銅像建設報告』

（3）コンドル博士記念表彰会編『コンドル博士遺作集』、昭和6年、28頁の図の説明文。

（4）『"Japan Gazette" Yokohama Semi-Centennial』、1909（明治42）年7月、19頁、（横浜開港資料館所蔵ブルームコレクション）。日本語訳された『市民グラフヨコハマ』No.41（開港記念日特集・全訳『ジャパン・ガゼット横浜50年史』）、横浜市発行、1982年6月、23頁。

（5）『The Japan Directry』。復刻版が立脇和夫監修『幕末明治在日外国人・機関名鑑』、ゆまに書房、1996年。

（6）東京都公文書館所蔵文書「青山・谷中・染井・内国人墓地中外国

人埋葬表」、外務課『居留地・公使館地・墓地・台帳』所収、請求記号604／D6／19。

(7) E.サトウ『アーネスト・サトウ公使日記 2』、長岡祥三・福永郁雄・訳、新人物往来社、1991年、97・203・232頁。

(8) 『Minutes of Proceedings of the Institution of Civil Engineers』Vol.97、1888—89年、183・232・233頁。

(9) 『Proceedings. The Institution of Mechanical Engineers』、1906年、637頁。

『Minutes of Proceedings of the Institution of Civil Engineers』Vol.168、1907年、343—344頁。

『The Engineer』、Vol.102、1906年8月10日、150頁。

『The Japan Weekly Mail』、1906年8月4日、Vol.45 No.5、116頁。

(10) 『東洋学芸雑誌』第27巻343号、明治43年4月、207頁。

(11) 瀬尾政夫『故事片々』、著者発行、昭和52年、4—5頁。初出は『丁友』（丁友会発行）第9号、昭和36年、と記されている。なお、瀬尾氏はもと東京大学工学部事務部長。

(12) 『Proceedings. The Institution of Mechanical Engineers』、1883年11月、629—630頁。

## １２．死亡と葬儀

ウェストの死は明治41年1月10日である。

熱海に避寒中に感冒になり、1月3日帰京して東京帝大病院の医師の診察をうけると急性肺炎とのことで入院したが、死亡した。

この死は突然のことであり、翌月の明治41年2月15日にはウェスト在職25周年の会が予定されていた(1)。「来る二月には氏が二十五年間の勤労を謝する為め工科大学に於て盛大なる慰労会を催し記念品を贈る事に決定し居たり」(2)。そしてこの会のための募金も千有余円あつまっていた(3)。ウェストは当時は東京の郊外であった大森に隠居したいという希望をもっていたともいうし(4)、雇用期間の終了するこの明治41年7月31日以後は故郷アイルランドで老後をすごす意思であったともいうが(5)、突然の死によってどちらの希望もかなわないことになった。

ウェストの死にさいしては勲二等が授与された。功労金として５千円も下賜されている。

ウェストの死については日本で発行の日本語・英語の新聞に報道された(6)ほか、日本の『機械学会誌』に井口在屋がウェストの伝記を載せている(7)。また英国機械学会紀要の死亡会員の略伝欄に掲載があり(8)、イギリス発行の雑誌『Engineering』『The Engineer』にも死亡の記事が出ている(9)。

日本の新聞に掲載された死亡記事をひとつ引用する(10)。

ウエスト教授の逝去

久敷東京帝国大学法(ママ)科大学教授たりしウエスト氏は此頃来肺炎に罹り治療中なりしが薬石効なく一昨夜九時遂に死去したりと氏は本年を以て満二十五年間我帝国大学の教職にありて名望頗る高く其功績顕著なるものあり今回病気危篤の旨聖聴に達するや特に勲二等に叙賜せられたりと云ふ

また死亡広告も出されている。『東京朝日新聞』1月13日から引用する。

東京帝国大学工科大学教師勲二等チヤーレス、ヂツキンソン、ウエスト君病気の処療養不相叶去る十日午後九時卒去せられ候此段謹告候也

来る十四日午前十一時半大学構内教師館出棺午後一時半芝飯倉セント、アンドリユース会堂にて葬儀相営み終て青山墓地斎場に於て弔詞棒読式を行ふ

明治四十一年一月

友人

渡辺　　渡

真野　文二

井口　在屋

斯波忠三郎

真野・井口・斯波は３人とも東京帝大機械工学科の教授。筆頭に名のでている渡辺渡は採鉱冶金学科の教授だが、明治35年から大正7年まで東京帝大の工科大学長だった。後述するウエストの胸像建設や残金の（日本）機械学会への寄贈でも代表が渡辺渡になっているのは、工科大学長だったためと思われる。

この『東京朝日新聞』のウエストの死亡広告のすぐ上の段には、医学士森篤次郎（演劇評論家の三木竹二）の死亡広告が実兄の森鷗外らによって掲載されている。

ウェストの葬儀は死亡広告にあるように東京港区の飯倉にある日本聖公会の聖アンデレ教会（St. Andrew's Church）でおこなわれた。この時期の聖アンデレ教会はコンドル設計のものである。

新聞に掲載された葬儀の記事をひとつ引用する(11)。

ウエスト氏の葬儀

去る十日急性肺炎の為め遽に逝去したる東京帝国大学工科大学教師チヤーレス、ヂツキンソン、ウエスト氏の葬儀は予定の通り昨日午前十一時三十分大学構内官舎出棺午後一時三十分より麻布飯倉のセント、アンドリユース会堂に於て壮厳なる式を挙行したり会葬者は牧野文相代赤司秘書官、浜尾大学総長、渡辺工科大学長、真野実業学務局長、井口、斯波、中野、中村、の諸大学教授を初め博士、学士、学生等の門弟並に在留外国人故旧等約四百名にして浜尾総長以下数名の弔詞あり渡辺工科大学長はウエスト氏に親族なければとて代つて之に挨

拶し終て昵近の人のみ附添ひ青山墓地に埋葬せり

この葬儀のときの浜尾東京帝大総長と真野文二の弔詞は『東洋学芸雑誌』に掲載されている[12]。

またこの明治41年7月に東京帝大機械工学科を卒業する朝倉希一はこの葬儀について、

「われわれが三年のとき（ウエスト）先生は肺炎で死去され、青山墓地の旧斎場で葬式が行われ、私は学生を代表して弔辞を読んだ。日本文である。他の弔辞も皆日本文である。私は私の弔辞が死者に伝わるとは思えないので、弔辞は参会者に対するものであり、弔辞によって死者の徳を思い起し、感激されればそれが死者に対する礼であると思った。参会の先生の中に涙を出された人もあられた。」

と昭和51年に回想している[13]。

ウエストの墓は現在も東京都立青山霊園の外人墓地にある（南２種イ４側）。墓誌は墓石の正面が英語、裏面が日本語で、次のとおりである。

（正面）

IN MEMORIAM
CHARLES DICKINSON WEST
XXV YEARS PROFFESOR OF
MECHANICAL ENGINEERING IN TOKYO
ENGINEERING COLLEGE (KOBU-DAI-GAKKO) 1882—1886
IMPERIAL UNIVERSITY 1886—1908
BORN IN DUBLIN JAN. 7. 1847
DIED IN TOKYO JAN. 10. 1908

（裏面）

英國人勳二等チャールスヂッキンソンウエスト墓
明治十五年八月工部大学校機械工学教師トナリ同
十九季東京帝国大学工科大学教師ニ転ズ在職二十
五年明治四十一年一月十日病歿ス享年六十一

ウエスト没後のこととしてあげられることに、

ウエスト胸像の建設

ウエスト旧蔵書の東京帝大への寄贈

ウエスト教師記念奨学資金（ウエスト賞）

（日本）機械学会の故ウエスト教授記念資金

25回忌の故ウエスト教師記念会

があるので、次にこれらについて述べることにする。

注（1）『東洋学芸雑誌』第25巻316号、明治41年1月、34頁。

（2）『万朝報』明治41年1月12日。

（3）『醵金計算報告、銅像建設報告』

（4）『機械学会誌』第10巻18号、明治41年2月、47頁

（5）「英国人チャールス・ヂッキンスン・ウエスト」、稿本『傭外国人教師・講師履歴書』ゼロックス版、東京帝国大学事務部、昭和初期、（東京大学総合図書館参考室所蔵）。

（6）『朝野新聞』明治41年1月12日。

『万朝報』明治41年1月12日。

『The Japan Weekly Mail』1908年1月18日、57頁。

（7）井口在屋「故チャールス・ヂッキンソン・ウエスト先生の伝」、『機械学会誌』第10巻18号、明治41年 2月、45ー47頁、（巻頭にウエストの肖像とサインの写真も掲載されている）。

（8）「memoir」、『Proceedings. The Institution of Mechanical Engineers』、1908年2月、230ー231頁。

（9）『Engineering』Vol.85、1908年1月24日、125頁。

『The Engineer』Vol.105、1908年2月28日、215頁。

（10）『朝野新聞』明治41年1月12日。

（11）『読売新聞』明治41年1月15日。

（12）『東洋学芸雑誌』第25巻316号、明治41年1月、33ー34頁。

（13）朝倉希一『人生を考えよう』、開発社、昭和51年、55頁。

## １３．ウェスト文庫と旧蔵ノート

すでに述べているように、東京大学機械系三学科には、東大機械科に保存されてきたウェストの旧蔵書と旧蔵ノートが所蔵されている。

旧蔵書はウェスト文庫と呼称され、単行本251冊と製本された英文雑誌５タイトルがある。前に記したようにコンドルによって東京帝大に寄贈され、東京帝大ではこの旧蔵書を大正3年7月31日に登録している。もっとも、東京帝国大学附属図書館が大正12年の関東大震災で焼失したさい図書原簿も焼失しているため、この登録の日にちは本自体に登録番号とともに押された日にちによったものである。

これらの旧蔵書の見返しには

ジョサイア、コンドル氏寄贈

故チャールス、ヂッキンソン、ウェスト氏記念図書

と記された東京帝国大学附属図書館の用紙が貼付され、また後になって貼られたものと思われるが、本の背にW1,W2,W3……という番号が貼付されている。ただ製本雑誌の方のW番号は一部はがれおちているものがある。

ウェスト文庫の本の寄贈については次の上申がなされたようである。

上申

書籍及雑誌　別紙目録ノ通リ

此代価金弐千九百弐十五円七十五銭也

右ハ故工科大学教師チヤールス ヂキンソン ウエスト氏ノ遺品ニ候処今般紀念ノ為メ同氏友人ジヨサイヤ コンドル氏ヨリ本学機械工学科参考用トシテ寄贈相成候ニ付相当御賞与相成度此段上申候也（但シ代価ハ丸善書店ノ評価）

大正三年七月二十一日　　機械工学教室　主任　井口在屋

工科大学長　渡辺渡殿

東大の蔵書の冊子体の所蔵目録は、収録する時期や部局、資料の形態などによっていろいろなものが刊行されてきたが、明治40年から大正12年の関東大震災までのあいだ、東大で前月にあたらしく受け入れた図書の目録を月報のかたちで刊

行していた。和漢と洋とにわかれ、購入と寄贈の区別がわかるようになっている。ウェスト文庫の本のうち、欧文図書の方はこの月報の洋書の方の大正4年1･2月合併号に[1]、日本語の図書（１冊）は和漢書の方の大正3年11月号に[2]、それぞれ機械工学教室受入で寄贈になって記載されている。

雑誌については同じ期間、月報でなく年報のかたちで刊行されていたが、製本英文雑誌５タイトルはこの年報の洋雑誌の方の大正3年に[3]、やはり機械工学教室受入で寄贈のものとして記載されている。５タイトルのうち１タイトルは日本発行で、他は欧米発行のものである。

ウェスト文庫の単行本は、２冊だけが日本発行のもので（日本語１冊、英語１冊）、あとはすべて欧米発行のものである。機械工学と造船・船舶関係のものがほとんどだが、なかではヨット関係の本がわりあい多い。また発行年ではウェスト来日前後の十数年間のものの割合が多い。

また単行本には書店のシールが貼られたものがあり、丸善のが9冊、東京の中西屋のが2冊、横浜の Kelly & Walsh のが9冊、ダブリンの William McGee のが5冊、リバプールの Philip, Son & Nephew のが１冊ある。W番号で示しておくと、

丸善　W5,6,8,31,39,106,188,211,212

中西屋　W73,243

Kelly & Walsh　W18,21,29,55,94,95,191,208,222

William McGee　W61,194,195,198,232

Philip, Son & Nephew　W166

である。

中西屋は丸善の創始者の早矢仕有的が丸善とは別につくった書店で[4]、のちに丸善の支店になった。ケリー・ウオルシュ商会は、1876年（明治9）に設立されたケリー商会が1886年（明治19）にケリー・ウォルシュ商会になったもので、大正時代にも営業していたという[5]。

ウェスト文庫の本は、ウェストが亡くなったときもっていた本の全部ではおそらくないと思われる。イギリスにいるコンドルの子孫の家には、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）がウェストに贈ったハーンの著書が現在あるそうである[6]。

ラフカディオ・ハーンは父がアイルランド人で、ハーン自身も少年時代ダブリンでくらした期間があり、（東京）帝大の教員もしていたので、ウェストとの共

通点はあるが、二人の関係はよくわからない。ハーンがやりとりした書簡が現在かなりの数公開されているが[7]、そのなかにウェストとのものはないようである。

ウェストの旧蔵ノートは全部で19冊ある。日本での講義記録が4冊、試験問題を貼付したものが4冊、採点記録が3冊、その他のものが8冊ある[8]。

ノートには工部大学校や帝国大学工科大学の英文の学校名が印刷された大学ノートを使用しているものがある。工部大学校の大学ノートは2冊、帝国大学工科大学のは7冊ある。

講義記録は毎日の講義の内容を、1日ぶん数行で手控えたもので、1890年（明治23）から1907（明治40）年12月までの分がある。原則としてその日の講義内容の項目が列挙されるかたちで記されているが、なかには、1905（明治38)年6月1日木曜に「No Lectures, Banzai for Naval Victory.」という記述もある。「Banzai」は万歳で、この5月27～28日に対馬海峡でおこなわれた日露戦争の日本海海戦での日本海軍の勝利への万歳である[9]。

試験問題は工部大学校時代のものは印刷されたものが貼付されている。工部大学校の『Calendar』[10]には各期の学課の試験問題や入学試験の問題が収録されているが、同じ日の同じ問題文であってもノートに貼付のものと『Calendar』のものとはページのなかの問題文の位置や校名の印刷の有無がちがっている。ノートに貼付のものはおそらく実際の試験用のものであろうと思われる。（東京）帝国大学時代のものは手書きの問題による試験用紙が貼付されている。

その他のノート8冊のなかには、学生時代のものと思われるノートや、彩色された図などのある「Sept 1874. Birkenhead」と記された造船所時代のノートもある。

ウェスト文庫の本と旧蔵ノートは、昭和8（1933）年1月10日にウェストの二十五回忌の会があったとき、式場に陳列されている[11]。

また1997年10月から12月にかけて東京大学では、学外者も自由に無料で入場できる創立120周年記念展を開催した。この創立120周年記念展のうち、安田講堂内の展示会場にはウェスト旧蔵ノート全部が、附属図書館（総合図書館）3階ホールを展示会場とした御雇外国人展にはウェスト文庫の単行本2冊が、それぞれ展示された[12]。

注（1）『Monthly bulletin of books added to the Imperial University Library of Tokyo』No.74、1915（大正4）年1･2月合併号。

（2）『東京帝国大学附属図書館増加図書月報』第72号、大正3年11月、10頁。

（3）『Annual list of periodicals and society publications added to the Imperial University Library of Tokyo』、1914（大正3）年、9･14･49･51･61･72頁。

なお和雑誌の方の年報は『東京帝国大学附属図書館増加逐次刊行物年報』である。

（4）『丸善百年史』上巻、丸善株式会社、昭和55年、94―96頁。

（5）ケリー・ウォルシュ商会については次の文献を参照した。

向井晃「洋書の輸入、幕末・明治期を中心に」、横浜開港記念館・横浜居留地研究会・編『横浜居留地と異文化交流』、山川出版社、1996年、251―270頁。

向井晃「洋書の輸入」、横浜市中央図書館開館記念誌編集委員会編『横浜の本と文化』、横浜市中央図書館発行、平成6年、492―495頁。

（6）鈴木博之「コンドルの肖像画を求めて・下」、『月刊百科』（平凡社発行）第353号、1992年3月、21頁。

（7）たとえば、銭本健二編『小泉八雲コレクション国際総合目録』、八雲会、1991年、351―446頁。

（8）記載量は多くないが、ウェスト旧蔵ノートを紹介・記述した論文等として次のものがある。

北郷薫「東京大学機械工学科における教育の変遷」、『日本機械学会誌』第81巻710号、昭和53年1月、67―68頁。

Kaoru Hongo（北郷薫）「Charles Dickinson West, the father of Japan's mechanical engineering.(Learning from the West series)」、『Look Japan』Vol.31 No.349、1985年4月10日、22

頁。

出水力「日本の機械工学の開拓者・井口在屋・1」、『技術と文明』第1巻1号、1985年、69頁。

東京大学編・発行『学問のアルケオロジー（東京大学創立百二十周年記念東京大学展、学問の過去・現在・未来、第1部）』、1997年、391頁。

（9）この6月1日のウェストの記述については、ロバート・ラトリ氏（Dr. Robert George Latorre）が東京大学機械工学科助教授として在任の昭和61（1986）年9月～62（1987）年8月の間に、ウェスト旧蔵ノートを調べて話されたことによって知った。なお、ラトリ助教授（当時）は、東京大学機械工学科（機械系3学科）では、客員教官を別にすれば、ウェスト没後80年近くたってはじめての外国人教官である。

(10) 『The Calendar of the Imperial College of Engineering (Kobu-dai-gakko) ,Tokei』。

この『Calendar』の所蔵機関については次のいずれかを参照されたい。

滝沢正順「工部大学校書房の研究(1)」、『図書館界』第40巻1号、1988年5月、9頁の注の13。

滝沢正順「工部大学校の書房と蔵書」、東京大学編・発行『学問のアルケオロジー（東京大学創立百二十周年記念東京大学展、学問の過去・現在・未来、第1部）』、1997年、235－236頁の注の13。

(11) 『学士会月報』第539号、昭和8年2月、1頁。

(12) 東京大学編・発行『学問のアルケオロジー（東京大学創立百二十周年記念東京大学展、学問の過去・現在・未来、第1部）』、1997年、391・421頁。

## １４．ウエスト胸像

ウエストの胸像をつくることは、井口在屋のウエスト伝の最後の部分に「先生の知友門人等今将に相謀り帝国大学内に先生の銅像を建設し其遺徳を追思し功績を表彰せんとす」[1]と述べられている。井口のウエスト伝は、ウエストの死の翌月の明治41年2月発行の『機械学会誌』に掲載されているが、胸像が完成して除幕式がおこなわれたのは２年後の明治43年3月19日である。

胸像は現在も東京大学の工学部１号館前庭にたっている。工学部１号館は工学部（工科大学）本館が大正12年の関東大震災で被災したため、同じ場所にたてられた建物である。

ウエスト胸像は、胸像だけの高さは約１メートルくらいであるが、台座があるので地面から頭頂部まで約４メートルある。

台座の足元の４つの側面には、ウエストにちなんだパネル（レリーフ）がはめ込まれている。正面のパネルは文字が主体で、

TO

CHARLES DICKINSON WEST

PROFESSOR OF MECHANICAL ENGINEERING

1882—1908

ERECTED BY HIS COLLEAGUES PUBLIS AND FRIENDS

と記されている。右側面のパネルは製鉄所、裏面は造船所、左側面はエンジンである。

また台座の上の胸像本体の正面の基礎部分には、筆記体で「Chas D. West」と刻まれている。筆跡はウエストの旧蔵ノートやウエスト文庫の本に書かれたサインによく似ているし、井口在屋の書いたウエスト伝の載った号の『機械学会誌』巻頭[2]にある写真のウエストのサインともよく似ている。したがってウエスト自身のサインを模刻したものと考えられる。

この胸像は沼田一雅の作によるものである。台座はコンドルが設計したが、台座にはめこまれている４つのパネルは胸像と同じ沼田一雅のものである。この胸像は沼田をふくめた５人の有名な彫塑家の競作によってつくられた。

工部省以来帝国工科大学に歴任し、育英に貢献すること多大なりし故英人ウエースト氏の為に銅像建設の企てがある。伊東忠多、真野文二、塚本靖の三博士及び三菱の建築顧問コンデル等、専ら此の任に当り、小倉惣次郎、長沼守敬、新海竹太郎、米原雲海、沼田一雅の五彫塑家に其の原型を依嘱した。同一の原型を五人に托し、審査の上最良作を採用する趣向で其の結果月桂冠は終に沼田の頭上に落ちたが、此の競技の方法は頗る当を得たとの評判である。(3)

銅像の建設工事の着工は明治42年2月で、ウェストの「我国工学教育に於ける功績を永く後世に表彰せんが為めに東京工科大学の教師、教授及助教授一同発起人となりて」ウェストの「銅像を大学構内に建立するの計画を立て之を同君の門人朋友及び縁故ある者に謀りしに多大の賛助を得て銅像建設の工事に着手」したが、着工に先立って「発起人中より建設委員として工科大学長渡辺渡、教授真野文二、井口在屋、斯波忠三郎、名誉教師ジョシヤ、コンドル及工科大学教師、エフ、ピー、パービス氏の六名を選び一切の事務を嘱することゝ」(4)した。

そしてこの６名の建設委員は、「有力なる彫刻家五人の競技に附して作らしめたる五個の塑像に就き（建設）委員及ウエスト君に最も親交ありしアウストン氏並に塚本、伊東両工学博士は充分に品評を為して遂に沼田一雅氏の提出せる原型を採用する事に決したり」(5)。

さらに「引続き沼田氏に銅像製作の監督及銅像台に附す可きパ子ルの製作をも委嘱せり、又銅像台及其周囲背景の意匠をゴンドル氏に依頼せしに同氏は全く好意を以て之を引受け自ら其工事を督し極めて良好に完成せられたり」(6)。

明治42年2月に起工した銅像建設は、台座と周囲背景もふくめて、43年2月に竣工したという(7)。

なお、沼田一雅いがいの彫塑家についても胸像の原型の製作記録の見いだせるひともいる(8)。

また、コンドルについてまとめられた文献資料にはウェスト胸像台座の写真（胸像も）を掲載したものがある(9)ほか、昭和6年に刊行された『コンドル博士遺作集』にはウェスト胸像台座の図面が掲載されている(10)。図面の説明文は和文と英文の両方あるが和文のは次のとおりである。

ウエストの胸像台座

故東京帝国大学工科大学教師英人チャーレス・ウエストは嘗て（コンドル）博士と共に旧工部大学校に教鞭を執り、加ふるに意気相投合せるを以て、親交最も深かりき。ウエストの没後門生知人相計り其の胸像建設を企画するや、胸像の製作を懸賞競技に附し、当選者沼田一雄(ママ)に其の製作を委託し、而して其の台座と敷地の設計を特に（コンドル）博士に委嘱せり。博士即ち與へられたる三角形の敷地の中心に胸像を置き、通路と芝生地を巧に周囲に配置して小庭を造る。銅像の台座は花崗石を磨き仕上となし、柱礎の四面にパネルを作り、機械学科に因める事物を鋳出せる青銅を嵌入して。暗に故人の学業を表したり。此小庭と銅像は工学部本館の前庭に一景趣を加へたり。

明治43年3月19日におこなわれたこの胸像の除幕式への招待状（葉書）は次の文面になっている。

拝啓故工科大学教師ウエスト先生の門人朋友及縁故ある者の賛助を得て同君の銅像を工科大学前庭に建設中の処今般竣成候に付き来る三月十九日（土曜日）午後正二時半右銅像除幕式挙行可仕候間此旨御報申上候、當日右式場へ御来臨の栄を得候はゞ幸甚之至りと存候敬具

追而同日御参会の諸君は午後二時十五分迄に工科大学前庭に設くる参集所へ御入来被下度候

故ウエスト先生銅像建設委員長　渡辺渡

当日の式次第は和文と英文が併記されているが、和文のは次のとおりである。

故ウエスト教師銅像除幕式。

一、開会の辞。

二、委員報告。

三、渡辺委員長東京帝国大学へ銅像を贈呈す。

四、総長浜尾男爵右銅像を受領す。

五、記念式辞朗読。

六、来賓演説。

七、閉会、茶菓（構内山上「御殿」にて）。

明治四十三年三月十九日。

銅像建設のために醵金した人たちへは建設委員から『醵金計算報告、銅像建設報告』と題した明治43年6月付けの報告が贈呈されたようである。この報告には銅像建設の賛同者の姓名と醵金高の表がつけられ、また銅像の写真２葉がそえられていたようである。この報告によれば除幕式のさいの司会は古市公威で、式辞と演説は順に、

開会の辞　　工学博士　古市公威君

報告　　工学博士　真野文二君

建設委員長工学博士渡辺渡君の演説

東京帝国大学総長浜尾男爵の演説

工学博士朝永正三君の式辞

英国大使閣下の演説（英文）

である。

除幕じたいは前に記したようにW.S.ホールの未亡人がおこなった。この除幕式への出席者は四百余名もしくはおよそ二百名で、銅像と台座の東京帝大への寄贈も式次第にあるように除幕式のときにおこなわれた。

そして、「式了りし後大学構内集会所に於て集会者一同茶菓の響応を享け散会せしは午後四時半頃なりき」(11)であったという。

この胸像の建設については、日本で発行の『東洋学芸雑誌』と『The Japan Weekly Mail』に除幕式の記事がある(12)ほか、イギリスで発行の雑誌『Engineering』にも紹介されている(13)。

なお胸像建設の資金については次に記す。

注（1）『機械学会誌』第10巻18号、明治41年2月、47頁。

（2）『機械学会誌』第10巻18号、明治41年2月、巻頭。

（3）「美術界風聞録」、『報知新聞』明治42年7月9日、『新聞集成明

治編年史』第14巻、新聞集成明治編年史編纂会編、昭和11年（昭和15年、第3版）、123頁。

（4）『醵金計算報告、銅像建設報告』。

（5）同上。

（6）同上。

（7）同上。

（8）『長沼守敬展・近代彫塑の原点』（展覧会図録、岩手県東和町の萬鉄五郎記念館で開催、1992年）の「長沼守敬カタログ・レゾネ」には「ウェスト先生、頭像、ブロンズ」という記載がある(33頁）。

（9）「ジョサイア・コンドル博士表彰」、『建築雑誌』第39巻402号、大正9年6月、280ー281頁の間の写真。

小野木重勝『日本の建築・明治大正昭和 2、様式の礎』、三省堂、昭和54年、134ー135頁。

『鹿鳴館の建築家、ジョサイア・コンドル展』（展覧会図録、東京都千代田区の東京ステーションギャラリーで開催、1997年）、120頁。

(10) コンドル博士記念表彰会編『コンドル博士遺作集』、昭和6年、28頁。

(11) 『醵金計算報告、銅像建設報告』。

(12) 「故ウエスト教師の銅像除幕式」、『東洋学芸雑誌』第27巻343号、明治43年4月、206ー207頁。

「Unveiling the monument to te Late Prof. West」、『The Japan Weekly Mail』1910年3月26日、Vol.53 No.13、515頁。

(13) 「British and Japanese engineers at Tokyo University」、『Engineering』Vol.89、1910年4月22日、520頁。

## １５．ウエスト記念資金とウエスト記念奨学資金

ウエスト没後のウエスト関連の金銭のことについてすこし整理しておくことにしたい[1]。

ウエストが亡くなったとき、功労金として５千円が支給されたが、この５千円をウエストの遺族に送ろうとしたところ、遺族はこれを辞退したので、ウエストの銅像建設委員等は遺族と協議し、この５千円を銅像建設資金に加えることとした。

またウエスト死亡以前にウエスト来日25周年記念会が予定されていて死亡によって開催できなくなったが、このための募金が千有余円あつまっていた。

功労金５千円、来日25周年記念会のための募金千有余円、さらにウエスト死後につのられた銅像建設のための募金が二千五百有余円あり、この３つをあわせた合計八千五百有余円によってウエストの胸像をつくることになった。そして東京帝大構内にウエストの胸像がつくられたが、剰余金が出た。

この剰余金の金額は1852円58銭（または18銭）で、明治43年9月14日に銅像建設委員長渡辺渡により（日本）機械学会に寄付された。

また銅像除幕式のおそらくすこし前頃に、ウエストの家族親戚から、完成後の銅像維持費として千三百余円が東京帝大に寄贈された。この寄付金は大学に寄贈されたものなので、私的なものである銅像の建設費や剰余金とは別個のものということになる（この後に述べる奨学資金とも別）。

（日本）機械学会では、寄付された銅像建設の剰余金1852円58銭（または18銭）による「故ウエスト教授記念資金」により、

| | |
|---|---|
| ディーゼル機関と鉄鋼材の調査 | （大正5、6年） |
| ２回の懸賞論文 | （大正13、昭和6年） |
| ウエストの二十五周年忌 | （昭和8年） |

をおこなった[2]。

寄付のさいには条件として、利子で機械学会の経常費以外に学術上有益な事業の経費とするということと、利子は場合により資金の元金に繰り込むことができるということが、条件になっていた[3]。したがって上記の事業は、利子によっておこなわれたものであるということになる。

事業のうち二十五周年忌は、後に述べるものと同一か、もしくは関連したものであろうと思われるがこの点については不詳である。

またウェストの妹の一人ダウデン夫人から、ウェストを記念する奨学資金として英貨一千ポンドの寄付の申し出があった。

ダウデン夫人の夫がダブリンのトリニティ・カレッジの英文学の教授で、批評家・英文学者・詩人として有名であり、ダウデン夫人も詩の創作をしているほか、ゲーテの戯曲の英訳と詩集の英訳を出版していることは前に述べた。

ダウデン夫人からの寄付の申し出は明治41年12月末に東京帝大にたいしてなされ、明治42年1月に東京帝大では寄付金を受領した。この奨学金の寄付については、胸像の建設とともに、イギリスで発行の雑誌『Engineering』に紹介されているが(4)、この「ウエスト教師記念奨学資金」の日本円での金額は毎年度の『東京帝国大学一覧』の奨学金の一覧のなかに記されており、9746円19銭である(5)。

ウェスト教師記念奨学資金は、利子を東京帝大（のち東京大学）の機械工学科（のち機械系３学科）の学業優秀な学生に「ウェスト奨学学生」の奨学金として授与する資金となった。

日本の大学の年度は、明治前期を別として、大正の途中までは９月始業の７月終業で、大正10年（1921）から、現在のように４月始業の３月終業になったが(6)、ウェスト奨学学生は、新年度になったばかりの９月か10月に新２年生・新３年生から選ばれていた。つまり授与後、卒業までの奨学のためのものであったわけである。

しかしその後、すくなくとも昭和初期には３年生に卒業する３月に授与されるようになったようである。つまり在学中の学業への顕彰・褒賞の意味だけになったと思われる。名称も昭和になってから「ウエスト賞」「ウエスト記念賞」という名称になっているようである。

ウエスト賞は1960年代になくなったようであるが、３年生（第二次世界大戦後の新制度の大学になってからは４年生）に卒業時に授与するという形でつづいていたようである。しかし途中には資金が他の資金と合わせたものになったり、ウエスト賞という名称が使われなかった期間もあったようである。

在学中の奨学金の形では10年間位（十数年間？）つづいたようであるが、選ば

れた学生の数は明治末・大正初期には新２・３年生をあわせて１回に３人もしくは４人で[7]、１人につき百円もしくは百二十円が授与されていた。

機械工学科第三年生　野口尚一

学術優秀ノ故ヲ以テウエスト奨学学生ニ選定シ金百円ヲ授与ス

明治四十四年九月二十五日　東京帝国大学工科大学長工学博士渡辺渡[8]

また現金とともに井口在屋の論文集『井口集』（井口教授在職二十五年祝賀会・編・発行、大正2年、改訂版が井口在屋教授記念事業委員会・編・発行、昭和3年）が授与されたことがある。

機械工学科第三年生

丹羽周夫

学術優秀ノ故ヲ以テウエスト奨学学生ニ選定シ金百円及井口集壱冊ヲ授与ス

大正七年十月十八日

東京帝国大学工科大学長工学博士渡辺渡　　印[9]

またウェスト奨学学生に選ばれた学生は、すくなくとも初期においては、その回に選ばれた学生の連名で、奨学基金寄贈者のダウデン夫人宛に礼状を郵送している。たとえば大正元年10月21日受賞の３名は次の礼状を送っている[10]。

The College of Engineering,

Tokyo Imperial University,

Tokyo, Japan.

November, 5th, 1912.

Madam:

We have the honor to take this opportunity to inform you that the late Prof. West's scholarships for the session 1911—1912 were given us, the three undersigned students of Mechanical Engineering.

We doubt whether we truly deserve such an honor, which honor will howeve

r naturally prompt us to do our best in the study of our professional sc
ience. As to the bounties given us, we are sure to use them in the mos
t efficient way for the purpose in which they were given us.
Wishing to express our feelings of gratitude to you,

We remain,

Yours most faithfully,

K. Akashi.

S. Horibata.

N. Yamanaka.

(signed)

To Mrs. E. D. Dowden

Highfield House, Rathgar,

Dublin, Ireland.

このダウデン夫人の住所は、ダウデン夫人編集の夫エドワード・ダウデンがやりとりした書簡集[11]（夫人への書簡集とは別）に収録されている書簡の、1900年代頃のエドワードの住所と同じである。

また、前に記したように、ウエストの死の翌年の明治42年6月に、日本の外務省では、ウエストに叙勲された勲２等瑞宝賞の勲記を本人死亡のため遺族へ回送してほしいと文部省から依頼されているが、この件に関する日本の文部省と外務省との文書にはどちらにも、遺族としてダウデン夫人の名とともにこの住所が記されている[12]。

ウエスト奨学学生という形が、いつから卒業時に授与されるようになったのかは確認できていない。大正９年の卒業生の回想に「ウエスト賞金付きで卒業した」[13]とあるのは卒業時のようにも思えるが、３年生になったきととれなくもない。しかし昭和６年にはすでに卒業のさいに４名が受賞している[14]。

注（1）おもに『醵金計算報告、銅像建設報告』。

（2）『機械学会誌』第41巻253号、昭和13年4月、211―213、310、328頁。

『日本機械学会60年史』、日本機械学会・編・発行、昭和33年、110、390頁。

『機械工学100年の歩み』、日本機械学会・編・発行、1997年、331、341頁。

（3）同上。

（4）「British and Japanese engineers at Tokyo University」、『Engineering』Vol.89、1910年4月22日、520頁。

（5）次の文献に再掲載されている。

『東京帝国大学五十年史』下冊、昭和7年、1294頁。

『東京大学百年史・資料３』、昭和61年、318頁。

（6）寺崎昌夫『プロムナード東京大学史』、東京大学出版会、1992年、3—12頁。

（7）『（分科大学各部局）学内往復・自明治45年至大正5年』中の「奨学資金賞与ニ関スル事項」文書。

東京帝国大学工科大学・機械工学教室・工学実験室・発行『機械工学科・工学実験所・報告』第１・２・３、明治43年9月～大正2年8月。

（8）東京帝国大学工科大学・機械工学教室・工学実験室・発行『機械工学科・工学実験所・報告』第２（従明治44年9月至大正元年8月）、4頁。

（9）丹羽高尚編『父の面影』、編者発行、平成2年、7頁。

（10）東京帝国大学工科大学・機械工学教室・工学実験室・発行『機械工学科・工学実験所・報告』第３（従大正元年9月至大正2年8月）、23頁。

（11）Elizabeth D. Dowden and Hilda M. Dowden, ed.『Letters of Edward Dowden and his correspondents』、London：J.M.Dent & Sons、1914年。

（12）外務省外交史料館所蔵文書、「外国人叙勲雑件・英国人之部」自明治38年至同42年（第７巻）所収のウェスト勲２等関係文書。

（13）近藤市郎の回想、藤田秀雄ほか「日本の艦艇・商船の内燃機関技術史（第２次世界大戦集結まで）、艦艇用内燃機関編（その２）」

に引用、『日本舶用機関学会誌』、第30巻8号、1995年8月、617頁。

(14) 谷下市松「若き学徒とともに大学生活55年」、『空気調和・衛生工学』第61巻1号、昭和62年1月、83頁。

## １６．二十五回忌

ウェストの二十五回忌にあたる昭和8年1月10日には、ウェストの同僚であった真野文二らが発起人となって東京・神田の学士会館でウェストをしのぶ会が催された。この会については『学士会月報』第539号（昭和8年2月）の冒頭に、たんに「発起人」の名で「故ウェスト教師記念会記事」として掲載されている(1)。

記事の最初の全体のようすを述べた部分は次のとおりである。

本年一月十日は故東京帝国大学工科大学教師シー・デー・ウェスト先生が永眠されてから満二十五年に相当するので当時の同僚であつた名誉教授真野文二博士並びに現在東大工学部機械工学科の教授一同が発起人となり同日学士会館に於て思出の会が催された。来会者は百名に垂とし頗る盛会であつた。式場には故先生の写真愛蔵の書籍手帖等の記念物を陳列した。先づ真野博士の開会の辞があり文部大臣並びに東京帝国大学総長の式辞代読及び当日特に臨場された英国大使フランシス・リンドレー卿門弟代表としての斯波忠三郎男の辞等があつて式を畢へ次で宴席に於ては更に真野博士から故先生の友人キャンベル氏の興味ある書簡を披露せられ続いて田中館愛橘博士を始め多数名士の追憶談があつて時の移るを知らなかつた。当日の式辞は左に掲げる通りである。

そして式辞として、

真野博士開会の辞（英文）

文部大臣式辞

東京帝国大学総長式辞

英国大使式辞（英文）

が掲載されている。文部大臣は鳩山一郎、東京帝大総長は小野塚喜平次である。

引用文中に真野文二が書簡を披露したというキャンベルは、おそらくウェスト設計のヨット「大名」を大正12年の関東大震災当時に所有していたW.W.Campbellであろうと思われる。関東大震災のとき「大名」は何人かの外国人をのせて海上に避難したが、そのようすが記されたO.M.プール『古き横浜の壊滅』によれば、キャンベルは横浜ヨットクラブ会長で、太平洋郵船会社の総代理人であったとい

う[2]。

また真野文二の開会の辞の中では、ウェストの弟の Hercules West はイギリスで存命であると述べられている。

注（1）1—4頁。

（2）O.M.プール『古き横浜の壊滅』、金井圓訳、有隣堂、昭和51年、56・210頁。また、白崎謙太郎『日本ヨット史・文久元年～昭和20年』、舵社、1988年、36・50頁。

## １７．参考文献

（本文中の注と重なるものも多いが種類別にわけて参考文献をまとめておくことにする。なお、同一文献が複数ヶ所に出る場合がある。また『東京大学事務部所蔵・御雇外国人関係書類』マイクロフィルム版は、オリジナル書類は非公開で、マイクロフィルム版を東京大学総合図書館とユネスコ東アジア文化研究センターが所蔵している）

### 17-1. 伝記・履歴


・井口在屋「故チャールス・ヂッキンソン・ウエスト先生の伝」、『機械学会誌』第10巻18号、明治41年2月、45―47頁、（巻頭にウエストの肖像とサインの写真あり）。再掲載したものとして、日本科学史学会編『日本科学技術史大系　第18巻』（機械技術）、第一法規出版、1966年、69―70頁。

・「memoir」、『Proceedings. The Institution of Mechanical Engineers』、1908年2月、230―231頁。

・「英国人チャールス・ヂッキンスン・ウエスト」、稿本『傭外国人教師・講師履歴書』ゼロックス版、東京帝国大学事務部、昭和初期、（東京大学総合図書館参考室所蔵）。

・「英国人チャールス、ヂッキンスン、ウエスト」、『傭外国人教師講師名簿・自明治２年至昭和２年』所収、（『東京大学事務部所蔵・御雇外国人関係書類』マイクロフィルム版所収）。

・「履歴書」（外務省外交史料館所蔵「外国人叙勲雑件・英国人之部」自明治27年至同29年（第４巻）所収のウエスト勲４等叙勲資料中）。

・「チヤアレス・ヂッキンソン・ウエスト」、土木学会・編・発行『明治以後本邦土木と外人』、昭和17年、66―69頁。


### 17-2. 死亡記事・等


・『Engineering』Vol.85、1908年1月24日、125頁。

・『The Engineer』Vol.105、1908年2月28日、215頁。

・『朝野新聞』明治41年1月12日。

・『万朝報』明治41年1月12日。

・『東京朝日新聞』明治41年1月13日（死亡広告）。

・『The Japan Weekly Mail』1908年1月18日、57頁。

17-3. 葬 儀

・『読売新聞』明治41年1月15日。

・「ウエスト教師逝く」、『東洋学芸雑誌』第25巻316号、明治41年1月、33ー34頁。

17-4. 胸像（建設）関係

・井口在屋「故チャールス・ヂッキンソン・ウエスト先生の伝」、『機械学会誌』第10巻18号、明治41年2月、45ー47頁。

・「美術界風聞録」、『報知新聞』明治42年7月9日、『新聞集成明治編年史』第14巻、新聞集成明治編年史編纂会編、昭和11年（昭和15年、第3版）、123頁。

17-5. 胸像（除幕式）関係

・『鑄金計算報告、銅像建設報告』

・「故ウエスト教師の銅像除幕式」、『東洋学芸雑誌』第27巻343号、明治43年4月、206ー207頁。

・『The Japan Weekly Mail』1910年3月26日、Vol.53 No.13、515頁。

・「British and Japanese engineers at Tokyo University」、『Engineering』Vol.89、1910年4月22日、520頁。

・『万朝報』明治43年3月19日。

17-6. ２５回忌の故ウエスト教師記念会

・「故ウエスト教師記念会記事」、『学士会月報』第539号、昭和8年2月、1ー4頁。

17-7. （日本）機械学会の名誉員と故ウエスト教授記念資金

・『機械学会誌』第41巻253号、昭和13年4月、211ー213、246、310、328頁。

・『日本機械学会60年史』、日本機械学会・編・発行、昭和33年、33、34、110、390頁。

・『機械工学100年の歩み』、日本機械学会・編・発行、1997年、289、300、331、341頁。

17-8. 叙勲史料

・国立公文書館所蔵文書。

明治27年叙勲（外人叙勲）2

明治31年叙勲（外国人）2

明治41年叙勲（外国人1）巻3

・梅渓昇編『明治期外国人叙勲史料集成』思文閣出版、1991年、（国立公文書館所蔵文書の影印版、ただし内容重複の文書に不掲載のものがある）。

第３巻、76ー77頁（ウェスト勲四等）

第３巻、329ー330頁（ウェスト勲三等）

第４巻、405ー407頁（ウェスト勲二等）

・外務省外交史料館所蔵「外国人叙勲雑件・英国人之部」。

自明治27年至同29年（第４巻）

自明治29年至同33年（第５巻）

自明治38年至同42年（第７巻）

・『東京大学事務部所蔵・御雇外国人関係書類』マイクロフィルム版。

（あとの17-14を参照）

17-9．肖像写真

・『機械学会誌』第10巻18号、明治41年2月、巻頭。

・『東京帝国大学』（写真集）、小川一真編、小川写真製版所、明治33年。増補版、明治37年。

・『The Engineer』Vol.84、1897年12月3日、553頁（教官と学生の集合写真中）。

・『The Engineer』Vol.84、1897年12月10日、567頁。

・『"Japan Gazette" Yokohama Semi-Centennial』、1909（明治42）年7月、19頁、（横浜開港資料館所蔵ブルームコレクション）。日本語訳にも掲載。『市民グラフヨコハマ』No.41（開港記念日特集・全訳『ジャパン・ガゼット横浜50年史』）、横浜市発行、1982年6月、23頁。

・『万朝報』明治41年1月12日。

・『東京朝日新聞』明治41年1月13日。

・『万朝報』明治43年3月19日。

17-10．胸 像

・沼田一雅・作、東京大学工学部１号館前庭、明治43年3月19日除幕式、（台座はコンドル設計、台座付属のパネル４枚は沼田一雅）。

17-11. 回 想

・内丸最一郎「火打石から原子力まで」、『東大機械同窓会名簿』第7号、昭和34年11月現在、東大機械同窓会発行、昭和34年、23ー32頁（25頁）。

・内丸最一郎「思い出話」、『日本機械学会誌』第71巻595号、昭和43年8月、1035ー1036頁（1035頁）。

・朝倉希一『人生を考えよう』、開発社、昭和51年、（54ー55頁）。

17-12. その他の資料

・旧工部大学校史料編纂会編『旧工部大学校史料』、虎之門会、昭和6年。復刻版が青史社、1978年。

・ユネスコ東アジア文化研究センター編『資料御雇外国人』、小学館、昭和50年。

・竹内博編著『来日西洋人名事典・増補改訂普及版』、日外アソシエーツ、1995年。

・大蔵省編「工部省沿革報告」明治22年、大内兵衛・土屋喬雄編『明治前期財政経済史料集成』第17巻所収、明治文献資料刊行会、昭和39年、（改造社、昭和6年刊の復刻版）。

・文部省・雇(傭)外国人表

（『東京大学事務部所蔵・御雇外国人関係書類』マイクロフィルム版所収）

明治20年12月末調『傭外国人表』（文部省総務局）

明治21年12月末調『傭外国人表』（文部省総務局記録課）

明治24年12月31日調『雇外国人表』（文部省大臣官房）

明治26年10月15日調『雇竝囑託外国人表』（文部大臣官房秘書課）

明治30年11月25日調『傭外国人表』（文部省）

明治31年10月31日調『傭外国人表』（文部大臣官房秘書課）

明治33年12月1日調『傭外国人表』（文部省総務局人事課）

明治38年5月末日調『傭外国人表』（文部大臣官房秘書課）

（国立公文書館内閣文庫所蔵『傭外国教員録・明治13至20年』所収）

明治19年4月1日調『傭外国人表』（文部省総務局記録課）

明治20年12月末調『傭外国人表』（文部省総務局）

・『The Calendar of the Imperial College of Engineering (Kobu-dai-gakko) ,Tokei (Tokio) 』、1883年度、1884年度、1885年度。

・『工部大学校第２年報』、『明治初期教育関係基本資料・其之三』（近代日本学芸資料叢書第4集）、湖北社、1981年。

・「工科大学年報」明治19～23年、東京大学史史料研究会編『東京大学年報』第５～６巻、東京大学出版会、1994年。

17-13. 研究・紹介

・鈴木一義「日本の機械工学教育、チャールズ・ディキンソン・ウェストを中心に」、東京大学編・発行『学問のアルケオロジー（東京大学創立百二十周年記念東京大学展、学問の過去・現在・未来、第１部）』、1997年、381－390頁。

・白崎謙太郎『日本ヨット史・文久元年～昭和20年』、舵社、昭和63年、31，34－36,50頁。

・磯野直秀「東京大学三崎臨海実験所史、2.三崎町入船時代」、『慶應義塾大学日吉紀要・自然科学』No.1、1985年、42－62頁（50－51頁）。

・磯野直秀『三崎臨海実験所を去来した人たち』、学会出版センター、1988年、50－53頁。

・北郷薫「東京大学機械工学科における教育の変遷」、『日本機械学会誌』第81巻710号、昭和53年1月、62－69頁。

・北郷薫「明治初期における機械工学教育のれい明」、『日本機械学会誌』第83巻740号、昭和55年7月、826－832頁。

・Kaoru Hongo（北郷薫）「Charles Dickinson West, the father of Japan's mechanical engineering. (Learning from the West series) 」、『Look Japan』Vol.31 No.349、1985年4月10日、22頁。

・加藤洋治「ウエスト先生」、『日本造船学会誌』第654号、昭和58年12月、675頁。

・東京大学百年史編集委員会編『東京大学百年史、部局史３』、東京大学発行、昭和62年、第9編工学部・第2章（第4節機械工学科、第6節船舶工学科）。

・出水力「日本の機械工学の開拓者・井口在屋・１」、『技術と文明』第1巻

1号、1985年、55ー76頁（69頁）。

・手塚竜麿「二人の英人教師・機械工学のウエストと無機化学のダイヴァーズ」、手塚『英学史の周辺』、吾妻書房、1968年、8ー11頁。

・中山秀太郎「機械工学・造船業を担う人材を輩出した、チャールズ・D・ウエスト」、前田清志編『日本の機械工学を創った人々』、オーム社、平成6年、18ー19頁。

・吉田光邦『お雇い外国人２、産業』、鹿島研究所出版会、昭和43年、120ー122頁。

17-14.『東京大学事務部所蔵・御雇外国人関係書類』マイクロフィルム版所収のウェスト関係文書（17-12に記した文部省の雇(傭)外国人表は除く）

・『傭外国人教師講師名簿・自明治２年至昭和２年』所収の「英国人チャールス、ヂッキンスン、ウエスト」。

・『明治22年外国教師関係書類』所収の「工科大学教師ウエスト増給伺」。

・『明治26年外国教師関係書類』所収の「工科大学教師ウエスト東京湾海岸房相地方等船遊ニ付旅行免状請求ノ件」。

・同簿冊所収の「同人【工科大学教師ウエスト】三ケ年間雇継ノ件」。

・同簿冊所収の「天長節外務大臣夜会ニ出席スヘキ外国人取調ノ件」（ウエストの名あり）。

・『明治31年外国教師関係』所収の「工科大学機械工学教師ウエスト一時帰国並帰国中俸給支給方伺」。

・同簿冊所収の「雇外国教師レーンホルム外十五名ノ俸給並帰国旅費額改定ニ関スル條約締結伺」（ウエストあり）。

・同簿冊所収の「工科大学教師ウエスト勲等陞叙」。

・同簿冊所収の「工科大学教師ウエストへ同上【勲章並勲記伝達方ノ件】」。

・『明治32年外国教師関係』所収の「工科大学教師ウェスト文科大学教師コイベール同上【増給雇継伺】」。

・『明治34年外国教師関係』所収の「海軍大学校長ヨリ本学教師ウェストニ教授嘱託ノ件ニ関スル照会」。

・『明治35年外国教師関係』所収の「法科大学教師グリフィン文科大学教師コイベール、フローレンル及工科大学教師ウエスト氏雇継伺」。

・同簿冊所収の「元工部大学校教師都検兼教師ダイエルヘ本学名誉教師ノ名称授与伺」（「英文ハウエスト氏ニ計るべし」という文あり）。
・『明治38年外国教師関係』所収の「工科大学教師ウエスト、文科大学教師フローレンツ、及コイーベル雇継ニ関スル伺其他右ニ関スル件」。
・『外国教師関係書類（自明治39年至同44年）』所収の「工科大学教師英国人勲三等チャールス、ヂッキンソン、ウェスト勲二等瑞宝賞贈与方上申ノ件」。
・同簿冊所収の「工科大学教師チャールス、ヂッキンソン、ウェスト多年ノ功労ヲ賞スル為メ手当金支給ノ件」。
・同簿冊所収の「同上【工科大学教師チャールス、ヂッキンソン、ウェスト】死去届ノ件」。

## 2．目 録 篇

ﾍﾟｰｼﾞ

2-1．ウェスト文庫目録（単行本） ---------- 87

2-2．ウェスト文庫目録（製本雑誌） ---------- 138

2-3．ウェスト旧蔵ノート目録 ---------- 145

## 2-1. ウェスト文庫目録（単行本）

・ウェスト文庫（単行本）は東京大学工学部機械系三学科図書室所蔵。
・J.コンドルから寄贈され、東京帝国大学附属図書館では大正3年7月31日に登録。

・以下の単行本の目録は、各冊の最初の行を、
　W番号（ウェスト文庫の通し番号）、
　東京帝大機械工学科図書室での（旧）請求番号、
　東京帝大附属図書館の登録番号(関東大震災以前)、
の順に記載した。
・書き込み、献呈本、書店のシール、等について注記した。
・かなりの数の本にウェスト自身のサインと思われるものが書かれているが、原則としてこれは注記していない。
・購入年月かと思われる数字・月が記されているものは注記した。（W199だけは他の人の名と年月が書き込まれているが、ウェストの名と一緒に年月が書かれている本も多い）。

・購入以外による入手であると思われる図書、およびもとはウェスト以外の人の所蔵だったと思われる図書に、
　W4、W63、W90、W91、W92、(W111)?、W146、W173、W195、W199、W202、W238、W239、
がある。（W111はW91と対になった本であることからの推測）。
そのうち、もとはウェスト以外の人の所蔵だったと思われる図書として、
　W91、(W111)?、W146、W199、W202、W238、
がある。
また、贈与されたものであることが、書き込みによってわかる図書として、
　W239（叔母からのクリスマスプレゼント）、
　W4・W63・W173（著者から）、
　W90（ヨットレースの賞品）、

がある。

・W45とW46、W158とW159は、本に貼られたW番号と機械科(旧)請求番号がそれぞれ入れ違いになっている。東京帝大機械工学科図書室の図書の台帳と照合してみると、機械科(旧)請求番号が先にあった正しい番号で、W番号をあとから貼るとき間違えたものと思われる。目録にはカッコに入れた正しいW番号を記してその順にならべ、本自体にはちがうW番号が貼られていることを注記した。

・ウェスト文庫（単行本）の大部分はイギリス・アイルランド・アメリカで出版された英語の本だが、次の図書だけ例外。（「機械科」は工部大学校・(東京)帝国大学の機械科）

W67～70,218～221はフランスで出版のフランス語の図書。

W99～W100はベルギーで出版の図書。

W251はフランス語とドイツ語の図書。

W63は日本で出版の日本語の図書（著者は機械科卒業生の栗塚又郎）。

W158は日本で出版の英語の図書（編者はいずれも機械科教官の井口在屋、斯波忠三郎、加茂正雄）。

W1.　W.A.1　198337.

J. H. Cotterill

"Applied mechanics."

London: Macmillan and Co. 1884.

584p. 23cm.

W2.　W.A.2　198301.

T. Alexander & A. W. Thomson

"Elementary applied mechanics. 2nd ed."

London: Macmillan and Co. 1902.

575p　23cm.

W4の第2版。

W3.　W.A.3　198453.

W. J. M. Rankine

"A Manual of applied mechanics. 10th ed."

London: Charles Griffin and Company. 1882.

663p.　19cm.

書き込みあり(P.663の裏ﾍﾟｰｼﾞ)。

W4.　W.A.4　198300.

T. Alexander

"Elementary applied mechanics."

London: Macmillan and Co.　1880.

358p.　19cm.

著者からの献呈本。

"Yedo. 2 Nov. 1883."の地名･日付あり。

著者アレキサンダーは明治12 (1879) 年から明治19 (1886) まで工部大学校土木科教授。

W2の初版。

W5.　W.A.5　198522.

J. Weisbach　Translated by E. B. Coxe

"Theoretical mechanics."

New York: D. Van Nostrand.　1878.

1112p.　24cm.

丸善のシールあり。

W6.　W.A.6　198521.

J. Weisbach　Translated by A. J. Du Bois

"A manual of the mechanics of engineering and of the construction of machines. Vol.2. Part 2: Heat, steam, and steam engines."

New York: John Wiley & Sons.　1880.

559p.　24cm.

丸善のシールあり。

W7.　W.A.7　198521.

J. Weisbach　Translated by A. J. Du Bois

"A manual of the mechanics of engineering and of the construction of machines. Vol.2. Part 1: Hydraulics and hydraulic motors.

New York: John Wiley & Sons. 1880.

675p. 24cm.

W8. W.A.8 198521.

J. Weisbach　2nd edition by G. Herrmann　Translated by J. F. Klein

"Mechanics of engineering and of machinery.

Vol.3. Part 1. Section 1: The mechanics of the machinery of transmission."

New York: John Wiley & Sons. 1883.

544p. 24cm.

丸善のシールあり。

W9. W.A.9 198495.

B. B. Stoney

"The Theory of strains in girders and similar structures.

New edition."

London: Longmans, Green, and Co. 1873.

632p. 25cm,

W10. W.A.10 198325.

G. W. Buck

"A practical and theoretical essay on oblique bridges. 2nd ed."

London: John Weale. 1857.

56p. 28cm.

購入年月日(?)、1867, June, 11.

W11. W.A.11 198430.

H. Moseley

"The mechanical principles of engineering and architechture. 2nd ed."

New York: John Wiley & Son. 1875.

699p. 24cm.

W12. W.A.12 198403.

A. B. W. Kennedy

"The mechanics of machinery."

London: Macmillan and Co. 1886.

652p. 19cm.

W13. W.A.13. 198463.

F. Reuleaux Translated and edited by A. B. W. Kennedy

"The kinematics of machinery. "

London: Macmillan and Co. 1876.

622p. 24cm.

W14. W.A.14 198471.

E. J. Routh

"The elementary part of a treatise on the dynamics of a system of rigid bodies. 4th ed."

London: Macmillan and Co. 1882.

385p. 23cm.

W15. W.A.15 198514.

J. F. Twisden

"Elementary introduction to practical mechanics."

London: Longman, Green, and Co. 1863.

319p. 20cm.

購入年月(?)、(2箇所に記載)、1866, November.

W16. W.D.16 198363.

T. M. Goodeve

"The elements of mechanism. New edition."

London: Longmans, Green, and Co. 1880.

345p. 19cm.

W17. W.D.17 198378.

G. D. Hiscox

"Mechanical movements; powers, devices and appliances."

London: Sampson Low, Marston & Company. 1899.

402p. 24cm.

W18. W.D.18 198494.

B. B. Stoney

"The strength and proportions of riveted joints."

London: E. & F. N. Spon. 1885.

87p. 23cm.

書籍商 Kelly & Walsh, Limited. (横浜) のシールあり。

W19. W.D.19 198516.

W. C. Unwin

"The elements of machine design."

London: Longmans, Green and Co. 1880.

346p. 18cm.

ダブリンの書籍商 William McGee のシールあり。

W20. W.D.20 198512.

T. W. Traill

"Chain cables and chains."

(London): Crosby Lockwood and Co. 1885.

48p. 48sheets. 19plates. 37cm.

W21. W.D.21 198358.

N. Foley

"The mechanical engineer's reference book, for machine and boiler construction."

London: Crosby Lockwood and Son. 1891.

148p. 50plates. 40cm.

"Chas. D. West/ (Lent to Takata & Co 15/4/98) "の書き込みあり。

書籍商 Kelly & Walsh, Ltd. (横浜61番館) のシールあり。

W22. W.E.22 198398.

F. Jenkin

"Electricity and magnetism. 6th ed."

London: Longmans, Green and Co. 1881.

391p.18cm.

W23. W.E.23 198478.

J. H. Shaxby

"Elementary electrical engineering."

London: Blackie & Son. 1907.

192p. 19cm.

W24. W.E.24 198381.

E. Hospitalier Translated and enlarged by J. Maier

"The modern applications of electricity. 2nd ed.

Vol.1: Electric generators: electric light."

London: Kegan Paul, Trench & Co. 1883.

502p. 23cm.

W25. W.E.25 198381.

E. Hospitalier Translated and enlarged by J. Maier

"The modern applications of electricity. 2nd ed.

Vol.2: Telephone: various applications: electrical transmission of energy."

London: Kegan Paul, Trench & Co. 1883.

400p. 23cm.

W26. W.E.26 198501.

S. P. Thompson

"Elementary lessons in electricity & magnetism."

London: Macmillan and Co. 1882.

446p. 17cm.

W27. W.E.27 198315.

S. R. Bottone

"The dynamo. 11th ed."

London: Swan Sonnenschein & Co. 1899.

138p. 19cm.

W28. W.E.28 198316.

S. R. Bottone

"Electro-motors. 4th ed."

London: Whittaker & Co. 1901.

176p. 18cm.

W29. W.E.29 198500.

S. P. Thompson

"Dynamo-electric machinery. 3rd ed."

London: E. & F. N. Spon. 1888.

672p. 23cm.

書籍商 Kelly & Walsh, Ltd. (上海・香港・シンガポール・横浜) のシールあり。

W30. W.E.30 198477.

T. Sewell

"The construction of dynamo."

London: Crosby Lockwood and Son. 1907.

316p. 21cm.

W31. W.E.31 198412.

O. J. Lodge

"Modern views of electricity."

London: Macmillan and Co. 1889.

422p. 19cm.

丸善のシールあり。

W32. W.E.32 198429.

Count du Moncel & F. Geraldy

Translated, and edited with additions, by C. J. Wharton

"Electricity as a motive power."

London: E. & F. N. Spon. 1883.

316p. 19cm.

W33. W.E.33 198481.

W. Slingo & A. Brooker

"Electrical engineering for electric light artisans and students. Revised edition."

London: Longmans, Green, and Co. 1900.

796p. 20cm.

W34. W.E.34 198372.

Edited by P. N. Hasluck

"Dynamos and electric motors."

London: Cassell and Company, Limited. 1901.

159p. 18cm.

W35. W.E.35 198404.

R. kerr

"Wireless telegraphy."

London: Seeley and Co., Limited. 1898.

111p. 17cm.

W36. W.E.36 198450.

W. H. Preece & J. Sivewright

"Telegraphy. 2nd ed."

London: Longmans, Green, and Co. 1876.

310p. 18cm.

W37. W.E.37 198448.

G. B. Prescott

"Electricity and the electric telegraph. 5th ed."

New York: D. Appleton & Company. 1882.

980p. 23cm.

W38. W.E.38 198364.

J. E. H. Gordon

"A practical treatise on electric lighting."

London: Sampson Low, Marston, and Co. 1884.

228p. 23cm.

W39. W.E.39 198344.

R. E. Day

"Electric light arithmetic."

London: Macmillan and Co. 1883.

80p. 16cm.

丸善のシールあり。

W40. W.E.40 198517.

J. W. Urquhart Edited by F. C. Webb

"Electric light."

London: Crosby Lockwood and Co. 1880.

290p. 19cm.

W41. W.E.41 198449.

G. B. Prescott

"The speaking telephone, electric light, and other recent electrical inventions."

New York: D. Appleton & Company. 1879.

616p. 24cm.

W42. W.E.42 198520.

F. Walker

"Practical dynamo building for amateurs. 4th ed."

London: Iliffe, Sons & Sturmey Ltd. 出版年不明

71p. 19cm.

W43. W.E.43 198376.

W. Hibbert

"Electric ignition for motor vehicles."

London: Whittaker & Co. 1907.

128p. 17cm.

W44. W.E.44 198502.

J. J. Thomson

"The discharge of electricity through gases."

Westminster: Archibald Constable & Co. 1898.

203p. 20cm.

(W45) W.E.45 198421. (本には W46 が貼られている)

Edited by P. Marshall

"Small accumulators."

London: Dawbarn and Ward, Limited. 出版年不明

62p. 19cm.

(W46) W.G.46 198366. (本には W45 が貼られている)

F. Grover

"A practical treatise on modern gas and oil engines. 2nd ed."

Manchseter: The Technical Publishing Co. Limited. 1897.

256p. 19cm.

W47. W.G.47 198498.

A. J. Wallis-Tayler

"Refrigerating and ice-making machinery. 3rd ed."

London: Crosby Lockwood and Son. 1902.

280p. 19cm.

W48. W.H.48 198352.

S. Downing

"The elements of practical hydraulics. 2nd ed."

London: Longmans and Co. 1861.

216p. 22cm.

購入年月日(?)、1867, November 11.

図などの書き込み若干あり。

W49. W.H.49 198409.

H. Lamb

"A treatise on the mathematical theory of the motion of fluids."

Cambridge: University Press. 1879.

258p. 23cm.

W50. W.H.50 198340.

W. Cullen

"A practical treatise on the construction of horizontal and vertical water-wheels. 2nd ed."

London: E. & F. N. Spon. 1871.

63p. 25cm.

W51. W.H.51 198322.

M. Bresse Translated by F. A. Mahan

"Water-wheels. New edition."

New York: Jophn Wiley & Sons. 1876.

165p. 24cm.

W52. W.H.52 198313.

G. R. Bodmer

"Hydraulic motors."

London: Whittaker and Co. 1889.

525p. 20cm.

W53. W.H.53 198343.

H. Davey

"The principles, construction, and application of pumping machinery."

London: Charles Griffin & Company, Limited. 1900.

295p. 24cm.

購入年(?)、1902.

W54. W.H.54 198331.

W. K. Burton

"The water supply of towns and the construction of waterworks."

London: Crosby Lockwood and Son. 1894.

279p. 26cm.

W55.　W.K.55　198384.

W. S. Hutton

"Steam-boiler construction. 2nd ed."

London: Crosby Lockwood and Son.　1893.

398p.　23cm.

書籍商 Kelly & Walsh, Ltd.（横浜、61番館）のシールあり。

W56.　W.K.56　198351.

B. Donkin

"The heat efficiency of steam boilers."

London: Charles Griffin & Company, Limited.　1898.

311p.　23cm.

W57.　W.K.57　198433.

R. D. Munro

"Steam boilers. 3rd ed."

London: Charles Griffin & Company, Limited.　1899.

157p.　20cm.

W58.　W.K.58　198528.

R. Wilson

"A treatise on steam boilers. 2nd ed."

London: Lockwood & Co.　1874.

328p.　18cm.

W59.　W.H.59　198299.

Hathorn Davey & Co., Leeds, England.

"Album of designs of pumping engines for town water supply, &c."

(London): Henry Davey.　出版年不明

6 designs.　41cm.

W60.　W.L.60　198458.

"Recent locomotives."

New York: The Railroad Gazette.　1883.

46p.　203 figures.　41cm.

W61　W.L.61　198306.

J. W. Barry

"Railway appliances. 3rd ed."

London: Longmans, Green, and Co.　1881.

301p.　18cm.

書籍商のシールあり（判読困難）。

W62.　W.L.62　198408.

C. S. Lake

"The world's locomotives."

London: Percival Marshall & Co.　出版年不明

380p.　26cm.

W63.　W.L.63　198297.

栗塚又郎

"機関車"

東京　栗塚又郎　明治25 (1892)

発売所：工業雑誌社・工談雑誌社

271p　22cm.

著者よりの贈呈本（献辞と "11th May・92" の日付あり）。

著者の栗塚又郎は工部大学校機械科を明治15年卒業。

W64.　W.L.64　198336.

C. J. B. Cooke

"British locomotives. 2nd ed."

London: Whittaker and Co.　1894.

381p.　20cm.

W65.　W.L.65　198357.

M. N. Forney

"Catechism of the locomotive."

New York: The Railroad Gazette.　1883.

609p.　19cm.

W66.　W.L.66　198307.

S. J. Berg & c.  Edited by J. Forrest

"Mountain railways."

London: The Institution of Civil Engineers. 1895.

153p. 22cm.

W67. W.L.67 198345.

M. Demoulin

"Traite pratique de la machine locomotive. Tome 1"

Paris: Baudry et Cie. 1898.

457p. 28cm.

W68. W.L.68 198345.

M. Demoulin

"Traite pratique de la machine locomotive. Tome 2"

Paris: Baudry et Cie. 1898.

510p. 28cm.

W69. W.L.69 198345.

M. Demoulin

"Traite pratique de la machine locomotive. Tome 3"

Paris: Baudry et Cie. 1898.

551p. 28cm.

W70. W.L.70 198345.

M. Demoulin

"Traite pratique de la machine locomotive. Tome 4"

Paris: Baudry et Cie. 1898.

459p. 28cm.

W71. W.L.71 198525.

T. H. White

"Petrol motors and motor cars."

London: Longmans, Green, and Co. 1904.

187p. 20cm.

W72. W.L.72 198531.

A. B. F. Young

"The complete motorist. 6th ed."

London: Methuen & Co. 1906.

316p. 23cm.

W73. W.L.73 198298.

W. P. Adams

"Motor-car mechanism and management. Part 1: The petrol car."

London: Charles Griffin and Company, Limited. 1906.

174p. 19cm.

中西屋書店（東京）のシールあり。

W74. W.M.74 198348.

J. Donaldson

"Drawing and rough sketching for marine engineers. 2nd ed."

London: Chas. Wilson. 出版年不明

82p. 22cm.

W78の第2版。

W75. W.M.75 198467.

C. W. Roberts

"Practical advice for marine engineers."

London: Tower Publishing Company Ld. 1894.

150p. 19cm.

W76. W.M.76 198411.

A. R. Leask

"Triple & quadruple expansion engines & boilers. 3rd ed."

London: A. Ritchie Leask. 1897.

246p. 19cm.

W77. W.M.77 198349.

J. Donaldson

"The practical guide to the use of marine steam machinery."

London: Charles Wilson. 1881.

126p. 23cm.

購入年月日(?)、July 5/82.

W78. W.M.78 198347.

J. Donaldson

"Drawing and rough sketching for marine engineers. with supplement. 4th ed."

London: Charles Wilson. 出版年不明

98,75p. 23cm.

購入年(?)、/87.

W74の第4版。

W79. W.M.79 198459.

W. H. Thorn

"Reed's engineers' hand book to the local marine board examinations. 8th ed."

Sunderland: Thomas Reed and Co. (1880).

364p. 19cm.

W80 W.M.80 198460.

J. Denholm-Young

"Reed's guide to the use and management of yacht, trawler & launch engines."

Sunderland: Thomas Reed and Co., Ltd. (1904).

362p. 22cm.

W81. W.M.81 198476.

R. Sennett

"The marine steam engine."

London: Longmans, Green, and Co. 1882.

659p. 23cm.

W82. W.M.82 198473.

A. E. Seaton

"A manual of marine engineering. 4th ed."

London: Charles Griffin and Company. 1885.

459p. 23cm.

W83. W.M.83 198496.

C. E. Stromeyer

"Marine boiler management and construction. 2nd ed."

London: Longmans, Green, and Co. 1901.

404p. 24cm.

W84. W.M.84 198308.

L. E. Bertin Translated and edited by L. S. Robertson

"Marine boilers."

London: John Murray. 1898.

437p. 23cm.

購入年(?)、1899.

ウエストの住所、"13 Kaga Yashiki, Tokyo." の書き込みあり。

W85. W.M.85 198311.

T. E. Biddle

"A treatise on the construction, rigging, & handling of model yachts, ships & steamers. 2nd ed."

London: Norie & Wilson. 1883.

101p. 22cm.

W86. W.M.86 198309.

T. E. Biddle

"The Corinthian yachtsman, or hints on yachting."

London: C. Wilson. 1886.

87p. 23cm.

W87. W.M.87 198518.

Vanderdecken.

"Yachts and yachting."

London: Hunt & Co. 1873.

391p. 22cm.

W88. W.M.88 198401.

D. Kemp

"Yacht architecture. 2nd ed."

London: Horace Cox. 1891.

528p. 28cm.

W89. W.M.89 198399.

D. Kemp

"A manual of yacht and boat sailing. 3rd ed."

London: Horace Cox. 1882.

612p. 27cm.

W90の第3版。

W90. W.M.90 198400.

D. Kemp

"A manual of yacht and boat sailing. 6th ed."

London: Horace Cox. 1888.

698p. 27cm.

1889年7月20日に横浜セイリングクラブで、"Daimyo"（大名、ウエスト設計のヨット名）によって獲得したＢクラスの賞品であるというウエストの書き込みがある。（W92,W124も参照）。

W89の第6版。

W91. W.M.91 198415.

Lloyd's Register of British and Foreign Shipping.

"Yacht register. From 1st May, 1883, to 30th April, 1884."

London: Lloyd's Register of British and Foreign Shipping.

1883.

1v. 14×23cm.

外表紙に "W. R. Browne, Esq."、"No.870" と刷り込まれている。

ロイド船級協会のヨット船名録は別の年度のW91とW92の２冊がある。

W92.　W.M.92　198416.

Lloyd's Register of British and Foreign Shipping.

"Yacht register. From 1st May, 1900, to 30th April, 1901."

London: Lloyd's Register of British and Foreign Shipping.

1900.

1452p.　14×23cm.

外表紙に "C. D. West, Esq."、"No.1992" と刷り込まれている。

p.106にウエストの名が、p.243とp.612にウエスト設計のヨット、

"Daimyo"(大名)と"Ronin"(浪人)が掲載されている。(W90,W124も参照)。

ロイド船級協会のヨット船名録は別の年度のW91とW92の２冊がある。

W93.　W.M.93　198470.

W. H. Rosser

"The yachtsman's handy book. 2nd ed."

London: Charles Wilson.　1880.

84p.　23cm.

W94.　W.M.94　198339.

F. S. Cozzens &c.

"American yachts and yachting."

London: Cassell & Company, Limited.　1888.

159p.　27cm.

書籍商 Kelly & Walsh, Ltd.(上海・香港・シンガポール・横浜)のシールあり。

W95.　W.M.95　198417.

A. J. Maginnis

"The Atlantic ferry."

London: Whittaker and Co.　1892.

304p.　20cm.

書籍商 Kelly & Walsh, Ltd.(横浜、61番館)のシールあり。

W96.　W.M.96　198365.

J. Grantham

"Iron ship-building. 5th ed."

London: Virtue and Co. 1868.

321p. 18cm.

W97. W.M.97 198413.

H. Lloyd

"Elementary treatise on the wave-theory of light. 2nd ed."

London: Longman, Brown, Green, Longmans, and Roberts. 1857.

208p. 23cm.

購入年(?)、1868.

W98. W.M.98 198310.

T. E. Biddle

"How to make knots, bends & splices, as used at sea."

London: Norie & Wilson. 出版年不明

20p. 22cm.

W99. W.M.99 198440.

H. Paasch

"From keel to truck: a marine dictionary in English, French and German."

Antwerp: Printed by Ratinckx. 1885.

1v. 22cm.

W100. W.M.100 198439.

H. Paasch

"Illustrated marine encyclopedia."

Antwerp: Published by the author. 1890.

306p. 100plates. 25cm.

W101. W.M.101 198507.

Tiphys

"Practical canoeing."

London: Norie & Wilson. 1883.

78p. 23cm.

W102. W.M.102 198327.

J. T. Burgess

"Knots, ties and splices."

London: George Routledge and Sons. 出版年不明

101p. 19cm.

W103. W.M.103 198393.

"Instructions as to the survey of the hull, equipments, and machinery of steam ships: carrying passengers."

London: Printed by the Authority of the Board of Trade. 1884.

59p. 21cm.

Bound with "Instructions as to the survey of passenger accommodation, crew spaces, lights and fog signals."(Reprinted by the Authority of the Board of Trade. 1883. 64p.)

W104. W.M.104 198434.

G. S. Nares

"Seamanship. 6th ed."

Portsmouth: Griffin & Co. 1882.

291p. 22cm.

W105. W.M.105 198406.

R. Kipping

"Rudimentary treatise on masting, mast-making, and rigging of ships. 11th ed."

London: Virtue & Co. 1868.

157p. 18cm.

W106. W.M.106 198529.

T. D. Wilson

"An outline of ship building."

New York: John Wiley & Sons. 1880.

398p. 24cm.

丸善のシールあり。

W107. W.M.107 198461.

E. J. Reed

"A treatise on the stability of ships."

London: Charles Griffin and Company. 1885.

369p. 24cm.

W108. W.M.108 198447.

D. Pollock

"Modern shipbuilding and the men engaged in it."

London: E. & F. N. Spon. 1884.

216p. 23cm.

W109 W.M.109 198491.

W. P. Stephens

"Canoe and boat building."

New York: Forest and stream Publishing Co. 1885.

175p. 付図あり 20cm.

W110. W.M.110 198484.

W. H. Smyth

"The sailor's word-book."

London: Blackie and Son. 1867.

744p. 24cm.

W111. W.M.111 198414.

Lloyd's Register of British and Foreign Shipping.

"Rules and regulations. From 1st July, 1883, to the 30th June, 1884."

London: Lloyd's Register of British and Foreign Shipping.

1883.

183p. 24×20cm.

購入年(?)、/83.

W112. W.M.112 198524.

W. H. White

"A manual of naval architecture."

London: John Murray. 1877.

644p. 23cm.

W113. W.M.113 198321.

T. Brassey

"The British Navy. Vol.1 (Part 1: shipbuilding for the purposes of war)"

London: Longmans, Green, and Co. 1882.

621p. 25cm.

W114. W.M.114. 198321.

T. Brassey

"The British Navy. Vol.2 (Part 2: Miscellaneous subjects connected with shipbuilding for the purposes of war)"

London: Longmans, Green, and Co. 1882.

421p. 25cm.

W115. W.M.115 198321.

T. Brassey

"The British Navy. Vol.3 (Part 3: Opinions on the shipbuilding policy of the Navy)"

London: Longmans, Green, and Co. 1882.

586p. 25cm.

W116. W.M.116 198435.

Brassey

"The Naval annual, 1886."

Portsmouth: J. Griffin and Co. 1886.

550p. 26cm.

書き込みあり。

W117. W.M.117 198519.

E. W. Very

"Navies of the world."

New York: John Wiley & Sons. 1880.

452p. 24cm.

W118. W.M.118. 198405.

J. W. King

"The war-ships and navies of the world. 3rd ed."

Boston: A. Williams and Company. 1882.

615p. 24cm.

W119. W.M.119 198480.

C. W. Sleeman

"Torpedoes and torpedo warfare."

Portsmouth: Griffin & Co. 1880.

309p. 25cm.

W120. W.M.120 198394.

"The international code of signals for the use of all nations."

London: Spottiswoode & Co. (1899).

572p. 29×23cm.

W121. W.M.121 198499.

S. J. P. Thearle

"Theoretical naval architecture. vol.1: TEXT."

London: William Collins, Sons, and Company. 1877.

376p. 18cm.

W122. W.M.122 198499.

S. J. P. Thearle

"Theoretical naval architecture. vol.2: plates."

London: William Collins, Sons, and Company. 1877.

60plates. 27×22cm.

W123. W.M.123 198365.

J. Grantham

"On iron ship building. 5th ed."

London: Lockwood & Co. 1868.

35plates. 38cm.

W124. W.M.124 198326.

E. Burgess

"English and American yachts."

London: Chapman and Hall. 1888.

50plates. 28×36cm.

表の表紙の裏に日本とアメリカの郵便切手が4枚貼られている。

横浜ヨットクラブの1897年6月22日のレガッタのプログラムが挟み込まれている。プログラムにはこの日のofficerとしてウエストの名があり、彼の設計したヨット"Daimyo"(大名)と"Ronin"(浪人)も出場している。(W90,W92も参照)。

W125. W.M.125 198407.

C. P. Kunhardt

"Small yachts."

London: Sampson Low, Marston, Searle & Rivington. 1885.

369p. 63plates. 38cm.

数字の書き込みあり。

W126. W.M.126 198402.

D. Kemp

"Yacht designing."

London: "The Field" Office. 1876.

118p. 34plates. 42cm.

数表を記した紙が挟み込まれている。

W127. W.M.127 198431.

W. H. Maw

"Recent practice in marine engineering. Vol.1 text."

London: Offices of "Engineering". (1883)

310p. 37cm.

W128. W.M.128 198431.

W. H. Maw

"Recent practice in marine engineering. Vol.2 plates."

London: Offices of "Engineering". (1883)

176plates. 37cm.

W129. W.N.129 198454.

W. J. M. Rankine

"A manual of machinery and millwork. 1st ed."

London: Charles Griffin and Company. 1869.

588p. 20cm.

W130. W.N.130. 198320.

T. Box

"A practical treatise on mill-gearing, wheels, shafts, riggers, etc, for the use of engineers. 3rd ed."

London: E. & F. N. Spon. 1882.

120p. 19cm.

W131. W.P.131 198422.

E. Matheson

"Aid book to engineering enterprise abroard."

London: E. and F. N. Spon. 1878.

288p. 23cm.

W132. W.P.132 198422.

E. Matheson

"Aid book to engineering enterprise abroard. Part 2"

London: E. and F. N. Spon. 1881.

472p. 23cm.

W133. W.P.133 198489.

"Spons' mechanics' own book."

London: E. and F. N. Spon. 1885.

702p. 22cm.

W134. W.P.134 198373.

P. N. Hasluck

"The metal turner's handbook."

London: Crosby Lockwood & Co. 1882.

152p. 19cm.

W135と同じ本。

W135. W.P.135 198374.

P. N. Hasluck

"The metal turner's handbook."

London: Crosby Lockwood & Co. 1882.

152p. 19cm.

W134と同じ本。

W136. W.P.136 198333.

Edited by J. Pryde

"Mathematical tables. New edition."

London: W. & R. Chambers. 1881.

454p. 20cm.

W137. W.P.137 198334.

D. K. Clark

"A manual of rules, tables, and data for mechanical engineers. 2nd ed."

London: Blackie & Son. 1878.

984p. 23cm.

表紙の裏に来日直前のものと思われる "Chas. D. West／with best wishes from W. Silver Hall／June 26, 1882" という書き込みあり。

W138. W.P.138 198457.

W. J. M. Rankine

"Useful rules and tables. 4th ed."

London: Charles Griffin and Company. 1873.

312p. 20cm.

購入年月(?)、Nov 1873.

p.275に書き込みあり。

W139. W.P.139 198380.

E. Hospitalier Translated, with additions, by G. Wigan

"The electrician's pocket-book."

London: Cassell & Company, Limited. 1884.

318p. 17cm.

W140. W.P.140 198511.

T. W. Traill

"Boilers: marine and land. 2nd ed."

London: Charles Griffin and Company. 1890.

547p. 17cm.

W141. W.P.141 198474.

A. E. Seaton & H. M. Rounthwaite

"A pocket book of marine engineering: rules and tables. 4th ed."

London: Charles Griffin & Company, Limited. 1897.

453p. 17cm.

裏側の遊び紙の裏に計算のメモあり。

W142. W.P.142. 198355.

"The engineer's, architect's, and contractor's pocket-book for the year 1874."

London: Lockwood & Co. 1874.

395p. 17cm.

W143. W.P.143 198424.

Compiled by J. Milne

"The miner's handbook. Rebised edition."

London: Crosby Lockwood and Son. 1894.

304p. 15cm.

W144. W.P.144 198425.

G. L. Molesworth

"Pocket-book of useful formula & memoranda for cibil and mechanical engineers. 17th ed."

London: E. & F. N. Spon. 1871.

440p. 12×8cm.

購入年月(?)、Oct 1874.

数表・数式等の書き込みあり。

見返しに数表の貼り込みあり。

W145,146,147と同じ本で、W145とは版も同じ。

W145. W.P.145 198426.

G. L. Molesworth

"Pocket-book of useful formula & memoranda for cibil and mechanical engineers. 17th ed."

London: E. & F. N. Spon. 1871.

440p. 12×8cm.

購入年月(?)、Jan 1872.

数表・数式等の書き込みあり。

見返しに1871年の暦の貼り込みあり。

W144,146,147と同じ本で、W144とは版も同じ。

W146. W.P.146 198428.

G. L. Molesworth

"Pocket-book of useful formula and memoranda for cibil and mechanical engineers."

London: E. & F. N. Spon. 1863.

220p. 13×8cm.

"John A Rupell/Beaufort/4th May -63" という書き込みあり。

数式等の書き込みあり。

W144,145,147と同じ本の最初の版。

W147. W.P.147 198427.

G. L. Molesworth

"Pocket-book of useful formula & memoranda for cibil and mechanical engineers. 21st ed."

London: E. & F. N. Spon. 1882.

744p. 13×8cm.

数字等の書き込みあり。

W144～146と同じ本の新しい版。

W148. W.P.148 198329.

N. P. Burgh

"Pocket-book of practical rules for the proportions of modern engines & boilers for land and marine purposes. 2nd ed."

London: E. & F. N. Spon. 1868.

250p. 12×8cm.

"Preface by C. D. West" と題した14行の"Preface"が 鉛筆で書き込まれている。

数式等の書き込みあり。

見返しに1870年の暦の貼り込みあり。

W149. W.K.149 198369.

G. Halliday

"Steam boilers."

London: Edward Arnold. (1897).

392p. 19cm.

W150. W.S.150. 198506.

R. H. Thurston

"A history of the growth of the steam-engine."

London: C. Kegan Paul & Co. 1878.

490p. 19cm.

購入年(?)、／82.

W151. W.S.151 198356.

J. A. Ewing

"The steam-engine and other heat-engines. Sterotyped edition."

Cambridge: University Press. 1902.

456p. 23cm.

W152. W.S.152 198530.

J. G. Winton

"Modern steam practice and engineering."

London: Blackie & Son. 1883.

1120p. 24cm.

W153. W.S.153 198317.

J. Bourne

"A catechism of the steam engine. New edition."

London: Longmans, Green, and Co. 1885.

610p. 19cm.

W154. W.S.154 198318.

J. Bourne

"Recent improvements in the steam-engine. New edition."

(Being a supplemnet to "The catechism of the steam-engine.")

London: Longmans, Green, and Co. 1869.

336p. 18cm.

購入年月(?)、Feb 1870.

W155. W.S.155 198455.

W. J. M. Rankine

"A manual of the steam engine and other prime movers. 4th ed."

London: Charles Griffin and Company. 1869.

575p. 19cm.

図の書き込みあり。

W156. W.S.156. 198379.

G. D. Hiscox

"Modern steam engineering."

London: Crosby Lockwood & Son. 1907.

487p. 24cm.

W157. W.S.157 198382.

C. Hurst

"Hints on steam-engine design and construction. 2nd ed."

London: Charles Griffin & Company, Limited. 1905.

62p. 20cm.

(W158) W.S.158 198386. (本には W159 が貼られている)

Compiled by A. Inokuty, C. Shiba & M. Kamo.

"Design and construction of stationary steam engine."

Tokyo: Maruzen Kabushiki kaisha. 1899 (明治32) .

178p. 131plates. 23cm.

井口在屋・斯波忠三郎・加茂正雄は工部大学校と（東京）帝国大学工科大学の機械科卒業生で、東京帝大機械科の（助）教授。

(W159) W.S.159 198487. (本には W158 が貼られている)

J. W. Sothern

"The marine steam turbine. 2nd ed."

London: Whittaker & Co. 1906.

163p. 22cm.

W160. W.S.160 198360.

W. Gentsch Translated by A. R. Liddell

"Steam turbines."

London: Longmans, Green, and Co. 1906.

375p. 27cm.

W161. W.S.161 198492.

A. Stodola Authorized translation by L. C. Loewenstein

"Steam turbines."

New York: D. Van Nostrand Company. 1905.

434p. 付図あり 24cm.

W162. W.S.162 198436.

R. M. Neilson

"The steam turbine."

London: Longmans, Green, and Co. 1902.

163p. 23cm.

W163. W.S.163 198353.

E. Edwards

"The practical steam engineer's guide."

Philadelphia: Henry Carey Baird & Co. 1882.

420p. 21cm.

W164. W.S.164 198383.

C. Hurst

"Valves and valve-gearing. 2nd ed."

London: Charles Griffin and Company, Limited. 1900.

135p. 22cm.

W165. W.S.165 198532.

G. Zeuner Translated by M. Mueller

"Treatise on valve-gears. 3rd ed."

London: E. & F. N. Spon. 1869.

224p. 24cm.

購入年月(?)、Sept 1876.

W166. W.S.166 198330.

N. P. Burgh

"The slide valve. 2nd ed."

London: E. & F. N. Spon. 1868.

121p. 19cm.

リバプールの書籍商 Philip, Son & Nephew のシールあり

W167. W.S.167 198370.

F. A. Halsey

"Slide valve gears. 6th ed."

New York: D. Van Nostrand Company. 1899.

203p. 19cm.

W168. W.S.168 198328.

N. P. Burgh

"Link-motion and expansion-gear. text."

London: E. & F. N. Spon. 1870.

232p. 25cm.

W169. W.S.169 198328.

"Link-motion and expansion-gear. plates."

72plates. 25cm.

W168の別冊の図集

鉛筆で図の目次が書き込まれている。

W170. WS.170 198420.

T. J. Main & T. Brown

"The indicator and dynamometer. 4th ed."

London: Longman and Co. 1864.

65p. 22cm.

購入年月(?)、Feb 1870.

購入地(?)、Liverpool.

W171. W.S.171 198466.

C. T. Porter

"A treatise on the Richards' steam-engine indicator. 3rd ed."

London: Longman, Green, Reader, and Dyer. (1874).

258p. 22cm.

購入年月日(?)、Feb 14 1876.

W172. W.S.172 198341.

W. E. Dalby

"The balancing of engines."

London: Edward Arnold. 1902.

283p. 22cm.

W173. W.S.173 198302.

R. W. Allen

"Surface-condensing plants, and the value of the vacuum produced."

London: Institution of Civil Engineers. 1905.

83p. 22cm.

外表紙に "From the Author" という書き込みあり。

W174. W.T.174 198497.

P. G. Tait

"Heat."

London: Macmillan and Co. 1884.

368p. 19cm.

W175. W.T.175 198423.

J. C. Maxwell

"Theory of heat. 5th ed."

London: Longmans, Green, and Co. 1877.

333p. 18cm.

購入年(?)、/82.

W176. W.T.176 198362.

H. A. Golding

"The theta-phi diagram."

Manchester: The Technical Publishing Co. Limited. 1898.

127p. 19cm.

W177. W.T.177 198335.

R. Clausius Translated by W. R. Browne

"The mechanical theory of heat."

London: Macmillan and Co. 1879.

376p. 20cm.

W178. W.W.178 198442.

A. Parr

"Machine tools and workshop practice for engineering students and apprentices."

London: Longmans, Green, and Co. 1905.

444p. 23cm.

W179. W.W.179 198483.

R. H. Smith

"Cutting tools, worked by hand and machine."

London: Cassell, Petter, Galpin & Co. 1882.

224p. 18cm.

W180. W.W.180 198490.

N. E. Spretson

"A practical treatise on casting and founding."

London: E. & F. N. Spon. 1878.

412p. 82plates. 22cm.

W181. W.W.181 198443.

A foreman pattern maker

"Pattern making."

London: Crosby Lockwood and Co. 1885.

270p. 19cm.

W182. W.W.182 198469.

J. Rose

"The pattern maker's assistant."

New York: D. Van Nostrand. 1878.

324p. 21cm.

購入年(?)、1882. (2カ所に記載)

W183. W.W.183 198523.

T. D. West

"American foundry practice. 2nd ed."

New York: John Wiley & Sons. 1883.

391p. 20cm.

W184. W.W.184 198305.

M. P. Bale

"Woodworking machinery."

London: Crosby Lockwood and Co. 1880.

362p. 21cm.

W185. W.W.185 198488.

E. Spon

"Workshop receipts. (1st series.)"

London: E. & F. N. Spon. 1885.

450p. 19cm.

W186. W.W.186 198488.

R. Haldane

"Workshop receipts. (2nd series.)"

London: E. & F. N. Spon. 1885.

485p. 19cm.

W187. W.W.187 198488.

C. G. W. Lock

"Workshop receipts. (3rd series.)"

London: E. & F. N. Spon. 1885.

480p. 19cm.

W188. W.W.188 198385.

W. S. Hutton

"The works' manager's hand-book of modern rules, tables, and data. 2nd ed."

London: Crosby Lockwood and Co. 1885.

410p. 24cm.

丸善のシールあり。

W189. W.W.189 198464.

J. Richards

"The economy of workshop manipulation."

London: E. & F. N. Spon. 1876.

171p. 19cm.

W190. W.W.190 198377.

A. H. Hiorns

"Steel and iron."

London: Macmillan and Co., Limited. 1903.

514p. 18cm.

W191. W.W.191 198479.

H. J. Skelton

"Economics of iron & steel."

(London): Biggs & Co. 出版年不明

344p. 19cm.

書籍商 Kelly & Walsh, Ltd. (横浜、61番館) のシールと思われるものがあり、その上に山を描いた紙が貼られている。

W192. W.W.192 198397.

J. S. Jeans

"Steel: its history, manufacture, properties, and uses."

London: E. & F. N. Spon. 1880.

860p. 23cm.

W193. W.X.193 198526.

B. Williamson

"An elementary treatise on the differential calculus. 3rd ed."

London: Longmans, Green, and Co. 1877.

416p. 19cm.

W194. W.X.194 198527.

B. Williamson

"An elementary treatise on the integral calculus. 3rd ed."

London: Longmans, Green, and Co. 1880.

375p. 20cm.

ダブリンの書籍商 William McGee のシールあり。

W195. W.X.195 198510.

I. Todhunter

"A treatise on the differential calculus. 4th ed."

Cambridge: Macmillan and Co. 1864.

404p. 20cm.

入手年月(?)、Dec. 1866.

入手場所(？)、Charles. D. West／Deanery house／Kevin street.

ダブリンの書籍商 William McGee のシールあり。

W196. W.X.196 198509.

I. Todhunter

"Plane trigonometry. 3rd ed."

Cambridge: Macmillan and Co. 1864.

279p. 19cm.

購入年月日（？）、5 Aug. 1865.

"Articles"としてページ数と思われる数字のメモが5行書き込まれている。

W197. W.X.197 198508.

I. Todhunter

"Algebra. 3rd ed."

Cambridge: Macmillan and Co. 1862.

542p. 19cm.

購入年月日(？)、May 29 1865.

W198. W.X.198 198472.

G. Salmon

"Lessons introductory to the modern higher algebra. 3rd ed."

Dublin: Hodges, Foster, and Co. 1876.

318p. 23cm.

ダブリンの書籍商 William McGee のシールあり。

ページが途中までしか切られていない。

W199. W.X.199 198503.

J. Thomson

"Elements of plane and spherical trigonometry. 3rd ed."

Belfast: Simms & M'Intyre. 1839.

123p. 22cm.

表側の遊び紙に "Dickinson／Oct. 1843." の書き込みあり。

表題紙に "James A Dickinson／October 1849" の書き込みあり。

数式と図の書かれたメモ用紙が挟み込まれている。

W200. W.X.200 198338.

H. Cox

"A rudimentary treatise on the integral calculus."

London: John Weale. 1852.

120p. 18cm.

購入年月日(?)、Jan 27 1868.

W201. W.X.201 198371.

J. Hann

"Examples on the integral calculus."

Virtoe Brothers & Co.

18cm.

購入年月日(?)、Jan 27 1868.

表の外表紙だけあり、本体はない。

W202. W.X.202 198367.

J. Haddon

"Examples and solutions in the differential calculus."

London: John Weale. 1851.

162p. 18cm.

表の表紙の裏に "John A Rupell" の署名あり。

W203. W.X.203 198432.

T. Muir

"A treatise on the theory of determinants."

London: Macmillan and Co. 1882.

240p. 19cm.

W204. W.X.204 198314.

G. Boole

"A treatise on differential equations. 4th ed."

London: Macmillan and Co. 1877.

496p. 20cm.

W205. W.Y.205 198304.

W. J. Baldwin

"Steam heating for buildings. 4th ed."

New York: John Wiley & Sons. 1883.

240p. 19cm.

W206. W.Z.206 198312.

J. L. Bishop

"A history of American manufactures from 1608 to 1860. Vol.1 3rd ed."

Philadelphia: Edward Young & Co. 1868.

702p. 24cm.

W207. W.Z.207 198418.

A. T. Mahan

"The life of Nelson; the embodiment of the sea power of Great Britain. vol. 1"

London: Sampson Low, Marston, & Company, Limited. 1897.

454p. 23cm.

購入年(?)、1897.

W208. W.Z.208 198418.

A. T. Mahan

"The life of Nelson; the embodiment of the sea power of Great Britain. vol. 2"

London: Sampson Low, Marston, & Company, Limited. 1897.

427p. 23cm.

購入年(?)、1897.

書籍商 Kelly & Walsh, Ld. (横浜・上海・香港・シンガポール) のシールあり。

W209. W.Z.209 198504.

W. Thomson

"Mathematical and physical papers. vol.1"

Cambridge: The University Press. 1882.

558p. 23cm.

購入年(?)、1883.

W210. W.Z.210 198504.

W. Thomson

"Mathematical and physical papers. vol.2"

Cambridge: The University Press. 1884.

407p. 23cm.

ページが切られていない。

W211. W.Z.211 198493.

G. G. Stokes

"Mathematical and physical papers. vol.1"

Cambridge: The University Press. 1880.

328p. 23cm.

丸善のシールあり。

W212 W.Z.212 198493.

G. G. Stokes

"Mathematical and physical papers. vol.2"

Cambridge: The University Press. 1883.

366p. 23cm.

丸善のシールあり。

W213 W.Z.213 198346.

A. P. Deschanel Translated and edited by J. D. Everett

"Elementary treatise on natural philosophy. Part 1: mechanics, hydrostatics, and pneumatics. 6th ed."

London: Blackie & Son. 1881.

256p. 23cm.

ダブリンの書籍商 William McGee のシールあり。

W214. W.Z.214 198346.

A. P. Deschanel Translated and edited by J. D. Everett

"Elementary treatise on natural philosophy. Part 2: heat. 6th ed."

London: Blackie & Son. 1881.

257−540p. 23cm.

ダブリンの書籍商 William McGee のシールあり。

W215 W.Z.215 198346.

A. P. Deschanel Translated and edited by J. D. Everett

"Elementary treatise on natural philosophy. Part 3: electricity and magnetism. 6th ed."

London: Blackie & Son. 1881.

545−859p. 23cm.

ダブリンの書籍商 William McGee のシールあり。

W216. W.Z.216 198346.

A. P. Deschanel Translated and edited by J. D. Everett

"Elementary treatise on natural philosophy. Part 4: sound and light. 6th ed."

London: Blackie & Son. 1882.

865−1148p. 23cm.

ダブリンの書籍商 William McGee のシールあり。

W217. W.Z.217 198456.

W. J. M. Rankine Edited by W. J. Millar

"Miscellaneous scientific papers."

London: Charles Griffin and Company. 1881.

567p. 23cm.

ウェスト記念図書であることを示す東京帝国大学附属図書館の用紙の貼付なし。

W218. W.Z.218 198395.

M. J. Jamin

"Cours de physique de L'ecole Polytechnique. Tome 1"

Paris: Mallet-Bachelier. 1858.

532p. 23cm.

購入年(?)、1867.

ダブリンの書籍商 William McGee のシールあり。

W219. W.Z.219 198395.

M. J. Jamin

"Cours de physique de L'ecole Polytechnique. Tome 2"

Paris: Mallet-Bachelier. 1859.

532p. 23cm.

W220. W.Z.220 198395.

M. J. Jamin

"Cours de physique de L'ecole Polytechnique. Tome 3"

Paris: Gauthier-Villars. 1866.

804p. 23cm.

購入年(?)、1867.

ダブリンの書籍商 William McGee のシールあり。

W221. W.Z.221 198359.

A. Ganot

"Traite elementaire de physique. 7e ed."

Paris: L'auteur-editeur. 1857.

822p. 19cm.

書き込みあり。

W222. W.Z.222 198368.

J. W. C. Haldane

"Civil and mechanical engineering."

London: E. & F. N. Spon. 1887.

442p. 22cm.

書籍商 Kelly & Walsh, Ltd. (横浜) のシールあり。

W223. W.Z.223 198444.

C. M .Percy

"The mechanical engineering of collieries. Vol.1"

London: "Colliery Guardian" Office. 1882.

228p. 26cm.

W224. W.Z.224 198410.

H. Law

"The rudiments of civil engineering. 6th ed."

London: Crosby Lockwood and Co. 1881.

638p. 19cm.

W225. W.Z.225 198396.

H. W. Jeans

"Navigation and nautical astronomy."

London: John Weale. 1853.

279p. 18cm.

W226. W.Z.226 198361.

W. E. Gibbs

"Lighting by acetylene. 2nd ed."

New York: D. Van Nostrand Company. 1899.

161p. 20cm.

W227. W.Z.227 198485.

W. W. Smyth

"A treatise on coal and coal-mining."

London: Virtue Brothers & Co. 1867.

253p. 21cm.

購入年(?)、1869.

W228. W.Z.228 198505.

R. H. Thurston

"Friction and lubrication."

London: Trubner and Co. 1879.

212p. 20cm.

購入年(?)、1883.

W229. W.Z.229 198437.

H. M. Noad

"A manual of chemical analysis."

London: Lovell Reeve & Co. 1864.

663p. 20cm.

購入年月(?)、March 1868.

書き込みあり。

W230. W.Z.230 198441.

D. Page

"Introductory text-book of geology. 7th ed."

Edinburgh: William Blackwood and Sons. 1867.

190p. 19cm.

書き込みあり。

W231. W.Z.231 198324.

J. F. Buchanan

"Brassfounders' alloys."

London: E. & F. N. Spon. 1905.

129p. 19cm.

W232. W.Z.232 198445.

J. Phillips

"A guide to geology. 5th ed."

London: Longman, Green, Longman, Roberts, & Green. 1864.

314p. 18cm.

ダブリンの書籍商 William McGee のシールあり。

W233. W.Z.233 198375.

J. F. W. Herschel

"Meteorology. 2nd ed."

Edinburgh: Adam and Charles Black. 1862.

288p. 18cm.

購入年(?)、1869.

W234. W.Z.234 198342.

J. D. Dana

"Manual of mineralogy. New edition."

London: Truebner & Co. 1864.

456p. 20cm.

購入年月日(?)、June 10, 1867.

書き込みあり。

W235. W.Z.235 198482.

A. Smith

"The blowpipe characters of minerals."

London: Williams & Norgate. 1862.

65p. 22cm.

メモ用紙が挟まれている。

W236. W.Z.236 198419.

G. C. Mahon

"The mineral agent's handbook."

London: Williams and Norgate. 出版年不明

66p. 23cm.

書き込みあり。

メモ用紙が挟まれている。

W237. W.Z.237 198462.

M. V. Regnault

"An Elementary treatise on crystallography."

London: Hippolyte Bailliere. 1848.

70p. 22cm.

購入年月日(?)、Feb 16. 1867.

W238. W.Z.238 198319.

R. H. Bow

"A treatise on bracing."

Edinburgh: Adam and Charles Black. 1851.

54p. 23cm.

旧蔵者と思われる John A Rupell というサインあり。

W239. W.Z.239 198515.

J. Tyndall

"Sound. 2nd ed."

London: Longmans, Green, and Co. 1869.

341p. 21cm.

"Charles D. West／From aunt Lucy／Christmas -69"の書き込みあり。

W240. W.Z.240 198513.

T. Tredgold Revised and partly re-written by J. T. Hurst

"Elementary principles of carpentry. 2nd ed."

London: E. & F. N. Spon. 1875.

517p. 48plates. 19cm.

購入年月(?)、Oct /76.

W241. W.Z.241 198446.

"Picture paragraphs."

London: C. Arthur Pearson Limited. 1907.

188p. 19cm.

W242. W.Z.242 198486.

P. Soames

"A treatise on the manufacture of sugar from the sugar cane."

London: E. & F. N. Spon. 1872.

136p. 25cm.

ページが切られていない。

W243. W.Z.243 198465.

J. Richards

"Mechanical humour."

London: George Richards. (1874)

150p. 19cm.

ロンドンの W. H. Smith & Son (書店?) の浮き印が押されている。

表神保町(東京・神田)の書店の中西屋国太郎のシールあり。

W244. W.Z.244 198468.

J. Rose

"The complete practical machinist. 6th ed."

Philadelphia: Henry Carey Baird & Co. 1881.

376p. 21cm.

購入年(?)、/82.

書店(?)のシールを剝がした跡あり。

W245. W.Z.245 198350.

J. Donaldson

"Rough working drawing for first-class engineers."

London: Charles Wilson. (1883)

78p. 17plates. 22cm.

W246. W.Z.246 198452.

R. A. Proctor Revised and corrected by T. E. Espin

"A new star atlas. 21st impression."

London: Longmans, Green, and Co. 1901.

36p. 14maps. 20cm.

W247. W.Z.247 198451.

R. A. Proctor

"Half-hours with the stars. New impression."

London: Longmans, Green, and Co. 1901.

22p. 12maps. 28×22cm.

W248. W.Z.248 198438.

"The Nordenfelt machine guns."

Portsmouth: Griffin & Co. 1884.

206p. 53plates. 32cm.

W249. W.Z.249 198323.

"Report of the 68th Meeting of the British Association for the Advancement of Science, held at Bristol in September 1898."

London: John Murray. 1899.

1096p. 22cm.

list of membersのP.99にウェストの入会年が1898年になっている。

W250. 請求番号なし 未登録（蔵書印・登記番号なし）

W. K. Burton

"Practical guide to photographic & photo-mechanical printing."

London: Marion and Co. 1887.

355p. 19cm.

W251. 請求番号なし 未登録（蔵書印・登記番号なし）

rediges par le secretaire general R. de Koevesligethy ／

redigiert vom Generalsekretaer R. von Koevesligethy

"Comptes rendus des seances de la deuxieme reunion de la commission permanente et de la premiere assemblee generale de l'Association Internationale de Sismologie, reunie a la Haye du 21 au 25 Septembre 1907 ／ Verhandlungen der vom 21 bis 25 September 1907 im Haag, abgehaltenen zweiten Tagung der permanenten Kommission und ersten Generalversammlung der Internationalen Seismologischen Assoziation."

283p. 32cm.

ページが切られていない。

## 2-2. ウエスト文庫目録（製本雑誌）

・ウエスト文庫（製本雑誌）は東京大学工学部機械系三学科図書室所蔵。
・W番号は推定をふくむ。

Transactions of the American Institute of Mining Engineers. (New York)

W252. 全1冊. 登録番号198303.

冊数内訳　1冊. Vol.22 1894

W番号明細

W252　Vol.22　1894

Proceedings. Institution of Mechanical Engineers. (London)

W253—W316. 全64冊. 登録番号は全冊198391.

冊数内訳
- 59冊. 1847—1907
- 1冊. List of Members.(1900—1907)
- 1冊. The Opening of the New Building.
- 1冊. General Index to Proceedings.(1885—1900)
- 1冊. Riveted Joints.
- 1冊. Library Catalogue & c.(1887)

W番号明細

W253　1847—1849

W254　1850—1851

W255　1852

W256　1853

W257　1854

W258　1855

W259　1856

| | |
|---|---|
| W260 | 1857 |
| W261 | 1858 |
| W262 | 1859 |
| W263 | 1860 |
| W264 | 1861 |
| W265 | 1862 |
| W266 | 1863 |
| W267 | 1864 |
| W268 | 1865 |
| W269 | 1866 |
| W270 | 1867 |
| W271 | 1868 |
| W272 | 1869 |
| W273 | 1870 |
| W274 | 1871 |
| W275 | 1872 |
| W276 | 1873 |
| W277 | 1874 |
| W278 | 1875 |
| W279 | 1876 |
| W280 | 1877 |
| W281 | 1878 |
| W282 | 1879 |
| W283 | 1880 |
| W284 | 1881 |
| W285 | 1882 |
| W286 | 1883 |
| W287 | 1884 |
| W288 | 1885 |
| W289 | 1886 |

W290 1887

W291 1888

W292 1889

W293 1890

W294 1891

W295 1892

W296 1893

W297 1894

W298 1895

W299 1896

W300 1897

W301 1898

W302 1899

W303 1900

W304 1901 Pt.1—2

W305 1901 Pt.3—4

W306 1902

W307 1903

W308 1907 Pt.1—2

W309? General Index to Proceedings.(1885—1900)

W310 List of Members.(1900—1907)

W311 1906

W312 1905

W313 1904

W314 The Opening of the New Building.(1899)

W315 Library Catalogue & c.(1887)

W316? Riveted Joints.

Transactions of the Seismological Society of Japan. (Yokohama)

W317—W321. 全5冊. 登録番号は全冊198475.

冊数内訳　5冊. Vol.1—15 1880—1890

W番号明細

| | | |
|---|---|---|
| W317 | Vol.1—3 | 1880—1881 |
| W318 | Vol.4—7 | 1882—1884 |
| W319 | Vol.8—10 | 1885—1887 |
| W320 | Vol.11—13 | 1887—1890 |
| W321 | Vol.14—15 | 1890 |

Cassier's Magazine. (London)

W322—W348. 全27冊. 登録番号は全冊198332.

冊数内訳
- 24冊. Vol.10—33 1896—1908
- 1冊. Vol.13 No.6, Vol.29 No.4, Vol.34 No.1 1898,1906,1908
- 1冊. Niagara & Marine Numbers.
- 1冊. Electric Railway Numbers.

W番号明細

| | | |
|---|---|---|
| W322 | Vol.10 | 1896 May — 1896 Oct. |
| W323 | Vol.11 | 1896 Nov.— 1897 April |
| W324 | Vol.12 | 1897 May — 1897 Oct. |
| W325 | Vol.13 | 1897 Nov.— 1898 April |
| W326 | Vol.14 | 1898 May — 1898 Oct. |
| W327 | Vol.15 | 1898 Nov.— 1899 April |
| W328 | Vol.16 | 1899 May — 1899 Oct. |
| W329 | Vol.17 | 1899 Nov.— 1900 April |
| W330 | Vol.18 | 1900 May — 1900 Oct. |
| W331 | Vol.19 | 1900 Nov.— 1901 April |
| W332 | Vol.20 | 1901 May — 1901 Oct. |

W333 Vol.21 1901 Nov.— 1902 April

W334 Vol.22 1902 May — 1902 Oct.

W335 Vol.23 1902 Nov.— 1903 April

W336 Vol.24 1903 May — 1903 Oct.

W337 Vol.25 1903 Nov.— 1904 April

W338 Vol.26 1904 May — 1904 Oct.

W339 Vol.27 1904 Nov.— 1905 April

W340 Vol.28 1905 May — 1905 Oct.

W341 Vol.29 1905 Nov.— 1906 April

W342 Vol.30 1906 May — 1906 Oct.

W343 Vol.31 1906 Nov.— 1907 April

W344 Vol.32 1907 May — 1907 Oct.

W345 Vol.33 1907 Nov.— 1908 April

W346? Vol.13 No.6, Vol.29 No.4, Vol.34 No.1 1898,1906,1908

W347? Niagara & Marine Numbers.

W348? Electric Railway Numbers.

The Engineer. (London)

W349—W400. 全52冊. 登録番号は全冊198354.

冊数内訳 ┌ 51冊. Vol.54—104 1882—1907
└ 1冊. Vol.105 No.2714,2717,2719 1908

W番号明細

W349 Vol.54 1882 July—Dec.

W350 Vol.55 1883 Jan.—June

W351 Vol.56 1883 July—Dec.

W352 Vol.57 1884 Jan.—June

W353 Vol.58 1884 July—Dec.

W354 Vol.59 1885 Jan.—June

W355 Vol.60 1885 July—Dec.

| | | |
|---|---|---|
| W356 | Vol.61 | 1886 Jan.—June |
| W357 | Vol.62 | 1886 July—Dec. |
| W358 | Vol.63 | 1887 Jan.—June |
| W359 | Vol.64 | 1887 July—Dec. |
| W360 | Vol.65 | 1888 Jan.—June |
| W361 | Vol.66 | 1888 July—Dec. |
| W362 | Vol.67 | 1889 Jan.—June |
| W363 | Vol.68 | 1889 July—Dec. |
| W364 | Vol.69 | 1890 Jan.—June |
| W365 | Vol.70 | 1890 July—Dec. |
| W366 | Vol.71 | 1891 Jan.—June |
| W367 | Vol.72 | 1891 July—Dec. |
| W368 | Vol.73 | 1892 Jan.—June |
| W369 | Vol.74 | 1892 July—Dec. |
| W370 | Vol.75 | 1893 Jan.—June |
| W371 | Vol.76 | 1893 July—Dec. |
| W372 | Vol.77 | 1894 Jan.—June |
| W373 | Vol.78 | 1894 July—Dec. |
| W374 | Vol.79 | 1895 Jan.—June |
| W375 | Vol.80 | 1895 July—Dec. |
| W376 | Vol.81 | 1896 Jan.—June |
| W377 | Vol.82 | 1896 July—Dec. |
| W378 | Vol.83 | 1897 Jan.—June |
| W379 | Vol.84 | 1897 July—Dec. |
| W380 | Vol.85 | 1898 Jan.—June |
| W381 | Vol.86 | 1898 July—Dec. |
| W382 | Vol.87 | 1899 Jan.—June |
| W383 | Vol.88 | 1899 July—Dec. |
| W384 | Vol.89 | 1900 Jan.—June |
| W385 | Vol.90 | 1900 July—Dec. |

| | | |
|---|---|---|
| W386 | Vol.91 | 1901 Jan.—June |
| W387 | Vol.92 | 1901 July—Dec. |
| W388 | Vol.93 | 1902 Jan.—June |
| W389 | Vol.94 | 1902 July—Dec. |
| W390 | Vol.95 | 1903 Jan.—June |
| W391 | Vol.96 | 1903 July—Dec. |
| W392 | Vol.97 | 1904 Jan.—June |
| W393 | Vol.98 | 1904 July—Dec. |
| W394 | Vol.99 | 1905 Jan.—June |
| W395 | Vol.100 | 1903 July—Dec. |
| W396 | Vol.101 | 1906 Jan.—June |
| W397 | Vol.102 | 1906 July—Dec. |
| W398? | Vol.103 | 1907 Jan.—June |
| W399 | Vol.104 | 1907 July—Dec. |
| W398(W400?) | Vol.105 No.2714,2717,2719 | 1908 |

## 2-3. ウェスト旧蔵ノート目録

・東京大学工学部機械系三学科図書室所蔵のウェスト旧蔵ノート19冊を「講義記録」「試験問題」「採点記録」「その他」の４種類にわけ、各種類のなかを古い方から並べた。
・①～⑲の番号はこの目録上で仮につけたもので、ノート自体にはついていない。
・ノートの外表紙に、ウェスト没後に整理のためつけたと思われる番号が貼付されているものがあるが、これについては「No.6」「No.なし」という形で記した。順番が何の順かは不明。
・使用されているノートが、工部大学校か帝国大学工科大学の大学ノートのものは［工部大学校の大学ノート］の形で記した。
・「講義記録」「試験問題」「採点記録」で、外表紙に西暦の下２桁しか記されていない等のものは上２桁・等を括弧にいれて補記した。
・「その他」のノートで時期を特定できるものは「（工部大学校時代）」の形で記した。
・「その他」のノートは、見返し等に年や地名等があるものはその年や地名等を記した。またノートのなかの文章等に年の記述のある部分を注記したが、記述されている年がウェストが実際に記述している現在の年と同じでない（過去の年の）ものもふくまれている。
・大きさは、縦、横の順で記した。

《講義記録》

① No.なし　Epitome of Lectures.　1890―1895
23.8 × 18.7 cm
［帝国大学工科大学の大学ノート］

② No.なし　Epitome of Lectures.　1895—1900

23、7 × 19、5 cm

[帝国大学工科大学の大学ノート]

③ No.6　Epitome of Lectures.　1900—1905 March 3.

23、7 × 19、3 cm

[帝国大学工科大学の大学ノート]

④ No.なし　Epitome of Lectures.　March 6. 1905—(Dec)1907

23、6 × 18、6 cm

《試験問題》

⑤ No.7　Examination Papers.　Dec.(18)82—March (18)86

23、7 × 18、2 cm

[工部大学校の大学ノート（青色）]

⑥ No.なし　Examination Papers.　Dec.(18)86—June (18)91

23、7 × 18 cm

[工部大学校の大学ノート]

⑦ No.なし　Examination Papers.　Dec.(18)91—June (19)01

23、5 × 18、1 cm

[帝国大学工科大学の大学ノート]

⑧ No.8　Examination Papers.　Dec.1901—(Dec 1907)

23、8 × 18、9 cm

[帝国大学工科大学の大学ノート]

《採点記録》

⑨ No.9　(Examination Marks) (1882—1891)

20 × 15、8 cm

外表紙の内側に "W. CARSON ／ BOOKSELLER & STATIONER ／ 51, GRAFTON ST., CORNER OF STEPHENS GREEN ／ DUBLIN" という楕円形のスタンプ（縦2,4cm、横3,6cm）が押されている。

⑩ No.11　Examination Marks. Dec.(18)91—June 1900

23、8 × 18、5 cm

[帝国大学工科大学の大学ノート]

⑪ No.10　Examination Marks. Dec.1900 to June 1906

23、7 × 19 cm

[帝国大学工科大学の大学ノート]

《その他》

⑫ No.16　July 1866 の日付あり。（学生時代）。

（小型）。

16、1 × 10 cm

⑬ No.なし　October 25. 1867 の日付あり。（学生時代？）。

外表紙に "VOL.Ⅲ." とある。（濃いエビ茶色、小型）。

17、4 × 11、5 cm

⑭ No.なし　Jan 20. 1868 の日付あり。（学生時代？）。
（濃紺、小型）。
17、4 × 11、5 cm

⑮ No.4　August 1868 の日付あり。（少なくとも最初は学生時代？）。
23、6 × 19 cm
新聞・雑誌の切り抜きが挟まれている（『Engineering』July 3. 1891）（『The Japan Gazette』August 20th. 1883）（紙名不明 September 27. 1893）。359頁の文中（中央よりすこし下）には "See Engineer July/31/85 P.96" という記述がある。
うしろに Index がつくられており、内容とページの検索ができる。

⑯ No.1　Sept 1874. Birkenhead の日付・地名あり。（造船所時代）。
32、2 × 20 cm
彩色した図・等あり。
外表紙の内側に "MANUFACTURED BY THE LIVERPOOL PRINTING & STATIONARY COMPANY, LIMITED. 38, CASTLE STREET, LIVERPOOL." と印刷されたシール（縦2,7cm、横5,0cm）が貼付されている。

⑰ No.5　Tokio. Aug 15／82 の地名・日付あり。（来日後、工部大学校時代）。
24、2 × 20 cm
126頁に 28th May 1884 の日付あり。
127頁に 29th April 1884 の日付あり。
外表紙の内側に "SOLD BY PARTRIDGE & COOPER, Wholesale & Retail Stationers AND ACCOUNT BOOK MANUFACTURES ／ 1 & 2, Chancery Lane, & 191 & 192, Fleet Street, LONDON. ／ N.B. All Books manufactured on the premises, by experienced Workmen, with the latest improvements in Binding, &c. ／ ESTIMATES GIVEN FOR ACCOUNT, AND OTHER BOOKS. ／ THE LARGEST, CHEAPEST, & BEST

ASSORTED STOCK OF STATIONERY IN THE WORLD.”と印刷された紙（縦11,6cm、横8,4cm）が貼付されている。

⑱ No.12　Kobu Dai Gakko. Tokei. Sept. の校名・地名・月あり。（工部大学校時代？）。

外表紙に”2”とある。

20、5 × 13 cm

⑲ No.13　（来日後？）

外表紙に”3”とある。

20、4 × 13 cm

44頁の左上にEngineer.Ap12/95.とある（書き抜き？）。

56頁の文のはじめの方に、1869や1877の年が入っている（文章中）。

69頁の左上 Sept 6/07 の日付あり（雑誌の号の日付のよう）。

72頁の左にも ap/96 の日付（雑誌の号の日付のよう）。

78頁の左にも　/97 の日付（雑誌の号の日付のよう）。

## 3．資料篇


ページ

3-1．ウエスト肖像 ---------- 153
(明治38年7月東京帝国大学機械工学科卒業記念写真帖)

3-2．ウエスト肖像（『機械学会誌』明治41年2月） ---------- 154

3-3．ウエスト胸像、沼田一雅作（東京大学工学部構内） ---------- 155

3-4．ウエスト墓（正面・背面）（東京都立青山霊園外人墓地） ---------- 156

3-5．ウエスト撮影「帝国大学三崎臨海実験所」（『動物学雑誌』） ---------- 158

3-6．ウエスト文庫蔵書票 ---------- 159

3-7．C.D.West『Amsler's integrator applied to some calculations in naval architecture』、1885年、工部大学校刊 ---------- 160

3-8．C.D.West『Theoretical indicator diagrams for compound engines』、1885年、工部大学校刊 ---------- 186

3-9．C.D.West「Suggestions for a new type of seismograph」 ---------- 211
(日本地震学会英文報告、1883年)

3-10．J.A.Ewing「On certain methods of astatic suspension」 ---------- 215
(日本地震学会英文報告、1883年)

3-11．T.Alexander「Notes on the ball and cup seismograph」 ---------- 218
(日本地震学会英文報告、1883年)

3-12．J.Milne「Seismic experiments (Intensity of movement)」 ---------- 219
(日本地震学会英文報告、1885年)

3-13．井口在屋「故チャールス・ヂッキンソン・ウエスト先生の伝」 ---------- 224
(『機械学会誌』)

3-14．「履歴書」（外務省外交史料館所蔵） ---------- 227

3-15．海軍大学校「帝国大学雇教師英国人ウエストニ教程取調嘱託ノ件」
(防衛庁防衛研究所図書館所蔵) ---------- 230

3-16．ウエスト死亡広告（『東京朝日新聞』明治41年1月13日） ---------- 233

3-17．ウエスト勲４等叙勲文書（国立公文書館所蔵） ---------- 234

3-18．ウエスト勲３等叙勲文書（国立公文書館所蔵） ---------- 239

3-19．ウエスト勲２等叙勲文書（国立公文書館所蔵） ---------- 245

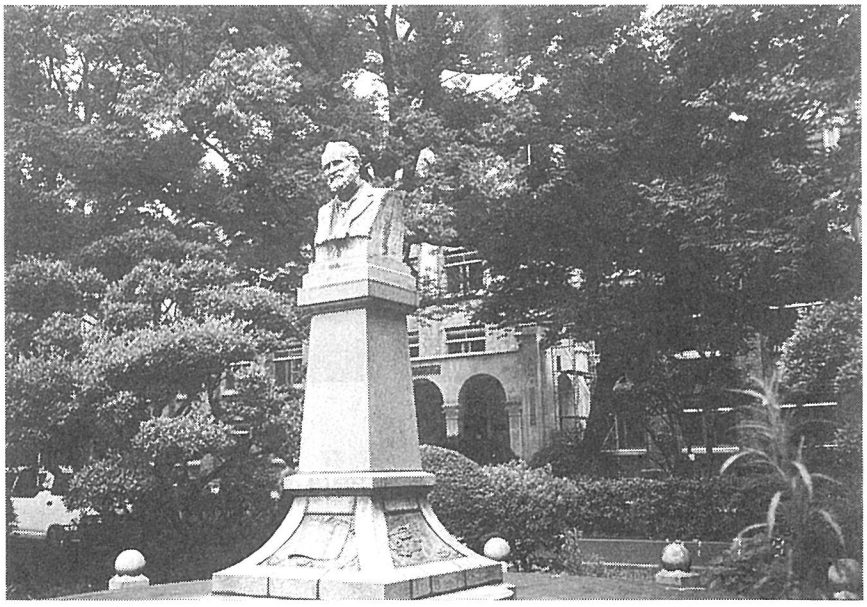
## 3-3. ウェスト銅像 （東京大学工学部構内）

胸像、沼田一雅･作

台座、コンドル設計

台座付属のパネル、沼田一雅･作

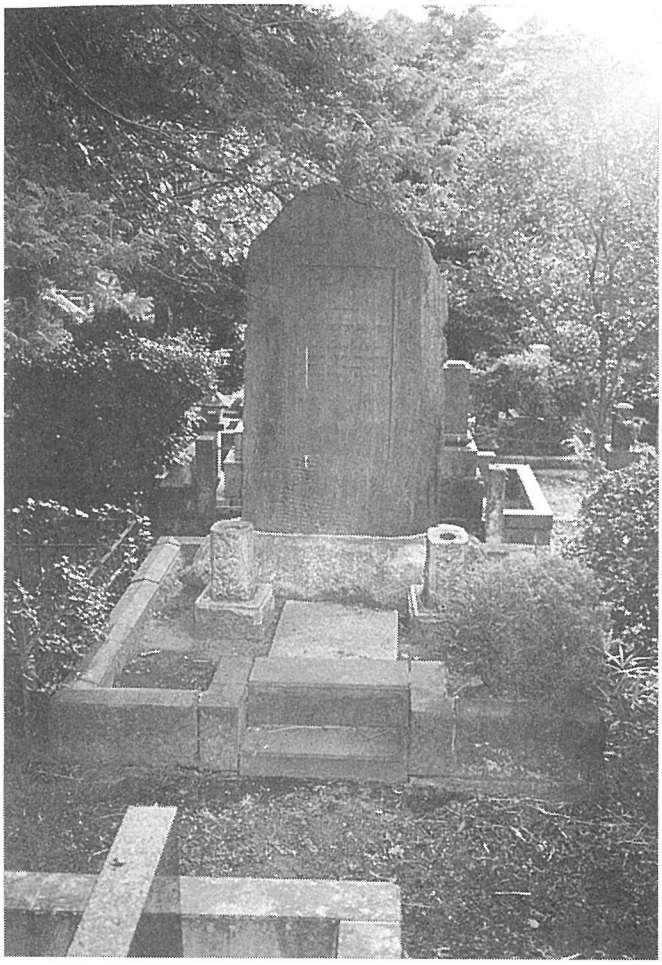
除幕式、明治43年3月19日



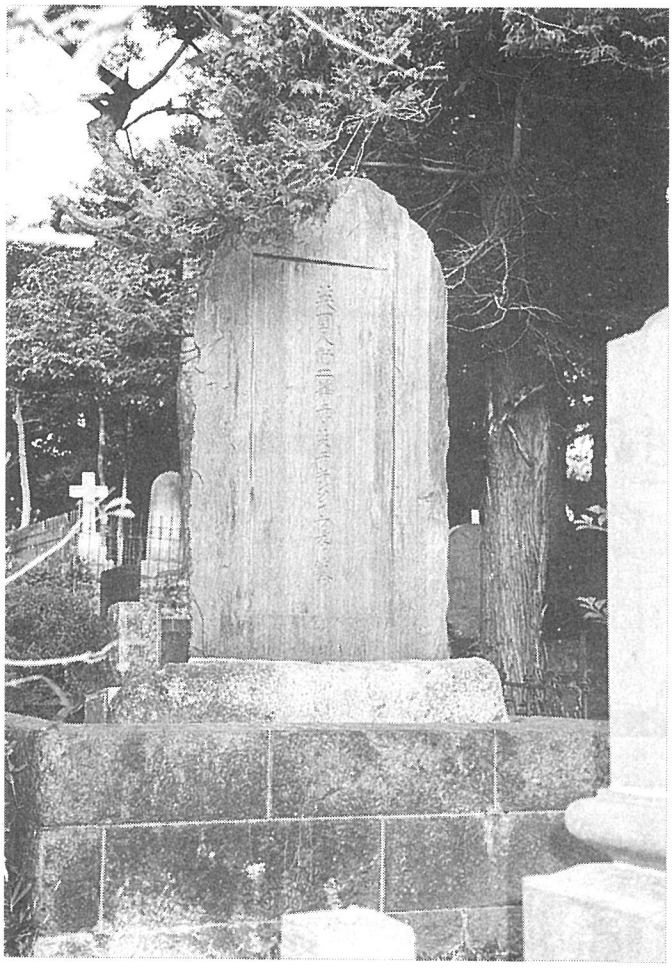
## 3-4. ウェスト墓

（東京都立青山霊園外人墓地）

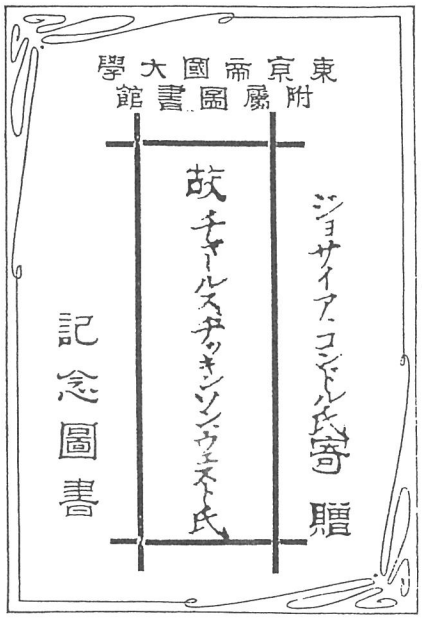
墓の正面



墓の背面



## 3-6. ウエスト文庫蔵書票



N.S.157

この『御雇外国人教師ウェスト資料集』の複写については、全体の二分の一以上や部数が複数の複写であっても滝沢の許諾なしに自由に複写していただいてかまいません。

ⓒ 1998

『御雇外国人教師ウェスト資料集』

編集・発行　滝沢正順（たきざわ まさのり）

発行日　1998年3月

発行地　東京

# 正誤表

| 誤 | 正 |
| --- | --- |
| 外表紙2行目<br>総集・発行　滝沢正順 | 編集・発行　滝沢正順 |
| 23ﾍﾟｰｼﾞ下から7行目<br>質問ニテモ媚々説明シ | 質問ニテモ媚々説明シ |
| 69ﾍﾟｰｼﾞ下から4行目<br>monument to te late Prof. | monument to the late Prof. |
| 73ﾍﾟｰｼﾞ下から5行目<br>３年生になったきと | ３年生になったときと |
| 234ﾍﾟｰｼﾞ1-2行目<br>3-17.ウェスト勲４等叙勲文書<br>（国立公文書館所蔵） | 3-17.ウェスト勲４等叙勲文書<br>「帝国大学雇工科大学教師英吉利国人チャールス、ヂッキンソン、ウエスト叙勲ノ件」<br>（国立公文書館所蔵） |
| 239ﾍﾟｰｼﾞ1-2行目<br>3-18.ウェスト勲３等叙勲文書<br>（国立公文書館所蔵） | 3-18.ウェスト勲３等叙勲文書<br>「東京帝国大学工科大学雇教師英国人勲四等チャールス、ヂッキンソン、ウエスト勲位進級ノ件」（国立公文書館所蔵） |
| 245ﾍﾟｰｼﾞ1-2行目<br>3-19.ウェスト勲２等叙勲文書<br>（国立公文書館所蔵） | 3-19.ウェスト勲２等叙勲文書<br>「東京帝国大学工科大学教師英吉利国人勲三等チャールス、ヂッキンソン、ウェスト叙勲ノ件」（国立公文書館所蔵） |